



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

日本学術会議活動報告 (令和3年10月～令和4年9月)

Annual Report 2022

年次報告 第2編活動報告

令和4年 10 月 1 日

日 本 学 術 会 議

日本学術会議活動報告（令和3年10月～令和4年9月）

第2編 活動報告 目次

1. 日本学術会議の概要（組織の概要と改革）	…	1 頁
2. 組織ごとの活動報告		
(1) 総会	…	2 頁
(2) 幹事会	…	4 頁
(3) 幹事会附置委員会	…	5 頁
(4) 連絡会議	…	9 頁
(5) 部	…	12 頁
(6) 機能別委員会	…	15 頁
(7) 課題別委員会	…	31 頁
(8) 分野別委員会	…	38 頁
(9) 部が直接統括する分野別委員会合同分科会	…	198 頁
(10) 地区会議	…	204 頁
(11) 若手アカデミー	…	208 頁

1. 日本学術会議の概要（組織の概要と改革）

(1) 経緯

日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的として、昭和24年1月、内閣総理大臣の所轄の下、「特別の機関」として設立されました。

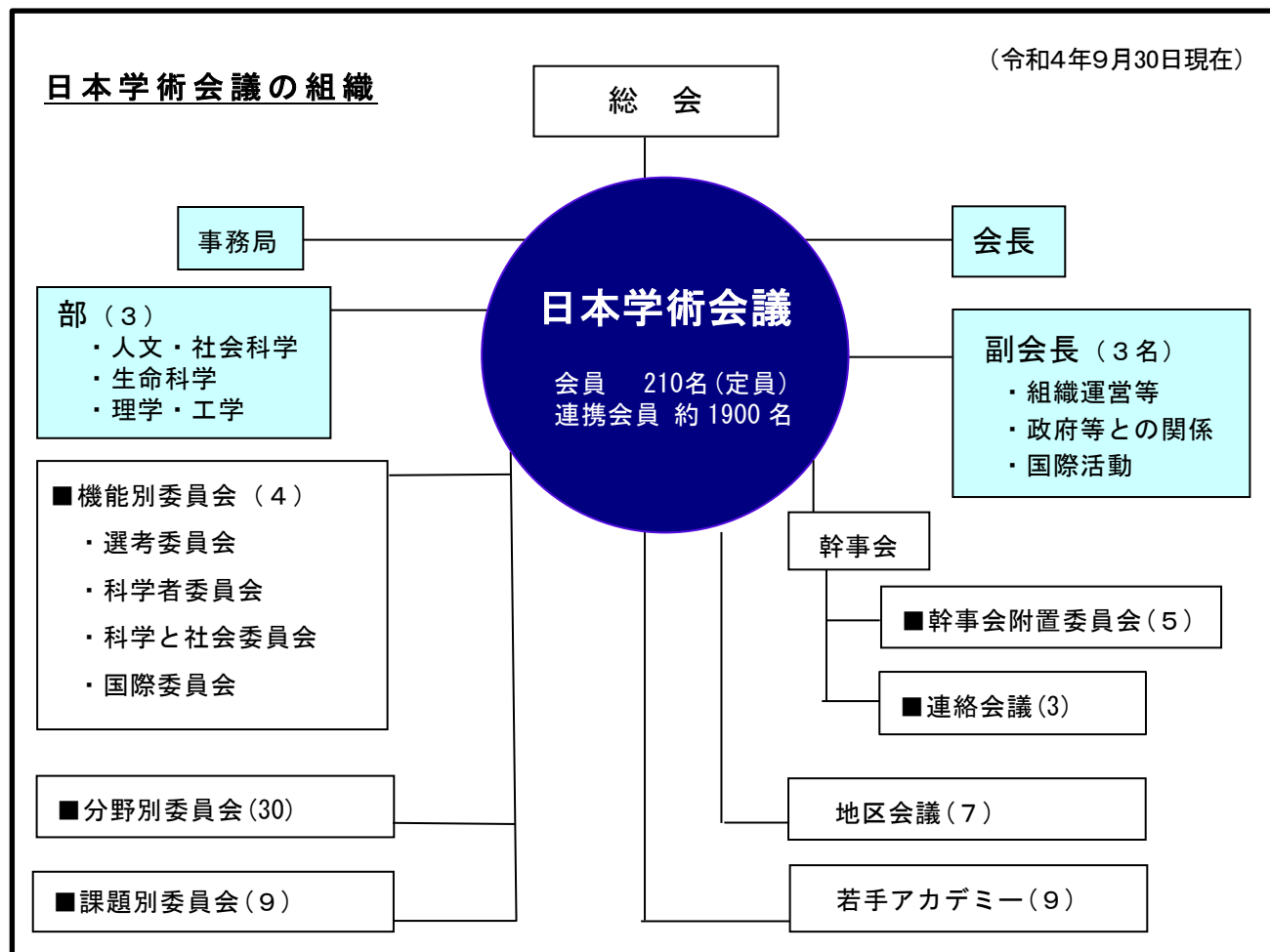
その後、平成13年の中央省庁改革に伴い、総務省に移管されましたが、平成16年に「日本学術会議法の一部を改正する法律」が成立したことを受け、平成17年4月に内閣府に移管されました。同年10月には同法が完全施行され、会員選考方法の変更、定年制の導入、7部制から3部制への移行、連携会員の新設等を内容とする改革が実施され、現行の体制が発足しました。

(2) 組織

日本学術会議は、内閣総理大臣から任命された210名（定員）の会員と日本学術会議会長から任命された約1,900名の連携会員で構成されています。

会員・連携会員の任期は6年で、3年ごとにその半数が改選されることとされています。

日本学術会議には、法の委任の下に意思決定を行う幹事会、3つの部（第一部に人文・社会科学、第二部に生命科学、第三部に理学・工学）、4つの機能別委員会及び30の分野別委員会、課題別委員会等が設置されています。また、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的に7つの地区会議が、若手科学者の連携を図り、その活動を通じて学術の振興に寄与することを目的に45歳未満の会員又は連携会員で構成される「若手アカデミー」が、それぞれ設置されています。



2. 組織ごとの活動報告

(1) 総会

総会

名称 総会
－第183回総会（令和3年12月2日～3日）－ （12月2日） ・小林鷹之内閣府特命担当大臣（科学技術政策）より御挨拶をいただく。 ・第183回総会及び部会におけるオンライン参加の併用の承認を議決。 ・会長、各副会長、各部部長、若手アカデミー代表より、活動報告。 ・会員任命問題について会長より説明。 ・総合的・中長期的課題（カーボンニュートラル、パンデミックと社会、研究力強化、国際活動）について討議を実施。 ・提言見直し、会員選考見直し、会則改正について審議。 ・幹事会を開催。 （12月3日） ・「政府と日本学術会議の新たな関係構築に向けての要望書」について審議。 ・総合的・中長期的課題（カーボンニュートラル、パンデミックと社会、研究力強化、国際活動）について議論。 ・幹事会及び各部会を開催。 －第184回総会（令和4年4月18日～19日）－ （4月18日） ・小林鷹之内閣府特命担当大臣（科学技術政策）より御挨拶をいただく。 ・第184回総会及び部会におけるオンライン参加の併用の承認を議決。 ・会長、各副会長、各部部長、若手アカデミー代表、連絡会議代表より、活動報告。 ・会員任命問題について会長より説明。 ・外部評価有識者から外部評価書、会長から外部評価書に対する見解を報告。 ・次期の日本学術会議会員候補者の選考方針について審議。 ・幹事会及び各部会を開催。 （4月19日） ・研究力強化（審議依頼関係）、オープンサイエンス（審議依頼関係）、未来の学術振興構想、日本学術会議における分科会活動について討議を実施。 ・日本学術会議栄誉会員に栄誉会員記を授与。 ・次期の日本学術会議会員候補者の選考方針について審議。 ・幹事会及び各部会を開催。 －第185回総会（令和4年8月10日）－ ・小林鷹之内閣府特命担当大臣（科学技術政策）より御挨拶をいただく。 ・第185回総会におけるオンライン参加の併用の承認を議決。

- ・ 会長より、会員任命問題について説明。
- ・ 学術会議の在り方に関する政府の検討状況について事務局より説明。
- ・ 研究インテグリティに関する報告を実施。
- ・ 「雇止め」問題に関する幹事会声明について議論。

(2) 幹事会

幹事会

名称 幹事会	
幹事会構成員 四 役 梶田 隆章 会長、望月 眞弓 副会長、菱田 公一 副会長、高村 ゆかり 副会長 第一部 橋本 伸也 部長、溝端 佐登史 副部長、小林 傳司 幹事、日比谷 潤子 幹事 第二部 武田 洋幸 部長、丹下 健 副部長、尾崎 紀夫 幹事、神田 玲子 幹事 第三部 吉村 忍 部長、米田 雅子 副部長、沖 大 幹 幹事、北川 尚美 幹事	
審議経過	主要な決定事項は以下のとおり。 ・各委員会等委員（連携会員（特任）を含む）の決定。 ・各委員会等の運営要綱の決定及び改正。新規設置は、3 機能別委員会分科会、1 同小委員会、6 分野別委員会分科会小委員会、1 同合同分科会、1 同合同分科会小委員会、1 課題別委員会分科会、1 同小委員会。 ・意思の表出について、回答 1 件、報告 2 件を承認。 ・日本学術会議分野別委員会及び分科会について等規則関係の決定及び改正。 ・令和 3 年度及び令和 4 年度共同主催国際会議等の取り扱いの決定。 ・令和 3 年度代表派遣実施計画、その他の国際会議や海外アカデミーとの意見交換等に係る派遣についての承認。 ・日本学術会議協力学術研究団体の指定。 ・各地区会議の運営協議会委員の追加の決定。 ・日本学術会議主催学術フォーラム、委員会等主催シンポジウム等の開催の承認（146件）。 ・国内会議・国際会議の後援の承認（国内会議39件、国際会議 3 件）。 ・日本学術会議幹事会声明を幹事会として決定。 ・「日本学術会議総会におけるオンライン併用についての考え方」を幹事会として決定。 ・外部機関からの依頼に対する委員候補者の承認。 ・賞候補者の推薦。 ・連携会員の辞職の承認に同意。
開催状況	令和 3 年 10 月 28 日、11 月 25 日、12 月 2 日、12 月 3 日、12 月 24 日、令和 4 年 1 月 27 日、2 月 24 日、3 月 24 日、4 月 6 日、4 月 18 日、4 月 19 日、5 月 25 日、6 月 29 日、7 月 27 日、8 月 1 日、8 月 30 日、9 月 28 日

(3) 幹事会附置委員会



外部評価対応委員会					
委員長	梶田 隆章	副委員長	菱田 公一	幹事	日比谷 潤子、丹下 健
主な活動	審議内容				
	- 外部評価対応委員会委員から外部評価有識者に対し、令和3年度年次報告書等に基づき、令和2年10月～令和3年9月の日本学術会議の活動状況について説明 - 外部評価有識者からの意見聴取及び意見交換 - 令和4年4月総会において、長谷川眞理子外部評価有識者座長より外部評価書について説明				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第2回（令和4年2月16日）				
今後の課題等	令和3年10月～令和4年9月の日本学術会議の活動状況に関する外部評価のための準備				

広報委員会					
委員長	菱田 公一	副委員長	松下 佳代	幹事	狩野 光伸 所 千晴
主な活動	審議内容				
	学術会議全体としての広報に関する事項				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年2月15日（科学と社会委員会との合同開催）、4月20日				
今後の課題等	日本学術会議の広報発信力の強化のために、対象となるステークホルダー（国民、研究者、政府・行政関係者、報道関係者など）に応じた広報と情報発信の方策について検討を行うとともに、学術会議の広報部署の強化についての検討を行う。				

広報委員会（「学術の動向」編集分科会）					
委員長	所 千晴	副委員長	高山 弘太郎	幹事	
主な活動	審議内容				
	日本学術協力財団の『学術の動向』編集委員会と連携して同誌の内容及び編集方針について審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	『学術の動向』の発行そのものが、学術会議全体の意思の表出と深くかかわっており、本委員会として別個の意思の表出は考えていない。				
	開催シンポジウム等				
	本委員会としてのシンポジウム等の開催は当面考えていない。				
開催状況	令和3年12月6日、令和4年3月4日、4月5日、8月5日、9月29日 ※なお、編集の細部について随時メール審議を実施している。				
今後の課題等	令和5年4月から季刊化することとし、より魅力的な新生『学術の動向』となるように審議を重ねている。企画や編集には多様な意見が必要であり、引き続き内外との連携強化が課題である。				

広報委員会（国内外情報発信強化分科会）					
委員長	狩野 光伸	副委員長	岸村 顕広	幹事	
主な活動	審議内容				
	・報道機関経験者を広報に関する日本学術会議アドバイザーとして推薦した。 ・広報委員会、同役員会、同アドバイザーとともに、発信力強化の方策を検討し、可能なところから実施。具体的には、会長インタビューの録画編集掲載、感染症・カーボンニュートラル・国際基礎科学年といった、部横断的な連絡会議の内容について、ホームページ掲載内容の検討・作成また動画作成を行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年2月15日（広報委員会と同時開催）				
今後の課題等	発信力強化のためのホームページ全体のリニューアルについて、検討している。				

地方学術会議委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長	石塚 真由美	幹事	岸村 顕広
主な活動	審議内容				
	第25期における地方学術会議の開催について、令和4年2月に開催された「日本学術会議 in 福岡」の開催報告、また「日本学術会議 in 宮城」を11月に開催することを決定した。 また、地方学術会議の今後の進め方についての審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	日本学術会議 in 福岡（令和4年2月23日）において幹事会懇談会及び公開学術講演会（若手研究者が考える地方創生と学術の未来）を開催した。				
開催状況	令和4年6月3日				
今後の課題等	地方学術会議の今後の進め方について				

財務委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	・学術会議に係る予算執行のうち重要な事項（審議に係る予算執行）について審議を行うため設置。主に各年度の予算配分及び予算執行管理を行う。 ・今期は委員会を2回開催し、令和4年度審議等予算の配分の決定や令和3年度決算及び令和4年度の予算執行について議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年3月4日、6月13日（いずれもオンライン開催）
今後の課題等	会員と事務局間で緊密な連携を図り、予算執行状況を適宜情報共有して予算逼迫を防ぐとともに、必要に応じて再配分を行うなど、効率的な予算執行を行う。

科学的助言等対応委員会					
委員長	菱田 公一	副委員長	溝端 佐登史	幹事	丹下 健、米田 雅子
主な活動	審議内容				
	・部、委員会、分科会又は若手アカデミーが作成する意思の表出の案について助言すること。 ・勧告、答申、要望、声明、提言又は回答の案を査読すること。 ・見解の案を審議し、承認すること。 ・部、委員会（分野別委員会を除く。）又は若手アカデミーが作成する報告の案を審議し、承認すること、 ・勧告、要望、声明、提言又は見解に関する事後的な評価の報告を受けること。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回（令和4年1月13日）、第2回（4月20日）、第3回（7月26日）				
今後の課題等	引き続き適時適切な意思の表出がなされるよう実効的な助言に努める。				

(4) 連絡会議

カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議

「持続可能な発展のための国際基準科学年2022」(IYBSSD2022)連絡会議

パンデミックと社会に関する連絡会議

カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	吉村 忍	幹事	
主な活動	審議内容 本連絡会議は、カーボンニュートラルについて、中長期的な視覚を持って、学術の諸領域が連携・協働し、総合的・俯瞰的な検討を進めている。80 を超える委員会・分科会等から構成されており、運営をするためのワーキンググループ（WG）を設置し、WG が中心となって月に 1 回程度会議を開催し活動している。 令和 4 年 3 月、本連絡会議が主催する第 1 回学術フォーラムを開催し、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書の説明を受け、カーボンニュートラルに関する課題を改めて認識した。また、同時期にホームページを立ち上げ、カーボンニュートラルに関する俯瞰図、連絡会議構成員の審議内容等について、情報の発信を開始した。 https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/carbon_n/index.html 令和 4 年 6 月に第 2 回連絡会議を開催し、これまでの取組と今後の進め方を構成員に確認するとともに、文部科学省、経済産業省及び環境省から各省における施策について説明を聴取した後、意見交換を行った。 また、Gサイエンス学術会議 2022（ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナが主催）の共同声明では、脱炭素化に関し、①カーボンニュートラルで強靱なエネルギーシステムの構築、②世界的に公正なエネルギー転換に向けた国際協力の強化、③気候リテラシーと市民参加の強化、④気候中立に向けた研究、技術革新、社会的革新の推進について提言した。さらに、令和 4 年 1 月 31 日、2 月 2 日に持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2021 では、「ネットゼロ・エミッションー達成に向けた学術の役割ー」をテーマに開催した。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 令和 4 年 3 月 13 日、学術フォーラム「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦 システムの転換を目指して」を開催。				

開催状況	連絡会議：第2回（令和4年6月21日） WG：第5回（令和3年10月22日）、第6回（11月20日）、第7回（12月8日）、第8回（12月23日）、第9回（令和4年1月5日）、第10回（2月9日）、第11回（3月29日）、第12回（4月22日）、第13回（5月24日）、第14回（7月11日）、第15回（8月29日）
今後の課題等	・令和4年度内における学術フォーラムを2回開催 ・ホームページにおける専門家からの短編動画配信の拡大 ・『学術の動向』令和5年1月号の大特集への掲載 ・英国王立協会との科学技術対話（令和4年11月3日）

「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」（IYBSSD2022）連絡会議					
委員長	野尻 美保子	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容 国連の決議により、2022年6月30日から一年間を持続的発展のための基礎科学年とすることとなった。国内では、日本学術会議がローカルノードとなったことから、連絡会議を設置し、国際基礎科学年の趣旨の周知、関連イベントの広報や、キックオフフォーラムの開催等などの活動を行っている。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 令和4年7月29日 日本学術会議学術フォーラム「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」				
開催状況	令和3年11月12日 第1回連絡運営会議 運営WG、広報WG、フォーラムWGの設置等 令和4年10月26日 第2回連絡運営会議 サイエンスアゴラ企画の承認、フォーラムの報告、PV・メッセージビデオ報告、参加委員会・分科会の活動報告WG開催 令和4年1月15日 ロゴ配布方法、フォーラムの開催（日程）広報の方法について 1月24日、2月14日 広報の方針、フォーラム、web page等について 3月12日 キックオフフォーラム登壇者報告、フォーラム構成案について 5月9日 イメージビデオについて、メッセージについて、協賛機関等について 6月27日 フォーラム当日運営、ポスター原稿・PV・メッセージビデオ進行状況報告について				
今後の課題等	サイエンスアゴラの企画の運営、クロージングフォーラムについての議論、分科会の活動の発信の強化				

パンデミックと社会に関する連絡会議					
世話人	望月 眞弓	世話人補佐	武田 洋幸		
主な活動	審議内容				
	・「医療・研究体制」及び「社会変革」という2つの大テーマを定めた。そのうち「医療・研究体制」において、「平時・緊急時の臨床・疫学・基礎研究の体制」にかかるWGを起ち上げ、「将来的なパンデミックに備えた平時からの体制作り」という観点から、「臨床研究」、「疫学研究」、「基礎研究」をキーワードに意見交換を行った。 ・臨床、疫学、基礎研究の分野にかかる産学の関係者に対してヒアリングを実施した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「平時・緊急時の臨床・疫学・基礎研究の体制」のワーキンググループでは、上記審議内容を取りまとめ、「報告」として発出予定。				
	開催シンポジウム等				
	・「コロナ禍を共に生きる #3 パンデミックに世界はどう立ち向かうのか～国際連携の必然性と可能性～」(令和3年10月23日) ・「コロナ禍を共に生きる #4 新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」(令和4年2月5日) ・「コロナ禍を共に生きる #5 感染症をめぐる国際政治のジレンマ 科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯」(令和4年2月6日) ・「コロナ禍を共に生きる #6 ウィズ／ポストコロナ時代の民主主義を考える：「誰も取り残されない」社会を目指して」(令和4年3月15日) ・「コロナ禍を共に生きる #7 新型コロナウイルス感染症のレジストリ研究の現状と今後の方向性 医療情報の収集と活用による対策について」(令和4年5月28日) ・「コロナ禍を共に生きる #8 コロナパンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？」(令和4年9月2日)				
開催状況	・WG等開催：令和3年10月21日、11月24日、12月1日、12月6日、12月15日、12月29日、令和4年1月19日、2月9日、4月7日、5月16日、6月30日、9月1日、9月29日 ・産学の関係者に対してヒアリング開催：令和4年3月1日、3月16日、3月23日、3月30日				
今後の課題等	「社会変革」の分野についても再アンケートを実施し、ワーキングの必要性および第26期に向けて継続的な活動が必要なテーマについて検討する。				

(5) 部

第一部

第二部

第三部

第 一 部			
部長	橋本 伸也	副部長	溝端 佐登史
幹事	小林 傳司、日比谷 潤子		
主要な活動	審議内容		
	会員任命問題に関する件、日本学術会議のあり方に関する件、人文・社会科学の役割と振興に関する件、第一部の国際活動に関する件、ウクライナ戦争と学術に関する件、第一部における「意思の表出」査読体制に関する件など。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	なし		
	開催シンポジウム等		
	なし		
開催状況	第4回部会（令和3年12月3日） 第5回部会（令和4年4月18、19日） 第6回部会（令和4年8月22日）		
今後の課題等	今後、部内の分野別委員会・分科会から発出される「見解」、「報告」等の査読に関する業務を円滑に行う必要がある。		

第 二 部			
部長	武田 洋幸	副部長	丹下 健
幹事	尾崎 紀夫、神田 玲子		
主要な活動	審議内容		
	第二部が関与する学術領域である生命科学は、生命を理解する知を体系化し、その基盤を構築するとともに、人類の福祉・社会の進歩に貢献することを目的とする学問である。第二部附置の分科会として、生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会は第 24 期に続いて設置されている。新型コロナウイルス感染症については、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会で精力的に審議するとともに、パンデミックと社会に関する連絡会議へ参画しつつ、関連する部や学協会等と連携し、タイムリーな学術情報の発信や議論の喚起を行ってきている。また、新たに、着床前診断、特に PGT-M に関する検討分科会を設置した。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	審議の進捗により、分科会等または部としての提言・見解・報告を予定。		
	開催シンポジウム等		
	第 25 期がスタートした令和 4 年 10 月以来、シンポジウム等は 42 件開催された（9 月末時点）。新型コロナウイルス感染症に関するテーマが多くなっており、コロナ禍に関連する課題を中心に科学者コミュニティおよび国民との対話を進めている。		
開催状況	部会：令和 3 年 12 月 3 日、令和 4 年 4 月 18 日、8 月 20 日（夏季部会） 拡大役員会：令和 4 年 2 月 21 日、6 月 17 日		
今後の課題等	第二部が対象とする生命科学は、人類の健康と福祉に直結し、さらにヒトを含めた生物の深い理解を通して、人類を包含する生態系、地球環境の維持へも重要な知見を提供する。生命科学の学術としての健全な発展のために、それぞれの専門分野にとらわれない横断的審議を行って、俯瞰的視野と実効性を備えた意思の表出につなげたい。 新型コロナウイルス感染症に関しては、引き続き、パンデミックと社会に関する連絡会議と連携しつつ、タイムリーな学術情報の発信を行うとともに、必要な意思の表出を行っていく。生命科学分野とも関連する社会的課題、例えばカーボンニュートラルや地球温暖化等の審議にも、部として積極的に関与していく。 「第 25 期の第二部査読体制」に基づき、生命科学分野の科学的助言機能の強化に一層努めていく。また、新型コロナウイルス感染症以外の社会的課題、例えばカーボンニュートラル、地球温暖化などの審議にも第二部として積極的に関与していく。		

第 三 部			
部長	吉村 忍	副部長	米田 雅子
幹事	沖 大幹、北川 尚美		
主要な活動	審議内容		
	日本学術会議のあり方及び任命問題に関して、全体の議論と平行して、第三部でも議論を行うとともに、研究力の強化や未来の学術研究振興構想への対応、学協会連携についても議論を行った。さらに科学的助言機能の強化に向けて、第三部内の査読プロセスなどについて議論を行うとともに、適宜第一部、第二部とも連携しながら、中長期的、分野横断的、総合的俯瞰的な観点から、意思の表出を進めている。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	今期に入ってから発出されたものはまだないが、第三部関連分野別委員会又は関連分科会において、意思の表出の発出に向けた準備が行われている。		
	開催シンポジウム等		
	令和4年8月16日に、第三部、北海道大学及び北海道地区会議が主催する公開シンポジウム「地球環境の未来を考える～カーボンニュートラルの実現に向けて～」をハイブリッド方式で開催した。身近なテーマであり、テーマに関する地元の高校生からの発表も取り入れたことから盛況であった。参加者は約270名。		
開催状況	・第三部会：令和3年12月3日、令和4年4月18～19日、8月16～17日に開催。なお、8月16～17日は、北海道大学を開催拠点とした地方開催部会であり、併せて上記の公開シンポジウムも開催。 ・第三部役員と副会長によって構成される拡大役員会を令和3年10月28日、11月25日、令和4年1月27日、2月24日、5月25日、7月27日、9月28日に開催。各分野別委員会委員長も含む拡大役員会を令和3年12月24日、令和4年3月24日、6月29日に開催。なお、3月24日は理学・工学系学協会連絡協議会を同時開催。		
今後の課題等	「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を受け、第三部関係の分野別委員会や分科会におけるボトムアップの審議、限られた予算の中で活動する第三部関連の分野別委員会分科会、小委員会等の在り方、複数の学術分野に関わる「未来の学術振興構想」についての提案、近日中に出されるであろう日本学術会議のあり方に関する政府方針への対応等がある。		

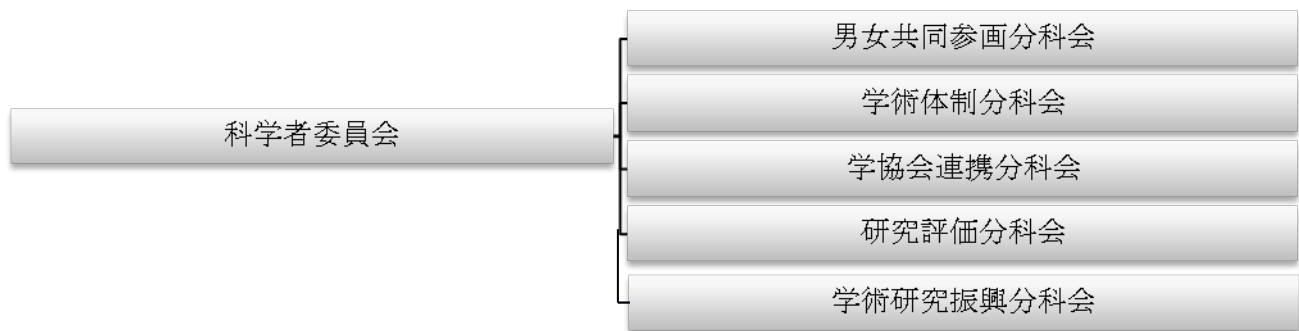
(6) 機能別委員会

①選考委員会

選考委員会

選考委員会					
委員長	梶田 隆章	副委員長	望月 眞弓	幹事	橋本 伸也、吉村 忍
主な活動	審議内容				
	・ 会員候補者選考方針及び選考要領、連携会員候補者選考の考え方について審議した。 ・ 定年により退任する会員を連携会員に就任させるため、連携会員候補者名簿を作成し、幹事会に提出した（2月15日、5月22日、7月11日）。 ・ 定年等により退任した（退任する）会員について、後任となる補欠の会員候補者を選考して補欠の会員候補者名簿を作成し、幹事会に提出した（7月27日）。 ・ 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」（令和3年4月22日日本学術会議）を踏まえ、「第26期日本学術会議会員候補者の選考方針」について検討し、第184回総会において決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年12月24日、令和4年1月20日、1月27日、2月15日、3月24日、4月6日、5月22日、6月29日、7月11日、7月27日、8月1日、9月13日、9月28日				
今後の課題等	「第26期日本学術会議会員候補者の選考方針」（令和4年4月19日日本学術会議）を踏まえ、「第26－27期日本学術会議会員候補者の選考要領」及び「第26－27期日本学術会議連携会員候補者の選考の考え方」を作成し、第26期選考が公平・公正なものとなるようにし、より良い選考の実施を実現する。				

②科学者委員会



科学者委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長	吉村 忍	幹事	溝端 佐登史、武田 洋幸
主な活動	審議内容				
	科学者の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている5分科会をとりまとめている。令和3年10月～令和4年8月までに協力学術研究団体は20団体を新たに指定した。また地区会議では7回学術講演会を開催した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・研究評価分科会：「提言：学術の振興に寄与する研究評価を目指して～望ましい研究評価に向けた課題と展望～」(令和3年11月25日) ・学協会連携分科会：「記録：日本学術会議に関する学協会・大学等の声明等一覧」「記録：日本学術会議と学協会連合等との連携に関する調査」(令和4年1月17日)				
	開催シンポジウム等				
	○男女共同参画分科会主催 ・公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー大学における女性リーダーから見た課題と展望」(令和3年10月28日) ・公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」(令和3年12月19日) ・公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー Disability Inclusive Academia：障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」(令和4年3月23日) ・公開シンポジウム「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等－誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして－」(令和4年5月5日) ・学術フォーラム「性差研究に基づく科学技術・イノベーション」(令和4年9月8日)				

	○地区会議 ・東北地区会議主催学術講演会「災害と文明－災害に対する社会の対応－」（令和3年10月30日） ・九州・沖縄地区会議主催学術講演会「持続可能な地域の強靱化と将来空間像～防災・減災対策の次なるステージを目指して～」（令和3年11月1日） ・北海道地区会議主催学術講演会「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けて－記録・国際協力・情報技術－」（令和3年11月3日） ・中部地区会議主催学術講演会「SDGs に向けた大学の取り組み」（令和3年12月25日） ・中部地区会議主催学術講演会「環境教育・環境研究を通じた地域貢献」（令和4年7月8日） ・公開シンポジウム「地球環境の未来を考える～カーボンニュートラルの実現に向けて～」（令和4年8月16日） ・近畿地区会議主催学術講演会「総合知をはぐくむ学び」（令和4年9月19日）
開催状況	令和3年10月15日（メール審議）、11月19日（メール審議）、令和4年1月17日（メール審議）、3月16日（メール審議）、3月30日（メール審議）、5月17日（メール審議）、6月24日（メール審議）、7月19日（メール審議）、8月12日（メール審議）、8月25日（メール審議）、9月15日（メール審議）
今後の課題等	今期設置されている5分科会における主な今後の課題として、学術体制分科会の研究インテグリティに関する意思の表出、学協会連携分科会の日本学術会議と学協会の連携のあり方について、研究評価分科会の人文社会と研究評価への課題とあり方の整理、学術研究振興分科会の「学術の中長期研究戦略」の評価及び「未来の学術振興構想のグランドビジョン」の検討などがある。

科学者委員会（男女共同参画分科会）					
委員長	望月 眞弓	副委員長	高橋 裕子	幹事	熊谷 日登美、野尻 美保子
主な活動	審議内容				
	3つの小分科会のうち、アンケート検討小分科会は第24期に実施した大学に対するアンケート調査結果をもとに「提言：大学・研究機関における男女共同参画の実態と今後の課題～2019年アンケート調査から～」を検討中である。 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会では性差を考慮した研究推進の必要性等について「見解：性差研究に基づく科学技術・イノベーションの推進」を検討中である。 ジェンダー研究国際連携小分科会では、学術会議会員・連携会員の男女比率の推移等に基づき検討を進めていく予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	男女共同参画分科会・性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会から「見解：性差研究に基づく科学技術・イノベーションの推進」、男女共同参画分科会・アンケート検討小分科会から「提言：大学・研究機関における男女共同参画へ				

	の取り組み実態から見た課題と対応～研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進状況に関するアンケート調査から～」を発出予定である。 開催シンポジウム等 ・公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ大学における女性リーダーから見た課題と展望」を第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会と共同主催した。(令和3年10月28日) ・公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」を第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会と共同主催した。(令和3年12月19日) ・公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第3回「Disability Inclusive Academia:障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」を第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会と共同主催した。(令和4年3月23日) ・公開シンポジウム「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等－誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして－」を第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会及び第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会と共同主催した。(令和4年5月5日) ・学術フォーラム「性差研究に基づく科学技術・イノベーション」を開催した。(令和4年9月8日)
開催状況	令和3年10月1日、12月8日（メール審議）、12月24日（メール審議）、令和4年2月23日（メール審議）、3月9日（メール審議）、3月22日（メール審議）、3月28日、6月10日（メール審議）、6月15日、8月12日（メール審議）
今後の課題等	発出予定の見解及び提言の普及のための活動

科学者委員会（学術体制分科会）					
委員長	吉村 忍	副委員長	橋本 伸也	幹事	佐々木 裕之、北川 尚美
主な活動	審議内容				
	学術体制分科会は、学術の制度・振興等に関する諸問題を審議することを目的としており、25期は、研究インテグリティに関して、有識者の講演等による国内外の現状調査、課題の整理を行い、本年1月、論点整理を取りまとめた。その後、経済安全保障推進法の成立、ロシアによるウクライナ侵攻等国内外で新たな状況が生じたことを踏まえ、7月、論点整理の改訂版を取りまとめた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年12月15日（第5回）、令和4年1月14日（第6回）、2月17日（第7回）、6月1日（第8回）、6月23日（第9回）、6月30日（第10回）				

今後の課題等	研究インテグリティに関する意思の表出
--------	--------------------

科学者委員会（学協会連携分科会）					
委員長	米田 雅子	副委員長	望月 眞弓	幹事	溝端 佐登史、丹下 健
主な活動	審議内容				
	「学協会・学会連合と日本学術会議の連携」、「学協会、学会連合を取り巻く環境変化と課題」について議論している。分科会委員による各分野の学協会連携の現状報告から、25期は日本学術会議と学協会の連携が強化され始めていることを確認した。分科会として、この流れを大切に連携強化に向けて取り組む。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「日本学術会議に関する学協会・大学等の声明等一覧」を調査・作成し、記録として公表した。「日本学術会議と学協会連合等との連携に関する調査」を行い、結果を記録として公表した。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年3月16日、7月12日の学協会連携分科会において、学協会連合等の関係者に傍聴していただく形で「日本学術会議と学協会連合等との連携に関する調査」に関する報告会を2回開催した。				
開催状況	令和3年12月27日、令和4年3月16日、7月12日				
今後の課題等	今後は、分野の特性を踏まえて学術会議と学協会の双方向コミュニケーション向上に努めると共に、学協会・学会連合と日本学術会議の連携のあり方について議論する。				

科学者委員会（研究評価分科会）					
委員長	武田 洋幸	副委員長	三成 美保	幹事	林 隆之、藤井 良一
主な活動	審議内容				
	公表した提言の活用、要旨英訳、最近の研究評価の国内外の動向を審議した。また、現在、①個人評価・組織評価の在り方、②オープンサイエンスと研究評価、③人文社会と研究評価、に焦点を当てて議論を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・（提言）「学術の振興に寄与する研究評価を目指して～望ましい研究評価に向けた課題と展望～」(令和3年11月25日) ・分野を絞った研究評価				
	開催シンポジウム等				
	検討中				
開催状況	令和4年3月22日、6月22日、8月1日（メール審議）				
今後の課題等	人文社会と研究評価については、関係する会員、研究者にインタビューまたはアンケート実施し、課題とあり方を整理する予定である。				

科学者委員会（学術研究振興分科会）					
委員長	光石 衛	副委員長	丹下 健	幹事	日比谷 潤子、山崎 典子
主な活動	審議内容				
	重要な学術研究の推進に関し、長期的で俯瞰的な視点から、新たに「未来の学術振興構想」を策定することとした。これを策定するために、専門的な知見に根差した今後 20～30 年先を見通した学術振興の「ビジョン」と、その実現のために今後 10 年程度で実施することが必要な「学術研究構想」から構成される「学術の中長期研究戦略」を公募しているところである。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	形態は未定であるが、行う予定				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 4 年 2 月 3 日（第 2 回）、3 月 9 日（第 3 回）、3 月 25 日（第 4 回）、5 月 26 日（第 5 回）、6 月 14 日（第 6 回）				
今後の課題等	・「学術の中長期研究戦略」の評価及び「未来の学術振興構想のグランドビジョン」の検討 ・「未来の学術振興構想」の取りまとめ、公表				

③科学と社会委員会



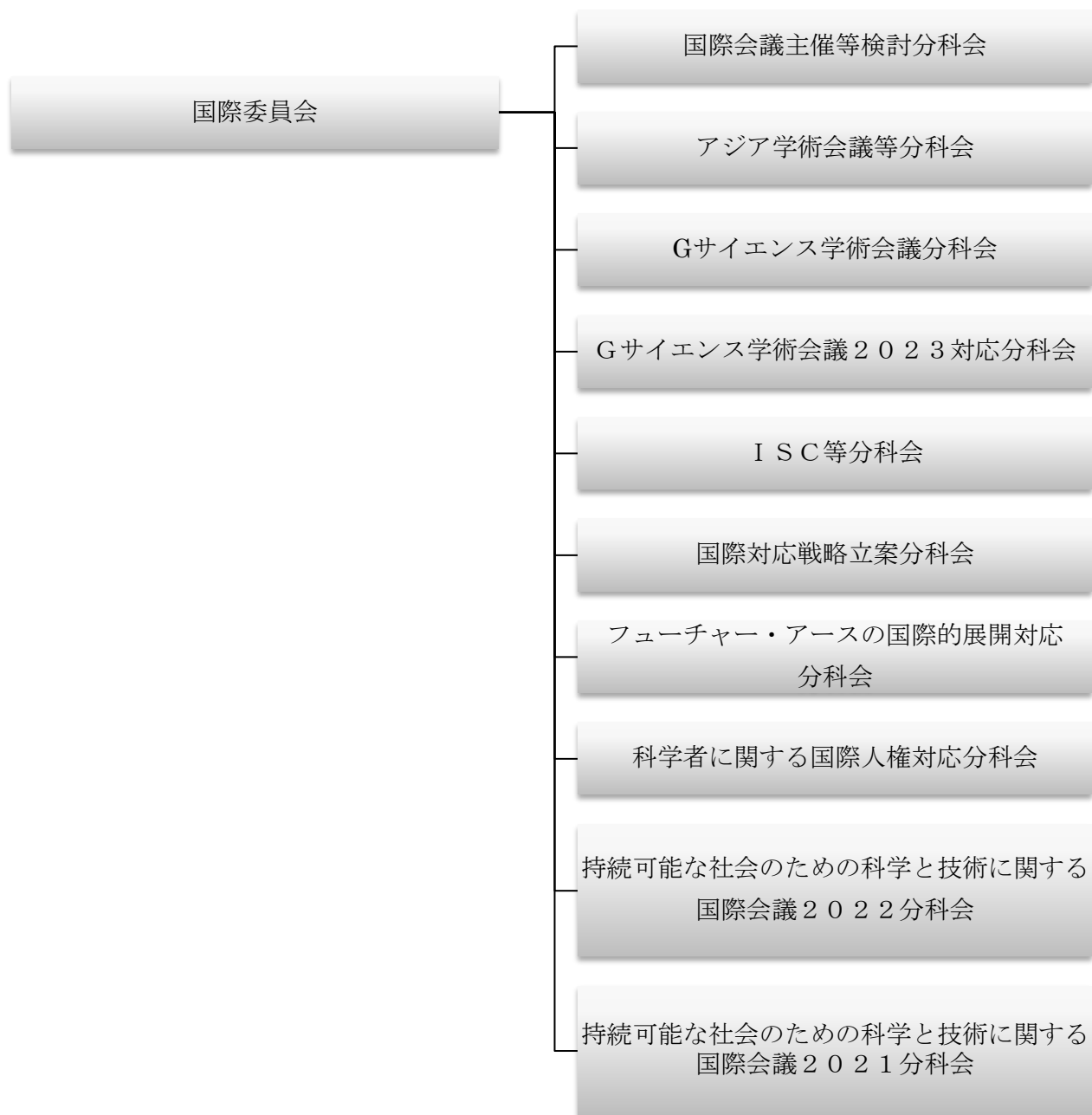
科学と社会委員会					
委員長	菱田 公一	副委員長	小林 傳司	幹事	北島 薫、伊藤 公平
主な活動	審議内容				
	科学と社会委員会は、広報委員会と合同で委員会を開催し、両委員会の活動内容を共有するとともに、学術会議の改革状況等について意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年2月15日				
今後の課題等	今後とも、関係委員会等との連携を図りつつ、対話を通じた情報発信力の強化に努めていきたい。				

科学と社会委員会（政府・産業界・市民との連携強化分科会）					
委員長	菱田 公一	副委員長	岸本 康夫	幹事	大塚 直、神田 玲子
主な活動	審議内容				
	産業界、特に産業競争力懇談会（COCN）との意見交換の場の設定を行った。また、サイエンスカフェ等市民との対話に向けた企画の検討を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年11月19日、令和4年3月31日				
今後の課題等	政府、産業界、国民といったステークホルダーとの対話を推進するため、意見交換のためのテーマや場の設定をはじめ、具体的な行動を進めていきたい。				

科学と社会委員会（年次報告検討分科会）					
委員長	菱田 公一	副委員長	日比谷 潤子	幹事	神田 玲子

主な活動	審議内容
	令和３年１０月から令和４年９月までの年次報告書の作成方針及び執筆者についての検討、また上記作成方針等に基づき各執筆者において作成された原稿のとりまとめ、年次報告書作成とその確認作業
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和４年７月４日、１２月５日
今後の課題等	なし

④国際委員会



国際委員会					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	小池 俊雄	幹事	日比谷 潤子、後藤 由季子
主な活動	審議内容 本委員会は、日本学術会議における国際活動の調整及びその他学術会議の国際的対応に関することについて審議している。 具体的には、国外で開催される学術に関する国際会議への代表派遣、国内における国際会議の共同主催、アジア学術会議、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議、Gサイエンス学術会議等についての検討を行うとともに、国際学術交流事業の実施に関する内規、各国アカデミーとの交流の活性化、今後の国際活動				

	のあり方など、日本学術会議の国際活動を一層活発にするための戦略について審議を行っている。特に、国際活動の一層の強化を図るために、日本学術会議の国際戦略の議論を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和3年10月22日、11月19日、12月22日（メール審議）、令和4年1月25日、2月16日、4月13日（メール審議）、5月23日（メール審議）、6月28日（メール審議）、7月26日（メール審議）、8月29日（メール審議）、9月27日（メール審議）
今後の課題等	国際活動の強化や各分科会の今後の課題等を踏まえた検討

国際委員会（国際会議主催等検討分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	杉山 久仁子	幹事	西原 寛、町村 敬志
主な活動	審議内容				
	・令和5年度共同主催国際会議候補を決定した。 ・令和4年度実施予定であった共同主催国際会議について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、11件の会議中、2件を中止し、次年度内及びそれ以降に延期して開催することを決定した。 ・令和6年度以降の審議・選定方針について検討し、募集要項、選定方針の改正を行ったほか、新型コロナウイルス感染症の影響で候補としてすでに決定したが開催が延期されている会議への対応等について検討した。 ・国際会議の後援についての審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	期間中10件の共同主催国際会議を開催した。				
開催状況	令和4年1月19日、1月26日、2月3日（メール審議）、5月27日（メール審議）、7月22日、8月5日（メール審議）				
今後の課題等	・10月から申請が始まる令和6年度共同主催国際会議についての審議 ・随時申請が来る後援申請についての対応				

国際委員会（アジア学術会議等分科会）					
委員長	澁澤 栄	副委員長	小池 俊雄	幹事	
主な活動	審議内容				
	・アジア学術会議（SCA）の在り方等の検討及び活動の推進に関する事 ・アジア科学アカデミー・科学協会連合（AASSA）への対応に関する事				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	令和4年3月15～17日、インド社会科学研究評議会主催のもと、第21回アジア学術会議（SCA）が開催された。“Science, Technology & Social Science Research: Together for a Better World”（科学、技術、社会科学研究：共により良い世界へ）をテーマに開催され、16カ国・地域から約570名の参加があった。アジア諸国・地域における研究者間の交流や連携の拡大に寄与する機会となった。 https://www.scj.go.jp/ja/int/sca/index.html
開催状況	令和3年2月22日、4月16日（メール審議）、6月17日、令和4年2月15日、7月6日
今後の課題等	・アジア学術会議（SCA）は、加盟アカデミーの分担金負担がないユニークな会議体として、アジア域内での学術交流と協力を促進するための基盤を提供するとともに、SCAの展望と構想を議論しその実現を図ることを目的としている。今後も引き続き、加盟団体のみならず未加盟団体・機関にも、より積極的に有用な情報を提供し、アジアの科学者のネットワーク形成に貢献する。 ・第22回アジア学術会議韓国会合が令和5年10月に開催される予定であり、準備や調整等を進める。 ・平成28年に作成されたSCA Future Strategic Planの改訂に向けて、分科会での審議を経て、SCA役員との協議や改訂案作成等を進めており、第22回アジア学術会議の開催に合わせて改訂し発出できるよう取り組む。 ・アジア科学アカデミー・科学協会連合（AASSA）については、テーマ別の特別委員会に日本学術会議会員、連携会員合計4名を派遣しており、そのうち福士謙介連携会員がSustainability特別委員会委員長を務めている。今後も交流を継続する。

国際委員会（Gサイエンス学術会議分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	田辺 新一	幹事	亀山 康子、橋本 禅
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、G7サミット参加各国の学術会議（科学アカデミー）が、サミットに参加する政府首脳に向けて科学的見地から政策提言を行うことを目的としたGサイエンス学術会議の活動について審議している。 ・具体的には、令和4年のGサイエンス学術会議（ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナが主催）の共同声明案の内容等について審議した。各テーマ（後述【1】～【4】）について、それぞれ、原田尚美連携会員、田辺新一第三部会員、郡山千早連携会員、岩崎渉連携会員が参画し、オンライン会議及びメールにより審議を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	Gサイエンス学術会議において、以下の共同声明を取りまとめた。共同声明は従来、日本学術会議会長より内閣総理大臣へ手交していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等を踏まえ、手交は見送ったものの、関係省庁に周知した。 【1】海洋と雪氷圏：緊急的な国際的対応の必要性（Ocean and Cryosphere: The Need for Urgent International Action） 【2】脱炭素化：国際的な行動の緊急的必要性（Decarbonisation: The Case for Urgent International Action） 【3】抗ウイルス薬：次のパンデミックに対する更なる備え（Antiviral Drugs: Increasing Preparedness for the Next Pandemic） 【4】人獣共通感染症と薬剤耐性に対するワンヘルス・アプローチの必要性（The Need for a One Health Approach to Zoonotic Diseases and Antimicrobial Resistance） https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-13.html
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年3月25日
今後の課題等	令和5年Gサイエンス学術会議開催時の支援等

国際委員会（Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	梶田 隆章	幹事	
主な活動	審議内容				
	日本学術会議が主催するGサイエンス学術会議 2023 の対応に係る、全体の方針を議論・検討し、Gサイエンス学術会議 2023 共同声明のテーマやプログラムの概要、Gサイエンス学術会議 2023 執筆対応小分科会の構成員を審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし（Gサイエンス学術会議で共同声明を取りまとめる）				
	開催シンポジウム等				
	Gサイエンス学術会議 2023 のプログラムの一環として、一般公開シンポジウムを開催する予定				
開催状況	令和4年5月9日、8月4日、9月21日				
今後の課題等	令和4年10月設置予定のGサイエンス学術会議 2023 執筆対応小分科会と連携しながら、Gサイエンス学術会議 2023 開催に係る各種準備を行う。				

国際委員会（ISC 等分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	春山 成子	幹事	河野 俊行、中村 桂子
主な活動	審議内容				

	・本分科会は、国際学術会議（International Science Council：ISC）や Inter Academy Partnership（IAP）等への対応について審議している。 ・2021 年 10 月の ISC 総会での日本人役員選出の結果を受けて、同年 12 月に分科会を開催し、ISC の新しい行動計画である Action Plan 2022-2024 の分析結果を共有するとともに、日本の科学者がグローバルな議論に参画し国際的にリード・貢献のできる場として ISC に積極的に参加するための意見交換を行った。 ・IAP は、Policy、Science、Health の旧 3 団体が緩やかに統合して活動を行っているが、完全な統合に向けて、Statutes（定款）の改定プロセスが進められている。2022 年 11 月には、IAP 総会も予定されていることから、新たな IAP への対応などについて議論を行っている。また、共同声明（IAP 加盟アカデミーにより作成され、政府等に対して発出）の作成に当たり、声明作成のためのワーキンググループに日本学術会議から委員を派遣しているほか、分科会委員に声明案への意見照会を随時行い、日本学術会議の意見を反映させるための取組を行っている。 ・ISC 及び IAP において発足される新プロジェクトや共同声明等に関するワーキンググループ委員に日本人科学者を推薦し、日本人科学者が国際舞台において活躍する一助としている。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和 3 年 12 月 14 日
今後の課題等	次回の ISC 役員選挙への対応、IAP の統合及び次期 IAP 戦略計画に向けた対応審議

国際委員会（国際対応戦略立案分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	武田 洋幸	幹事	鈴木 基史、中村 尚
主な活動	審議内容				
	本分科会は日本学術会議が加入している国際学術団体の見直しと、日本学術会議の国際対応戦略に関することについて審議している。具体的には「国際学術交流事業の実施に関する内規」に基づき、加入国際学術団体の見直しのための調査を実施している。第 25 期においても、44 団体の加盟国際学術会議の活動調査票等を確認し、外部有識者の参加も得て、それぞれの加盟継続の要否について議論を行っている。 また、日本学術会議が加入し活動する意義や成果について、国民に分かりやすい発信のあり方や工夫についても、国際委員会、広報委員会等とも連携を図りながら活発に議論している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年3月9日、4月26日（メール審議）
今後の課題等	各加入国際学術団体の活動調査票及びヒアリングによる加入国際学術団体見直し審査、各加入国際学術団体の活動成果の発信に向けた検討

国際委員会（フューチャー・アースの国際的展開対応分科会）					
委員長	福士 謙介	副委員長	谷口 真人	幹事	江守 正多、蟹江 憲史
主な活動	審議内容				
	本分科会は、日本学術会議が推進しているフューチャー・アースプログラムに関し、その国際的な展開と対応に関することについて審議している。 具体的にはフューチャー・アースの国際本部事務局の運営、フューチャー・アース主催の国際会議への日本学術会議代表者の派遣及び同会議への海外からの研究者の招へいについて審議をした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年2月16日、6月14日（メール審議）、7月14日（メール審議）				
今後の課題等	フューチャー・アース代表派遣及び招へい方針に則ったフューチャー・アースの国際的展開への対応				

国際委員会（科学者に関する国際人権対応分科会）					
委員長	高村 ゆかり	副委員長	和田 肇	幹事	有信 睦弘
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、科学者に関する国際的な人権状況及び問題を調査審議し、併せてアカデミー及び学術団体の国際人権ネットワーク（The International Human Rights Network of Academies and Scholarly Societies）への対応に関する事項を審議している。 ・第25期における各アクション・アラート（行動喚起）について、第24期に改定した新たな審査基準に基づき、本年4月の分科会及び8月のメール審議の結果、全12件の審査案件のうち5件については引き続き情報を収集し継続注視とした。また、5月には、イラン政府に拘束され死刑執行が差し迫っていると伝えられる災害医学研究者アフマドレザ・ジャラリ博士の状況について、深刻な懸念を表明する会長談話を公表した。8月には、国連人権理事会が設置したウクライナに関する独立国際調査委員会への支持を表明するレターを発出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年4月6日、8月3日（メール審議）
今後の課題等	改訂された審査基準の運用

国際委員会（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2022 分科会）					
委員長	武田 洋幸	副委員長	郡山 千早	幹事	和氣 純子
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2022」を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関することについて審議することを目的としている。 ・令和4年度は、「災害と健康」をテーマに、令和5年1月25日、26日にオンラインで開催する予定。会議1日目は「公衆衛生資源の備えとガバナンスの強化」、2日目は「防災と福祉～誰一人取り残さない社会の構築～」のサブテーマとし、国内外の著名な研究者に議論いただく。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和5年1月25日、26日に開催予定				
開催状況	令和4年6月24日				
今後の課題等	本年度の会議開催に向けた企画審議				

国際委員会（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2021 分科会）					
委員長	亀山 康子	副委員長	橋本 禅	幹事	
主な活動	審議内容				
	令和3年6月23日、第1回会合をオンラインで開催し、国際会議のテーマやコンセプトペーパー案について議論した。その後、令和4年1月31日の第2回会合までの間、シンポジウム準備に関して個別にメールやオンラインで打ち合わせを行った。第2回会合では、シンポジウムの進行について最終確認を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和4年1月31日と2日1日の2日間、国際シンポジウム“Achieving Net Zero Emissions: The Roles of Academia”（ネットゼロ・エミッションー達成に向けた学術の役割ー）を、日本学術会議の主催及び文部科学省、環境省、国立研究開発法人国立環境研究所、国際学術会議（ISC）、Future Earth 国際事務局日本ハブの後援のもとで開催した。コロナ禍の影響によりオンラインでの開催とした。1日目は「アジアでのネットゼロ・エミッション」、2日目は「気候変動をめぐるシナジ				

	一とトレードオフ」というサブテーマにおいて、それぞれショートスピーチとディスカッションを実施した。国内外から約 270 名の視聴者があった。
開催状況	令和 4 年 1 月 31 日
今後の課題等	なし

(7) 課題別委員会

防災減災学術連携委員会

人口縮小社会における問題解決のための
検討委員会

フューチャー・アースの推進と連携に
関する委員会

持続可能な発展のための教育と人材育成の
推進分科会

フューチャー・アース国内連携分科会

オープンサイエンスを推進するデータ基盤と
その利活用に関する検討委員会

自動運転の社会実装と次世代モビリティによ
る社会デザイン検討委員会

自動運転企画分科会

学術情報のデジタルトランスフォーメーション
を推進する学術情報の基盤形成に関する検討
委員会

大学教育の分野別質保証委員会

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討
委員会

ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研
究・臨床応用に関する委員会

防災減災学術連携委員会					
委員長	米田 雅子	副委員長	安村 誠司	幹事	田村 和夫
主な活動	審議内容				
	地震津波・火山・暴風豪雨などによる自然災害への防災減災の推進及びより良い災害復興を目的に、日本学術会議と防災学術連携体（62 学協会）は連携して取り組んでいる。なお、両組織は政府の防災推進国民会議の学術分野を代表するメンバーである。 学会や分野を超えた横断的な研究の奨励、災害時の学会の情報発進・情報共有と被災地・行政との連携を支援しているほか、災害対応として、防災学術連携体の「熱海市の土砂災害に関する緊急連絡会」（令和 3 年 8 月 6 日）及び防災学術連携体「市民へのメッセージ 2022 夏秋の気象災害に備えましょう」（令和 4 年 7 月 15 日）に協力した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・令和 3 年 11 月 6 日 日本学術会議公開シンポジウム「防災教育と災害伝承」（第 6 回防災推進国民大会出展） ・令和 4 年 5 月 9 日 日本学術会議公開シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化したか」 ・令和 4 年 8 月 2 日 「第 4 回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会－出現した多様な危機への備え」 ・令和 4 年 10 月 22 日 日本学術会議公開シンポジウム「防災科学の果たす役割」いずれも防災学術連携体と共催し、学術フォーラムでは記念冊子を発行した。				
開催状況	令和 4 年 1 月 7 日、4 月 8 日、8 月 2 日、10 月 6 日				
今後の課題等	防災減災の研究活動には広い分野の強い繋がりが必要であるため、第一部、第二部、第三部から委員を集めた防災減災学術連携委員会と防災学術連携体（62 学会）の連携を積極的に進めてきた。平時の情報共有に加えて、災害時の緊急集会や情報発信、府省庁との連携等多くの成果を上げてきた。今後も継続的に続けていきたい。				

人口縮小社会における問題解決のための検討委員会					
委員長	遠藤 薫	副委員長	金子 隆一	幹事	武石 恵美子、石原 理
主な活動	審議内容				
	世界の持続可能性にとって、大きな課題とされるのが、人口問題である。日本では人口縮小が世界のなかでも進んでいることから、さらに多くの問題が喫緊の課題となっており、課題別委員会による審議が求められる。 もちろん、これらの問題に関しては、従来から多様な議論がなされてきた。しかし、それらは個別領域ごとの「少子化」、「高齢社会」問題に関する検討であった。今後必要とされるのは、これら個別領域の検討を相互に関連づけ、問題の全体像				

	を総合的に俯瞰することである。その上で、未来社会のビジョンを描き、そこに至るロードマップを策定することが本委員会の目的である。 意思の表出（※見込み含む） 今期の成果として、提言を発出予定。 開催シンポジウム等 令和4年5月7日 学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる#8 コロナパンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？」を開催。
開催状況	第3回 令和4年8月24日
今後の課題等	人口問題に取り組むには、人文学・社会科学的分析とともに、高齢者医療や生殖医療など医学的分野からの知見や、労働力の現象を補完する工学的研究開発の連携を欠くことはできない。本委員会では、第一・第二・第三分科会のすべての分野から委員が参集し、さらに若手アカデミーからの意見も重視することで、有用な政策提言を目指す。

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会					
委員長	沖 大幹	副委員長	春山 成子	幹事	大手 信人、三枝 信子
主な活動	審議内容 研究、イノベーション、そして社会との協働による、地球環境課題の解決と持続可能な社会への転換をミッションとする国際的な研究ネットワークであるフューチャーアース (FE) の推進と連携に関し、多様な観点から以下を中心に審議している。 先進的な研究事例に関する講演に加えて、オンライン会議のブレイクアウト機能の利用などにより活発な議論を行い、文理融合、社会との協創などに関してさらに理解も深まり、克服すべき制度上の問題についても徐々に明らかになっている。 本委員会の活動として国際的な FE の新たな Governing Council のメンバーを日本から推薦し、高村ゆかり副会長と沖大幹委員長が選出されている。 意思の表出（※見込み含む） 開催予定の学術フォーラムの成果を、「学術の動向」特集、あるいは意思の発出の「記録」として公表する見込み。 開催シンポジウム等 令和4年10月9日に学術フォーラム「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究」を開催予定。				
開催状況	令和3年9月、令和4年1月、3月に第6-8回のメール審議を実施。4月11日に第9回、8月31日に第10回を開催。				
今後の課題等	日本学術会議のFE関連委員会、FE日本委員会、FE事務局（アジア Hub）など組織的な推進体制は整っているが、国際的な研究リーダーシップの発揮や国内の研究				

	推進の母体となる研究プログラムの構築が課題である。
--	---------------------------

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会）					
委員長	氷見山 幸夫	副委員長	小金澤 孝昭（～令和4年8月） 日置 光久（令和4年9月～）	幹事	鈴木 康弘、 丹羽 淑博
主な活動	審議内容				
	・Future Earth、SDGs、ESD への貢献。 ・公開シンポジウム・ワークショップ、学術フォーラムの開催。 ・Future Earth, ESD, SDGs と教育・人材育成に関する学術の動向特集に向けた検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「学術の動向」に特集を提案しており、編集委員会からの回答待ち。				
	開催シンポジウム等				
	教育実践に明るい委員を多く擁する「ESD/SDGsカリキュラム小委員会」と「海の学びカリキュラム小委員会」が主体となって以下を実施した。 ・令和3年12月19日にオンラインで公開ワークショップ「Future Earth 持続可能な社会の創り手を育てる学び～海の学び、ESD/SDGsの学びを豊かに～」を実施し、成功裏に終えた。 ・令和4年6月5日に学術フォーラム「持続可能な社会を創り担うための教育と学習のチャレンジ」をハイブリッドで実施し、盛会であった。				
開催状況	令和3年12月19日（オンライン開催）、令和4年4月20日（オンライン開催）、6月5日、9月20日（オンライン開催）				
今後の課題等	学術－教育－社会の連携を更に強化すること。				

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（フューチャー・アース国内連携分科会）					
委員長	江守 正多	副委員長	小林 傳司	幹事	三枝 信子
主な活動	審議内容				
	1. 国際科学会議（ICSU）等が主導するフューチャー・アース（FE）計画が提起している社会のステークホルダーとの連携推進と、関連する諸課題の整理と検討 2. ステークホルダーとの連携を軸とするFE日本委員会の運営について 3. 関連研究者やステークホルダー、研究プログラム及び教育研究組織との連携				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	令和3年11月9日に会合を開催し、今期の分科会及び国内連携の進め方等について審議を行った。
今後の課題等	第24期はステークホルダーを委員とオブザーバに積極的に含む構成であったが、今期は学術中心の委員構成である。FE日本委員会、FE日本サミットを通じてステークホルダーとの連携を今後図っていく必要がある。

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会					
委員長	永井 正夫	副委員長	大倉 典子	幹事	鎌田 実、中野 公彦
主な活動	審議内容				
	前期の課題別委員会を引き継ぎ、モビリティの進化が社会に及ぼすインパクトを検討し、ELSI 課題から社会デザインまで踏み込んだ議論を行い、新たなエコシステムの構築を目指している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	7月にELSI課題を整理した「見解」の表出を申し出、期末には見解を踏まえ次世代モビリティによる社会デザインについて「提言」を表出する予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年12月13日午後に学術フォーラム「ELSIを踏まえた自動運転の社会実装」を開催。また「学術の動向」2月号で小特集、7月号で大特集を企画。				
開催状況	- 委員会：令和4年8月、9月。令和4年7月意志の表出（見解）の申し出 - 企画分科会：令和3年12月、令和4年3月、7月 - 小委員会（中野公彦委員長）：原則毎月開催、令和4年10月（第11回）予定				
今後の課題等	課題別委員会での議論に加え、小委員会では若手や地方の視点での議論を深めている。委員会委員も随時オブザーバ参加する。課題別委員会の後半では社会デザインの審議に集中的に取り組む予定。				

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会（自動運転企画分科会）					
委員長	永井 正夫	副委員長	大倉 典子	幹事	鎌田 実、中野 公彦
主な活動	審議内容				
	課題別委員会の企画運営のために設けた企画分科会で、傘下に若手や地方の視点での議論を深める小委員会を設置し、自動運転の社会実装に向けての小委員会の議論の成果と課題別委員会をつなぐ役割を担っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	小委員会を中心に見解の素案を作成、見解発出の申し出を行った。今後は、期末の提言発出に向けた計画と素案の作成に取り組む予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年12月13日午後に学術フォーラム「ELSIを踏まえた自動運転の社会実装」を開催。また「学術の動向」2月号で小特集、7月号で大特集を発行。				

開催状況	- 企画分科会：令和3年12月、令和4年3月、7月、12月予定 - 小委員会（中野公彦委員長）：原則毎月開催、令和4年10月（第11回）予定
今後の課題等	小委員会では若手や地方の視点での議論を深めている。委員会委員も随時オブザーバ参加する様に日程調整をしている。今期の後半では社会デザインの審議に集中的に取り組み、期末の提言発出に向けた素案を作成する。

学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会					
委員長	山口 周	副委員長	安達 淳	幹事	丹下 健、吉見 俊哉
主な活動	審議内容				
	- 第三部から発出された第24期提言「学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」を基に、学術全体にわたる学術情報流通に関する課題の抽出と、提言で提起した組織再編成を含む学術情報流通の再構成のための具体的な提案に向けた審議 - 文部科学省ジャーナル問題検討部会審議まとめなど関連内外情勢調査と意見聴取、ジャーナル講読に関する最新情報の集約方法検討などに関する審議計画の策定（幹事打合せ）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第25期中に審議をまとめて提言を発出する予定				
	開催シンポジウム等				
	提言発出に合わせてシンポジウムまたは学術フォーラムを開催予定（時期未定）				
開催状況	なし				
今後の課題等	- 商業出版社のジャーナル講読契約（転換契約）へのシフトに関する情報収集 - 電子ジャーナル講読契約に関する最近の状況について情報収集と対策検討 - 関係省庁や関連機関からの意見聴取の計画策定				

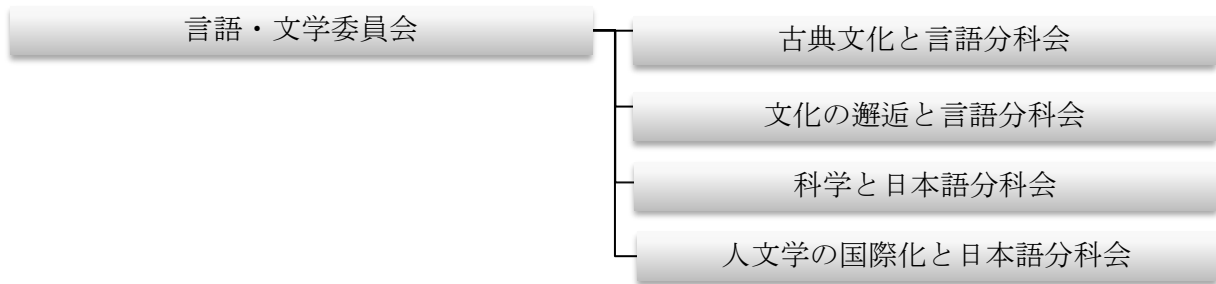
我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会					
委員長	山口 周	副委員長	西山 慶彦	幹事	佐々木 裕之、林 隆之
主な活動	審議内容				
	- 第1回学術フォーラムの総括と参加者アンケートの解析、次回企画の検討 - 政府からの審議依頼の回答「作成のための情報収集と解析 - コアワーキンググループ（WG）による回答原案作成、委員会での承認				
	意思の表出（※見込み含む）				
	政府からの審議依頼に対する回答「研究力強化ー特に大学等における研究環境改善の視点からー」（令和4年8月5日公開）				
	開催シンポジウム等				
	第1回学術フォーラム「我が国の学術政策と研究力に関する学術フォーラムー我が国の研究力の現状とその要因を探るー」（令和3年12月11日開催）				

開催状況	・委員会（オンライン開催）：第3回（令和4年1月17日）、第4回（3月28日）、第5回（4月5日）、第6回（4月20日）、第7回（5月12日）、第8回（5月26日）、第9回（6月9日）、第10回（6月30日）、第11回（7月19日）、第12回（9月8日） ・コアメンバーWG（オンライン開催）：①4/5②4/14③4/21④4/28⑤5/12⑥5/19⑦5/26⑧6/2⑨6/9⑩6/16⑪6/23⑫6/30⑬7/7⑭7/14⑮7/28⑯8/18
今後の課題等	・我が国の研究力の現状解析とその向上に関する政策の在り方に関する検討 ・CSTI での研究力向上に関する審議に対する意見の表明

ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会					
委員長	加藤 和人	副委員長	高山 佳奈子	幹事	阿久津 英憲、武田 洋幸
主な活動	審議内容 まず第24期以前の関連する提言およびWHOの報告書・勧告をふまえ、本委員会が、ゲノム編集技術を用いたヒト胚等に対する基礎研究と臨床応用、および技術のガバナンスのあり方を審議することを確認した。その後、各分野の委員および厚生労働省担当官を含む参考人からの情報提供に基づき、意思表示の射程・構成を具体化する議論を進めた。 また、学術フォーラムを開催することとし、異なる立場の関係者から成るグループの意見や一般の意見を、意思表示にあたって考慮すべき情報として聴取することとした。 意思の表出（※見込み含む） 「提言」の発出を予定 開催シンポジウム等 令和4年11月26日に開催する学術フォーラム「ヒトゲノム編集と着床前遺伝学的検査について考える」を第二部「着床前診断、特にPGT-Mに関する検討分科会」・日本医学会連合と共に準備中。				
開催状況	令和3年11月6日、令和4年1月7日、5月6日、7月8日、7月20日、9月14日（いずれもオンライン開催）				
今後の課題等	第25期中の「提言」発出に向けて、学術会議内外からの情報収集および委員会での議論を進めながら、分担に基づき執筆作業を行う。				

(8) 分野別委員会

①言語・文学委員会



言語・文学委員会					
委員長	吉田 和彦	副委員長	渡部 泰明	幹事	原田 範行、日比谷 潤子、 平田 オリザ
主な活動	審議内容				
	・ 4つの分科会の活動状況の検証と今後の活動予定についての検討を行った。 ・ 委員手当付きの分科会の開催数と予算との関係について審議を行った。 ・ 夏季部会などの機会を活用して、第一部の他の分野別委員会と積極的に意見交換を行うことについて審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出は分科会が主体となっていて行っているため、委員会としては行っていない。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年12月2日、令和4年4月18日				
今後の課題等	4つの分科会は社会的、科学的に重要な課題について議論を重ねており、分野横断的な視点にたつて、単独の学協会などでは実行不可能な課題を審議している。いっそうの俯瞰的総合的な視点に立つには、他の分野別委員会との連携を強める必要があるだろう。				

言語・文学委員会（古典文化と言語分科会）					
委員長	倉員 正江	副委員長	有元 伸子	幹事	安藤 宏、糸川 麻里生
主な活動	審議内容				
	・ 各国の大学入試における古典の扱いを検討するため、委員の専門に照らして中国・台湾の現状について報告し、審議を行った。（第3回） ・ 大学入試共通テストの実施に伴い、国語の出題と今後の見通しについて報告し、審議を行った。（第4回）				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第3回：令和3年10月31日（オンライン開催） 第4回：令和4年3月20日（オンライン開催）
今後の課題等	大学入試共通テストは現時点で2回実施された段階であり、今後も出題状況が変化することが予想される。そうした中で、分科会として拙速な意思の表出を避け、次の第26期に繋がる審議を積み重ねていくことが今後の課題となる。

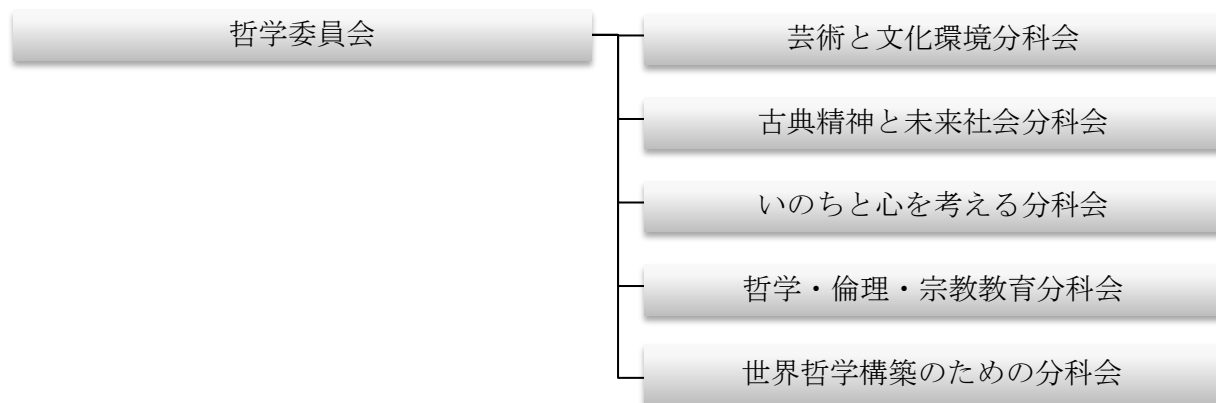
言語・文学委員会（文化の邂逅と言語分科会）					
委員長	原田 範行	副委員長	阿部 公彦	幹事	伊藤 たかね、木津 祐子
主な活動	審議内容				
	まず、前期（第24期）に発出した提言「大学入試における英語試験のあり方についての提言」のその後の動向を引き続き検証しつつ、学習内容や教材の適切性などの観点から現況の課題を抽出した上で、その抽出された課題を軸に、英語及び諸外国語教育や異文化教育の各種方法論の検証、および人文学研究の動向と教育的還元のあるあり方について、調査内容の検討と具体的方策に関する協議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	大学入試を含む外国語教育、言語文化教育、および人文学的研究促進のための意思の表出を構想している。				
	開催シンポジウム等				
	今期における開催はまだないが、上述の活動を広く社会に発信しつつ検証を重ねるためのシンポジウムを令和5年中に開催すべく準備を進めている。				
開催状況	令和4年1月30日、5月8日、7月17日				
今後の課題等	本分科会の検討事項は、ジャーナリズムや出版、教育関係者を含め広く社会との対話を重ねて行く必要があるため、今後さらに活動内容を積極的に公開して行きたい。また海外の研究者等の意見交換も重要であり、計画中のシンポジウム等ではこの点にも留意したい。				

言語・文学委員会（科学と日本語分科会）					
委員長	木部 暢子	副委員長	定延 利之	幹事	小泉 政利・小西 いずみ
主な活動	審議内容				
	・第3回分科会では、設置目的の「日本における言語の多様性が急速に失われつつある状況の中で、可能な対策を審議する」にしたがって、定延利之委員（京都大学大学院文学研究科・連携会員）が「日本語のできない帰国児童・生徒を中心に」というテーマで報告・問題提起を行い、その後、全員でこの問題について議論した。それを受けて、今後の活動を「言語弱者のインクルージョン」に焦点を当てて				

	行うこととした。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年3月8日 第3回分科会（オンライン開催）
今後の課題等	多様な日本語の継承ならびに言語弱者のインクルージョン（聴覚障害を持つ人たち、帰国児童・生徒、日本に住む外国人等を含む）について議論を進め、今期中にシンポジウムを開催する計画である。

言語・文学委員会（人文学の国際化と日本語分科会）					
委員長	竹本 幹夫	副委員長	窪田 晴夫	幹事	松森 晶子
主な活動	審議内容				
	人文学の国際化を廻る課題につき、提言案を親委員会に提出したが、そのアドバイスに従い、見解案の形で再検討することとした。その後なお審議を重ね後述のように見解案成案を事務局に提出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解案「日本の人文知の更なる共有のために」を令和4年9月事務局に提出。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第8回分科会：令和3年11月13日、第9回分科会：12月17日、第10回分科会：令和4年5月19日、第11回分科会：7月17日をオンライン開催。この間に複数回のワーキンググループ会議をオンライン開催。				
今後の課題等	わが国の学術が抱える国際化の課題について、言語・文学系を超えた人文学の諸分野、さらには社会科学・自然科学の諸分野との協同の可能性を模索する。				

②哲学委員会



哲学委員会					
委員長	吉岡 洋	副委員長	吉水 千鶴子	幹事	奥田 太郎
主な活動	審議内容				
	令和4年における公開シンポジウムの日程、テーマ、登壇者について協議した。新型コロナウイルス感染症のパンデミックやロシアによるウクライナ侵攻という現代世界の情勢をふまえ、「今、なぜ国家が問われるのか？」というタイトルのもとに12月10日にオンラインで開催することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	哲学委員会としては表出の具体的な予定はないが、いのちと心を考える分科会から報告表出の提案があり、哲学委員会において承認した。また、今後の意思の表出のあり方に関して議論を深めていく。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	公開シンポジウム「コロナ禍における人間の尊厳——危機に向き合って」を令和3年12月5日にオンラインで開催した。				
	当該期間中の委員会の開催実績はない。次回は令和4年12月10日を予定している。				
今後の課題等	日本学術会議のあり方が大きく問われている状況を踏まえ、他の委員会・分科会とも連携をとりつつ、哲学的な視点に基づく学術への寄与について検討していく。				

哲学委員会（芸術と文化環境分科会）					
委員長	佐野 みどり	副委員長	澁谷 政子	幹事	上原 麻有子
主な活動	審議内容				
	文化の多様性と持続可能な文化資源の保存・活用を共通認識として、令和4年度は＜風土＞、＜視覚と聴覚＞をテーマに審議し、1）芸術の枠組み、2）環境、3）越境を柱としたシンポジウム開催に向けた準備を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	令和4年11月26日、27日シンポジウム「芸術としての風土」を開催予定
開催状況	令和4年4月26日 分科会（オンライン開催） 令和4年7月13日 分科会（オンライン開催） 令和4年11月2日 分科会（オンライン開催） 予定 シンポジウムは、内外のゲストによる4つの基調講演、5つの講演、パネルディスカッションを二日間にわたって、対面とオンラインで広く参加者を募って開催する（11月26日、27日）。シンポジウムの記録は、後日公開する予定である。
今後の課題等	芸術・文化の多様性と翻訳としての文化継承など、芸術・文化の公共性と社会性に向き合い、いかに持続可能な文化環境を構想し支えていくか、分科会での討議やその延長上に設定するシンポジウムの開催などを通して、具体的な議論を広く周知していく。特に、21期からの課題であった1）異なる言語圏への文化発信、2）文化資源のアーカイブについて、領域を超えた議論のいっそうの深化とその発信を課題とする。

哲学委員会（古典精神と未来社会分科会）					
委員長	中島 隆博	副委員長	納富 信留	幹事	梶原 三恵子
主な活動	審議内容				
	昨年度から引き続き、人類にとって共通の遺産と言える古典を、現代的な観点から読解し直すことで、新たな社会的構想力に資する審議を行なっている。古典の範囲は、狭い意味での哲学だけでなく人文学全般に及ぶ分野横断的なもので、近現代のテキストも古典に含まれている。それぞれのメンバーが学協会に関与しており、そちらでの議論との連携も念頭に置いているが、より分野横断的な活動を考えている。アウトプットとして岩波ジュニア新書での出版が承認され、執筆に入ったところである。出版後に、社会に開かれたシンポジウム等を予定している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年11月7日、令和4年5月14日（いずれもオンライン開催）				
今後の課題等	今期が開始して二年目に入った。昨年と同様に、このコロナ禍において広い意味での哲学の役割がなおのこと問われていると考えている。健康が義務とまでなった現代社会において、人間の心と身体のあり方が問い直されていることは言うまでもないが、人と人との繋がりが分断された中で、人が他者とともにあるとはいかなることかも改めて問われている。この分科会は、古典のアクチュアルな読解を通じてこうした社会から課せられている問いに応えようとするものである。 3年間の活動方針として、古典を導きの糸にしなが、若い世代とともに今日的な課題を一緒に考えるプラットフォームを作ることと考えている。書籍の出版が承認され、執筆が始まったので、まずは無事に出版することを目指す。その後				

	に、高校教員・高校生と協同したワークショップそしてシンポジウムを開催しようと考えている。
--	--

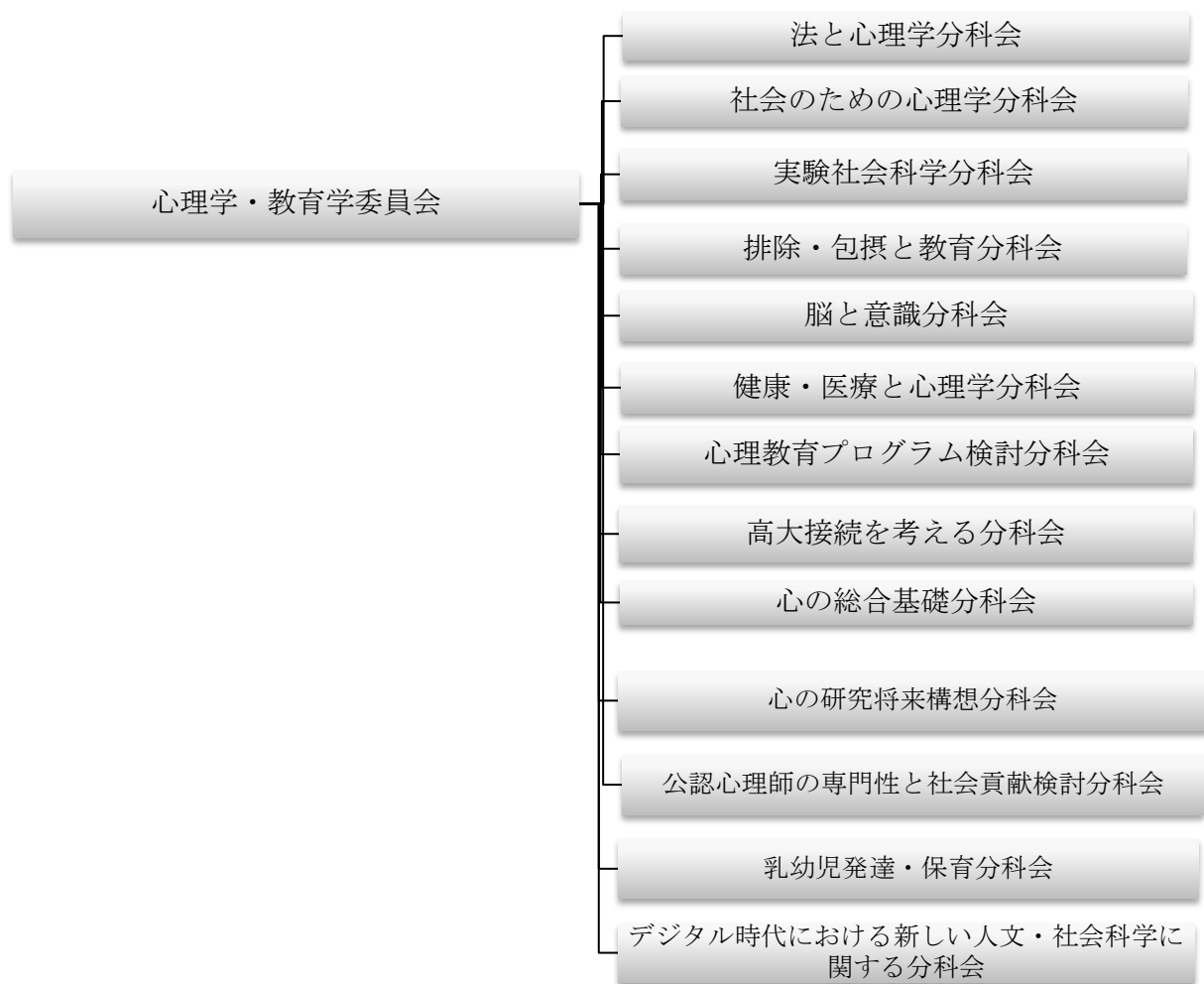
哲学委員会（いのちと心を考える分科会）					
委員長	土井 健司	副委員長	田坂 さつき	幹事	加藤 泰史、建石 真公子
主な活動	審議内容				
	第 25 期はコロナ禍にあつてトリアージの問題から審議をはじめ、令和 3 年 8 月 29 日にシンポジウムを実施したが、その後このトリアージのシンポジウム並びにこれまでの分科会での審議を中心に書籍化を検討し、『コロナ禍とトリアージを問う』（青弓社）を令和 4 年 5 月 26 日に公刊している。トリアージは災害時におけるいのちの選択を迫るものであるが、さらに発展して次に「安楽死・尊厳死」の問題について協議を進めてきている。参考人として第 9 回分科会では松田純（静岡大学特任教授）、第 10 回分科会では本田まり（芝浦工業大学教授）、さらに第 11 回分科会では小松美彦（東京大学特任教授）を招き、ドイツ、イタリア、ベルギー、また日本の福生病院事件などについて意見を聴取し、この問題について協議を行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	安楽死・尊厳死の問題は深く広いものであるので、「提言」や「見解」を出す段階にはないと判断し、「報告」を出す予定にしている。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 3 年 10 月 16 日第 6 回分科会 令和 3 年 12 月 5 日第 7 回分科会 令和 4 年 1 月 24 日第 8 回分科会 令和 4 年 6 月 11 日第 9 回分科会 令和 4 年 8 月 31 日第 10 回分科会				
今後の課題等	安楽死・尊厳死についてさらに多角的に協議する予定				

哲学委員会（哲学・倫理・宗教教育分科会）					
委員長	中村 征樹	副委員長	垣内 景子	幹事	奥田 太郎
主な活動	審議内容				
	哲学・倫理・宗教教育分科会では、第 24 期に公表した報告「道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために」が教育現場で有効に活用されることを目的に議論を行ってきた。そのためには教育現場等との連絡・連携・協力を進めることを念頭に、テクノロジー、ジェンダー、多文化共生、戦争等、現代的なテーマを切り口に、道徳教科書の内容を具体的に検討していくこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年4月16日
今後の課題等	第24期の上記報告が初等中等教育の道德教育の現場で効果的に活用されるための方策について、引き続き、多面的に検討するとともに、社会発信を積極的に行っていきたい。

哲学委員会（世界哲学構築のための分科会）					
委員長	納富 信留	副委員長	上原 麻有子	幹事	藤原 聖子
主な活動	審議内容				
	世界哲学会大会 WCP を将来、日本・東京に招致することを目指して、日本から発信する「世界哲学 World Philosophy」について、国内外の状況の情報や意見交換を行っている。哲学系諸学会で今後シンポジウムや研究会の企画を進めるため、本分科会はその実質的な支援を行なっていく。CIPSH、FISP の日本での運営委員会開催（令和5年度予定）に協力する準備を始めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	分科会メンバーで情報交換を行っているが、分科会は当該期間中には開催していない。				
今後の課題等	本分科会は「世界哲学」を多角的に展開するためのプラットフォームとして、世界の哲学において日本が果たす役割を積極的に打ち出していく。				

③心理学・教育学委員会



心理学・教育学委員会					
委員長	西田 眞也	副委員長	松下 佳代	幹事	坂田 省吾、吉田 文
主な活動	審議内容				
	・分科会活動について ・学術会議に求められる活動を行うための施策について ・他分野との連携について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会を中心に意思の表出の準備が進められている。各分科会の報告を参照。				
	開催シンポジウム等				
	分科会を中心にシンポジウムが行われた。詳細は各分科会の報告を参照。				
開催状況	当該期間中には、開催実績なし				

今後の課題等	引き続き分科会を中心に、心理学・教育学からの政策提言、社会貢献および関連領域の学術的振興に資する活動を行う。心理学関係では、分科会横断的に公認心理師の問題を多角的に検討する。
--------	---

心理学・教育学委員会（法と心理学分科会）					
委員長	松宮 孝明	副委員長	仲 真紀子	幹事	河原 純一郎、笹倉 香奈
主な活動	審議内容				
	昨年度に引き続き、法学と心理学とにおける「人間観」の異同を、各委員の専門に即して突き合わせる作業を行っている。あわせて、先期からの課題である公認心理師試験問題に関する意見表出のための作業を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。ただし、第25期の分科会での議論の成果を、分科会所属の研究者名で一般向けの書籍ないしブックレットとして公刊することを計画している。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年3月2日、8月5日（いずれもオンライン開催）				
今後の課題等	現在、法と心理学分科会では主に法学と心理学とでの人間観の異同を明らかにするための研究活動を行っている。あわせて、先期からの課題である公認心理師試験問題に関する意思の表出を試みる。				

心理学教育学委員会（実験社会科学分科会）					
委員長	亀田 達也	副委員長	上條 良夫	幹事	西村 直子、八木 信行
主な活動	審議内容				
	・社会科学を広義の実験手法でつなぐ実験社会科学の展開に関するこれまでの取組の吟味 ・フューチャーデザインや計算社会科学との有機的連携に関する検討				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	実験社会科学カンファレンス（令和4年10月22日、23日 信州大学経法学部）				
開催状況	第1回：令和4年10月23日（ハイブリッド開催）				
今後の課題等	若手の研究を一層プロモートし、また、実験社会科学への参加者・参入領域を増やすべく、多様な活動を継続する。				

心理学・教育学委員会（排除・包摂と教育分科会）					
委員長	岡部 美香	副委員長	小玉 重夫	幹事	勝野 正章
主な活動	審議内容				

	第4回分科会では、大阪府立西成高等学校および私立大東学園高等学校から生徒・教員等を招聘し、高校生の就職および社会・政治参加に関する現状と課題について当事者からの報告に基づき議論をした。第5回分科会では、第25期の今後の活動について協議した。第6回分科会では、G7およびGサイエンスに合わせて、OECDと協働しつつ、高校生・大学生が参加する「排除・包摂」に関わる企画を実施することに賛同を得た。 意思の表出（※見込み含む） 特に提言等による意思の表出は考えていない。一般市民に開かれた研修会・シンポジウムを今期中に複数回開催する予定である。 開催シンポジウム等 令和5年3月には、OECDと協働して、高校生・大学生が参加できる国際イベントを企画している。また、ソ連のウクライナ侵攻にかかわって日本教育学会と協働して令和4年3月24日に緊急セミナー「ウクライナ情勢を考える：教育学に何ができるか？」を開催した。この内容を書籍にまとめて刊行する予定である。
開催状況	第4回会合：令和3年10月9日（オンライン開催） 第5回会合：令和4年1月17日（オンライン開催） 第6回会合：令和4年5月30日（オンライン開催）
今後の課題等	日本の学術的成果の国際比較・国際発信を目指すべく、日本教育学会の英文誌（Educational Studies in Japan）No.17のSpecial Issue “Rethinking Boundaries: Dilemmas and Potentials”を企画した（発行は令和5年春）。 また、期間内に日本学術会議と一般市民との距離を近づけるべく、子どもを含め、教育や福祉の現場で実際に活動している人々が主体的に参加できるようなシンポジウム等を日本教育学会等の教育関連学会や教育関連学会連絡協議会と協働で複数企画する。 他に、「パンデミックと社会に関する連絡協議会」に、パンデミック下の子どもと若者の現状、教育と福祉の現状に関するデータを提供するべく、諸学協会の協力を得ながら分析チームを立ち上げている。

心理学・教育学委員会（脳と意識分科会）					
委員長	荳阪 直行	副委員長	松井 三枝	幹事	坂田 省吾、蘆田 宏
主な活動	審議内容 「融合社会脳研究センター構想」について第24期から引き続いて議論を行った。また第25期から新規に参加した各委員の専門の研究内容紹介を行うとともに、脳と意識を中心とした研究分野における研究ネットワークの創生についても活発な議論を行っている。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 なし				

開催状況	センター構想やネットワーク構築につき、随時ワーキンググループでリモート会議を開催している。
今後の課題等	「融合社会脳研究センター構想」実現に向けてその基盤ネットワークの整備などを今後の課題として検討している。

心理学・教育学委員会（健康・医療と心理学検討分科会）					
委員長	鈴木 伸一	副委員長	丹野 義彦	幹事	松井 三枝、佐々木 淳
主な活動	審議内容				
	健康・医療分野における公認心理師の専門性向上と制度の普及・発展に関わる諸課題を明確するとともに、当該分野での心理学研究の発展可能性について議論する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウムを開催予定				
開催状況	今年度2回開催予定（うち1回は令和4年1月24日に開催済）				
今後の課題等	当分科会の議論の内容を関連諸学会等と共有しながら、健康・医療政策に反映していくロードマップの作成が必要である。				

心理学・教育学委員会（高大接続を考える分科会）					
委員長	吉田 文	副委員長	松下 佳代	幹事	西岡 加名恵、中村 高康
主な活動	審議内容				
	日本の高校と大学の接続の状況を、1. 入学者選抜に加えて、2. 学習者の高校から大学へ移行状況、3. 大学のディシプリンと高校の教科の関係と幅広く検討する。また、日本の状況を相対化することを目的とし、国際比較の観点を導入する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第25期中に報告を発出する予定				
	開催シンポジウム等				
	令和4年11月12日シンポジウムを開催予定 令和5年3月11日公開シンポジウムを開催予定（共催：教育学関連学会連絡協議会）				
開催状況	令和4年3月12日に第4回分科会、7月31日に第5回分科会を、Zoomを利用して開催。12月に第6回分科会を開催予定。				
今後の課題等	上記の審議を進める途上で、関連学協会との連携、高校教員等の聞き取りなどを行い、実効性の高い報告を発出することを課題とする。				

心理学・教育学委員会（心の総合基礎分科会）					
委員長	坂田 省吾	副委員長	齋木 潤	幹事	川合 伸幸、四本 裕子

主な活動	審議内容
	心理学の基礎教育のあり方、大学院の心理学教育や若手基礎心理研究者のキャリアパス等について昨年度に引き続き審議した。今年度は心理学の基礎教育に大きな影響を持つ公認心理師カリキュラム改訂について賛同することとした。未来の学術振興構想についても議論した。
	意思の表出（※見込み含む）
	心理学の基礎教育の重要性について次期に「見解」表出に向けて議論を進める予定である。
	開催シンポジウム等
	来年度日本心理学会において公開シンポジウムを開催することについて議論した。
開催状況	令和3年12月30日 第4回分科会（オンライン開催） 令和4年1月24日 第5回分科会（オンライン開催） 令和4年9月12日 第6回分科会（オンライン開催）
今後の課題等	公認心理師カリキュラムが心理学教育に様々な影響を及ぼしており、心理学の基礎知識を持った公認心理師養成のためにもカリキュラム改訂議論が必要である。

心理学・教育学委員会（心の研究将来構想分科会）					
委員長	四本 裕子	副委員長	西田 眞也	幹事	明和 政子、蒲池 みゆき
主な活動	審議内容				
	現在の社会問題の解決に心の科学がいかんにして貢献できるか、総合知として考える際の心の科学のあり方を中心に、日本における心の研究のあり方について議論した。学術の中長期研究戦略の公募に申請することに合意し、その具体的内容について審議を続けている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	合同分科会 1 回（令和 4 年 1 月 24 日）、分科会 1 回（令和 4 年 8 月 26 日）				
今後の課題等	学術の中長期研究戦略の公募の申請書の提出に向けて、より具体的にとり得るアクションについて議論を進める。				

心理学・教育学委員会（公認心理師の専門性と社会貢献検討分科会）					
委員長	丹野 義彦	副委員長	鈴木 伸一	幹事	松井 三枝、佐々木 淳
主な活動	審議内容				
	心理学・教育学委員会は平成 20 年から心理職の国家資格についての提言を発出してきた。平成 29 年に公認心理師法が施行されたのを受けて、国家資格である公認心理師のあり方を学術の観点から検討するために本分科会が設置された。検討課題は、公認心理師の専門性を担保する制度（卒後研修や実習指導者養成など）や、				

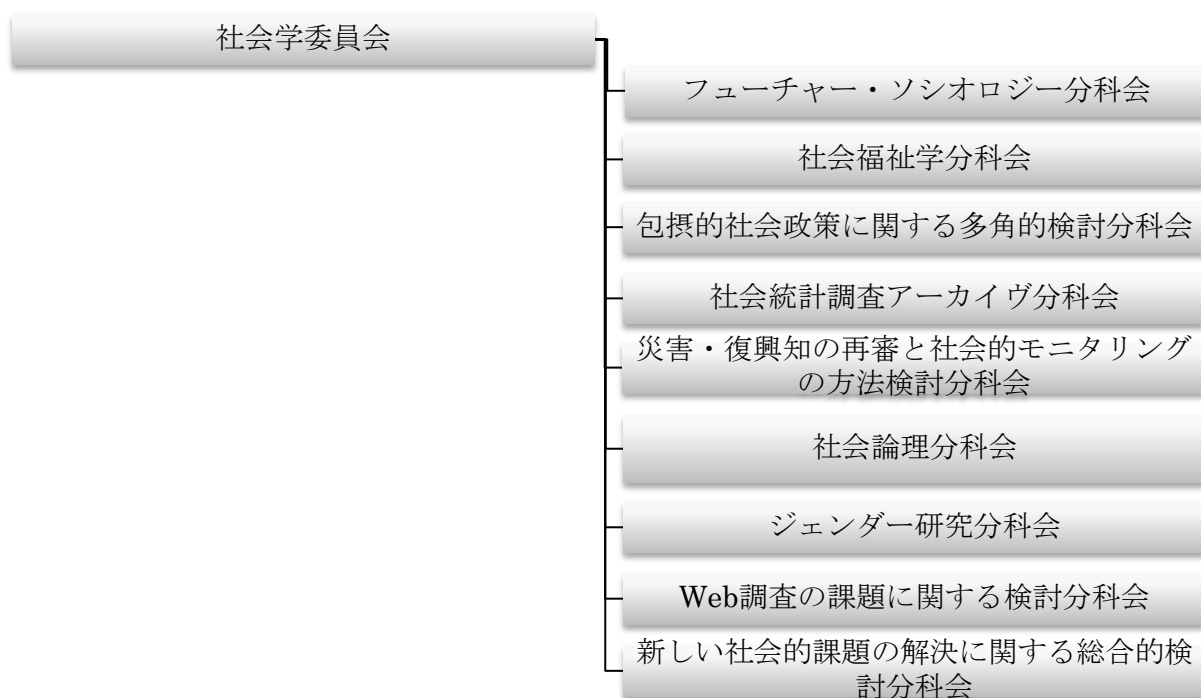
	公認心理師の社会貢献を高める方略（職域拡大や待遇改善、社会に対する公認心理師の理解を深めるなど）である。心理学関係者を中心として、公認心理師の活動の主要5分野（医療・教育・産業・司法・福祉）から広く委員を募り意見を聴取する。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	関連する諸分科会、関連学会、関連省庁と連携したシンポジウムを開催する。
開催状況	第3回分科会 令和4年1月24日
今後の課題等	主要5分野（医療・教育・産業・司法・福祉）ごとに問題点を洗い出し、それに対する対応を考える。

心理学・教育学委員会（乳幼児発達・保育分科会）					
委員長	浅井 幸子	副委員長	中坪 史典	幹事	野澤 祥子、實藤 和佳子
主な活動	審議内容				
	「子ども政策の総合化」に関わって、横の連携と縦の接続のあり方について検討を進めている。第2回分科会では、今後の活動について検討し、学習会を実施してシンポジウムを準備することを定めた。第3回分科会では、幼保小接続・連携の歴史と実践に関する報告を受け、課題について議論を行った（報告者：湯川委員、小玉委員）。第4回分科会では、幼保小接続・連携の国際展開と政策に関する報告を受け、課題について議論を行った（報告者：秋田委員、門田氏（参考人））。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	令和3年10月31日に、排除・包摂分科会と共催で、オンライン公開シンポジウム「子ども政策の総合化について考える」を開催した。また、令和4年2月にオンライン公開シンポジウム「子ども政策の総合化について考えるⅡ」を開催予定。				
開催状況	第2回：令和4年2月28日（オンライン開催） 第3回：令和4年4月22日（オンライン開催） 第4回：令和4年6月27日（オンライン開催）				
今後の課題等	子ども基本法の成立を受けて、乳幼児の権利保障に向けて議論を深めるとともに、その課題について積極的に市民に問い、議論を行う。				

心理学・教育学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・情報学委員会合同（デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会）					
委員長	永崎 研宣	副委員長	西田 眞也	幹事	木部 暢子、隠岐 さや香
主な活動	審議内容				
	デジタル時代を迎えた人文・社会科学の新しい動向について、歴史学・社会学・デジタル教育・情報学をテーマとして適宜参考人を招致しつつ検討を行った。				

	意思の表出（※見込み含む）
	見解を提出予定
	開催シンポジウム等
	令和４年１月２２日に、「総合知創出に向けた人文・社会科学のデジタル研究基盤構築の現在」を開催。
開催状況	令和３年１１月２６日、令和４年３月１５日、７月１４日
今後の課題等	見解の提出に向けた、より分野横断的かつ発展的な議論を展開する。

④社会学委員会



社会学委員会					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	和気 純子	幹事	岩井 紀子、白波瀬 佐和子
主な活動	審議内容				
	社会学、社会福祉学全般について現代社会における学問のあり方を検討し、研究を推進するための方策を審議する。 そのために社会学委員会新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会と連携して実質的な審議を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	令和3年10月2日、令和4年1月11日、4月18日、8月31日				
今後の課題等	コロナ後の社会のあり方（リモートと対面のメリット・デメリットの比較衡量など）について社会学、社会福祉学の視点から検討する。				

社会学委員会（社会福祉学分科会）					
委員長	和気 純子	副委員長	原田 正樹	幹事	保正 友子、竹本 与志人
主な活動	審議内容				

	「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への変革～」に向けて、社会福祉学の各領域における実践および研究動向を議論し、必要な変革について審議した。
	意思の表出（※見込み含む）
	見解（案）「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への変革～」を作成し、対応委員会での審議を経て、現在、社会学委員会で査読を受けている。今年度中の発出を予定している。
	開催シンポジウム等
	令和4年4月23日に、社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会とともに、シンポジウム「孤独・孤立と『つながり』の再生」を共催した。
開催状況	令和4年6月19日に、第25期7回目の分科会を開催し、明治学院大学教授の新保美香教授参考人より、生活困窮者自立支援制度について講義いただいた。
今後の課題等	見解の発出にもとづき、関係者、団体、市民等にむけてシンポジウムを開催し、周知および議論の深化に努める。

社会学委員会・経済学委員会合同（包摂的社会政策に関する多角的検討分科会）					
委員長	須田 木綿子	副委員長	岩崎 晋也	幹事	和気 純子
な活動	審議内容				
	令和4年4月23日に、『孤独・孤立と「つながり」の再生』と題するシンポジウムを開催した。内閣官房孤独・孤立対策担当室にご登壇をいただき、取組の概要と、シンポジウム直前に公表された「人々のつながりに関する基礎調査」の結果について報告をいただいた。さらに、「つながり」の再構築にむけてNPO・ボランティアの視点から課題を提起し、格差・分断、ジェンダー、地域・社会福祉協議会との関わりで議論を深めた。当日の参加者は392名。後日の見逃し配信再生回数は381と、多くの関心を得た。6月には、第24期の成果として、『自助社会を終わらせる』（宮本太郎編、岩波書店）を刊行した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会内での審議の結果、第25期は意見の表出を行わないこととした。				
	開催シンポジウム等				
	令和5年度前半に、シンポジウムを開催する計画である。				
開催状況	令和4年4月23日 分科会開催 令和4年4月23日 シンポジウム開催 令和4年8月10日 分科会開催 令和4年12月 分科会を開催予定				
今後の課題等	次回のシンポジウムについて				

社会学委員会（社会統計調査アーカイブ分科会）					
委員長	玉野 和志	副委員長	園田 茂人	幹事	吉川 徹、永吉 希久子

主な活動	審議内容
	社会統計調査のデータアーカイヴについて検討してきたこれまでの経緯もふまえ、今期ではその必要性について、改めて確認する意味で、政府統計データや政策の立案・実施過程でのデータの活用という意味でのエビデンスにもとづく政策形成（Evidence Based Policy Making: EBPM）などの動きも含めて、広く審議している。
	意思の表出（※見込み含む）
	見解の作成を予定している。
	開催シンポジウム等
	見解の作成後に検討する予定である。
開催状況	令和4年2月20日、8月9日、9月23日にいずれもオンラインで行った。9月23日には公的統計の品質向上に向けての建議を行った当事者から聴取を行った。
今後の課題等	アーカイヴを含め、データを活用し、データにもとづく政策形成や問題解決を推進するための方策について、その実施が求められる機関や組織に対して見解を表出する。

社会学委員会（災害・復興知の再審と社会的モニタリングの方法検討分科会）					
委員長	吉原 直樹	副委員長	山下 祐介	幹事	浅川 達人、青柳 みどり
主な活動	審議内容				
	東日本大震災の復興政策の検証のためのモニタリングの方法を検討するとともに、モニタリングの結果を復興政策にフィードバックするための新たな道筋をさぐっている。審議結果は、下記シンポジウムで発表するとともに、『学術の動向』で報告することになっている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今のところ提言にするか、報告にするか、それとも見解にするかは決まっていなが、そのいずれかで意思を表出する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年9月17日に分科会主催の公開シンポジウム「東日本大震災をめぐる社会的モニタリングの方法と課題」オンラインで開催した。				
開催状況	これまでに分科会3回、研究会3回開催した。その成果を上記シンポジウムに活かすとともに、『学術の動向』令和5年3月号に発表することとなっている。				
今後の課題等	審議内容を社会により広く伝えるために、メディアに積極的に働きかける等、多面的な広報活動を行う必要がある。				

社会学委員会（社会理論分科会）					
委員長	遠藤 薫	副委員長	山田 真茂留	幹事	有田 伸、筒井 淳也
主な活動	審議内容				

	1. グローバリゼーション、コミュニティ、近代化/後期近代化など、社会理論の核となってきた諸概念、ならびに関連する諸理論の再検討・再構築 2. 日本社会、あるいはアジア社会のリアリティを踏まえた社会理論の彫琢と発信の方策 に係る審議を行う。 今期は特にコロナ・パンデミックの社会的影響とそれに対する対応について審議する。
	意思の表出（※見込み含む）
	来年春頃、東大出版会より、本委員会の議論の成果を書籍として刊行予定。
	開催シンポジウム等
	令和4年3月15日 学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる#6ウィズ／ポストコロナ時代の民主主義を考える：「誰も取り残されない」社会を目指して」を開催。 令和4年11月13日 公開シンポジウム「コロナ・パンデミックと格差・分断・貧困－現状と今後－」を開催予定。
開催状況	第4回令和3年9月27日、第5回令和3年12月12日、第6回令和4年3月22日、第7回令和4年5月18～24日（メール審議）、第8回令和4年7月6日。各小委員会は別途委員会を開催。
今後の課題等	コロナ・パンデミックは、これまで以上に社会の格差を拡大する方向に働き、民主主義という近代の理念さえ揺るがせている。令和4年2月に起こったウクライナ侵攻もその表れといえる。こうした問題に社会理論はどのように対応するか、審議を行っている。

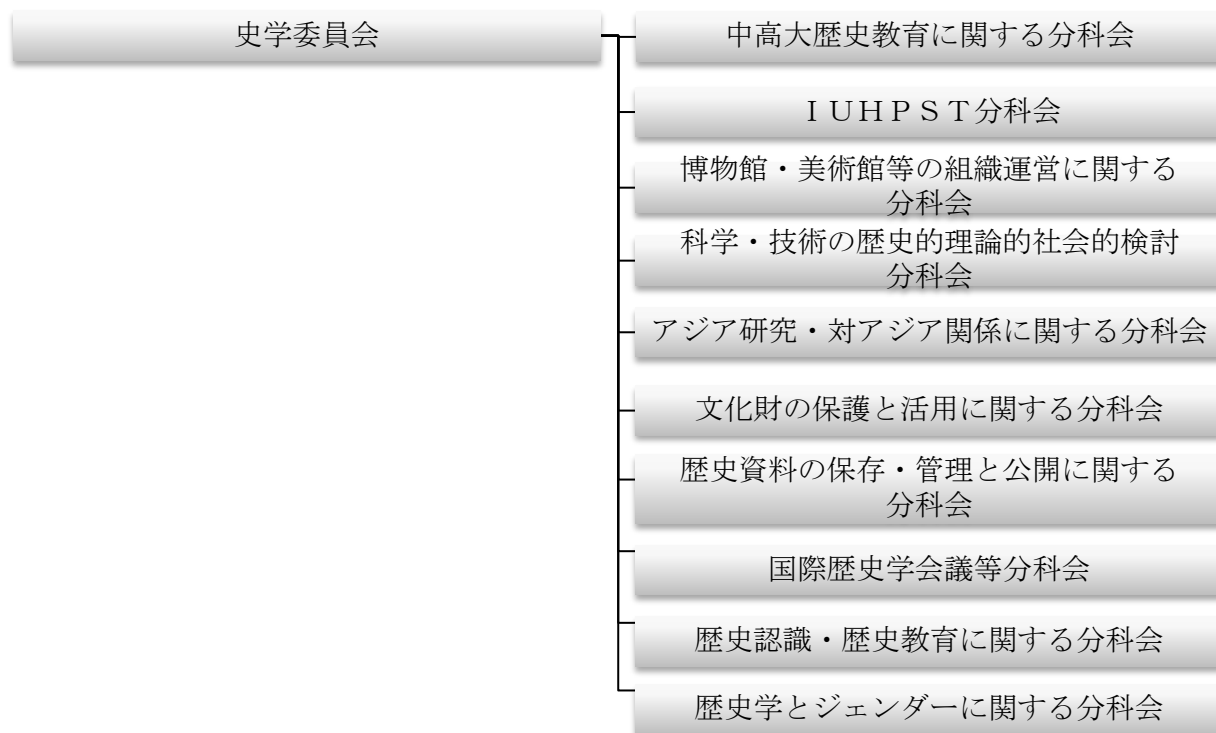
社会学委員会（ジェンダー研究分科会）					
委員長	柘植 あづみ	副委員長	中谷 文美	幹事	池田 恵子、海妻 径子
主な活動	審議内容				
	・第6回分科会（令和4年1月14日） 3月開催の公開シンポジウムについて審議 「第一部関連分野別委員会および分科会が作成する提言・見解等の取扱いについて」審議 ・第7回分科会（令和4年5月23日） ジェンダー研究分科会が開催する勉強会・シンポジウムの計画について審議				
	意思の表出（※見込み含む）				
	学術領域における非正規教職員の勤務・雇用状況についての意思の表出を予定して検討中である。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「女性の政治参画をどう進めるか？」（令和4年3月13日）（主催：日本学術会議第一部会員・第一部法学委員会ジェンダー法分科会、政治学委員会比較政治分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、第一部総合ジェンダー分科会）を開催。				

開催状況	分科会も公開シンポジウムもオンライン開催であった。 第6回分科会（令和4年1月14日） 第7回分科会（令和4年5月23日） 公開シンポジウム「女性の政治参画をどう進めるか？」（令和4年3月13日）
今後の課題等	意思の表出に関する審議と文書作成

社会学委員会（Web 調査の課題に関する検討分科会）					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	吉川 徹	幹事	今田 高俊、石井 クンツ昌子
主な活動	審議内容				
	ビッグデータや地理情報を活用した社会学的研究を推進する方策を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	何らかの形で意思を表出することを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウムを開催することを検討している。				
開催状況	令和4年2月20日、8月9日、9月23日				
今後の課題等	意思の表出に向けて今までの審議内容を整理・再検討する。				

社会学委員会（新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会分科会）					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	和気 純子	幹事	柘植 あづみ、玉野 和志
主な活動	審議内容				
	社会学委員会の下にある各分科会の横の連携を促進し、分野を越えた議論を展開する方策を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	当該期間中の開催予定なし				
今後の課題等	各分科会間の連携を促進し、情報共有を行う。				

⑤史学委員会



史学委員会					
委員長	若尾 政希	副委員長	栗田 禎子	幹事	佐野 正博、芳賀 満
主な活動	審議内容				
	1. 各分科会の活動について情報共有を行い、史学委員会・分科会との共催シンポジウムについて審議し、了承した。 2. 史学委員会内設置分科会の予算執行状況の確認と協議を行った。 3. 日本学術会議資料の保全の在り方について協議した。 なお、各分科会の活動について情報共有を行うために、史学委員会内に設置された分科会の正副委員長と緊密に連絡を取り合う体制（拡大史学委員会と仮称）を作り情報共有を図った。また、「パンデミックと社会に関する連絡会議」に史学委員会から4つの分科会が参加している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	1. 公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐって（5）－「歴史総合」の教科書をどう作ったか」（令和3年10月30日、日本歴史学協会と共催、オンライン開催） 2. 公開シンポジウム「アーカイブズ専門職問題の新潮流」（令和4年6月25日、日本歴史学協会と共催、オンライン開催） 3. 公開シンポジウム「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」（令和4年10月2日開催予定、オンライン開催）				

開催状況	1. 第4回（令和3年12月2日）（日本学術会議・オンライン併用） 2. 第5回（令和4年3月17日）（オンライン開催） 3. 第6回（令和4年6月13日）（オンライン開催）
今後の課題等	日本学術会議の公文書である日本学術会議資料を、日本学術会議事務局と相談・連携しながら、いかに保全していくかという課題に取り組んでいきたい。

史学委員会（中高大歴史教育に関する分科会）					
委員長	若尾 政希	副委員長	鈴木 茂	幹事	小浜 正子、近藤 孝弘
主な活動	審議内容				
	1. 中学校・高校・大学等の歴史教育をめぐる諸問題とその学術的背景について 2. 歴史教育における中高大連携問題について 3. 高等学校の新科目「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の意義と課題について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐる（5）－「歴史総合」の教科書をどう作ったか」（令和3年10月30日、日本歴史学協会と共催、オンライン開催）				
開催状況	第4回分科会（令和3年12月11日）（オンライン開催） 第5回分科会（令和4年3月20日）（オンライン開催） 第6回分科会（令和4年6月12日）（オンライン開催）				
今後の課題等	令和4年度からの高校新学習指導要領の施行を受け、特に中学校・高校・大学等の歴史教育の接続と新科目による大学入試の円滑な実施を促す活動を行っている。				

史学委員会（IUHPST 分科会）					
委員長	木本 忠昭	副委員長	戸田山 和久	幹事	佐野 正博、橋本 毅彦
主な活動	審議内容				
	令和3年7月開催の第26回国際科学史技術史会議（於プラハ・オンライン）に際して、参加体制の準備・役員の推薦選出をはじめ、総会での議論等会議万端にわたっての対応を行った。12月開催のCIPSH国際会議の状況を分科会で報告するとともに、日本学会議会長に宛てて、「CIPSHとの連携強化についての申し入れ」を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	第4回分科会（令和3年10月30日）（オンライン開催） 第5回分科会（令和3年12月19日）（オンライン開催） 第6回分科会（令和4年3月28日）（オンライン開催） 第7回分科会（令和4年9月16日）（オンライン開催）
今後の課題等	令和5年には、第17回論理・方法論・科学哲学技術哲学国際会議（科学基礎論国際会議）が開催されるほか、日本国内でCIPSHの国際会議も計画されており、これらの国際会議対応が必要である。さらに、科学史技術史分野でもオンラインで初の国際討論会が予定されている。

史学委員会（博物館・美術館等の組織運営に関する分科会）					
委員長	芳賀 満	副委員長	木俣 元一	幹事	松田 陽、瀬谷 愛
主な活動	審議内容				
	第23期、第24期の本分科会発出の「提言」をも踏まえて文化庁において博物館法改正の審議が進む中、文化庁で法改正を担当している方を参考人として招致し審議を重ねた。その後、令和4年の通常国会で「博物館法の一部を改正する法律」が成立し、この新博物館法を受けてさらに認証博物館制度と博物館における学芸員等の専門家に関して審議を重ねた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	認証博物館制度と学芸員制度について見解を発出の予定				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第5回分科会（令和3年12月7日）（オンライン開催） 第6回分科会（令和4年3月14日）（オンライン開催）				
今後の課題等	新博物館法では学芸員制度の改善が見送られた。学芸員の現状に対応しつつ、今後も制度改善を進める必要がある。				

史学委員会（科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会）					
委員長	佐野 正博	副委員長	隠岐 さや香	幹事	田口 直樹、中村 征樹
主な活動	審議内容				
	本分科会は、諸自然科学と諸文系科学との境界領域問題をはじめ、社会と科学・技術の間の問題、科学・技術の社会内における発展の仕方の問題等を歴史的に分析し、また現代社会における科学・技術のあり方の諸問題について審議している。 今期は、科学史・技術史、科学論・技術論、科学技術社会学の観点から見た「イノベーション」問題、「学術と政治」問題などについて検討を行った。また、パンデミックと社会に関する連絡会議に対して、「パンデミックに対する科学者組織の歴史的対応」という追加テーマの提案を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第3回分科会（令和3年12月27日）（オンライン開催） 第4回分科会（令和4年3月28日）（オンライン開催） 第5回分科会（令和4年9月16日）（オンライン開催）
今後の課題等	①イノベーションに関する科学史・技術史視点からの検討、②科学技術基本法の改正問題、③学術研究の社会的意義

史学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・地域研究委員会合同（アジア研究・対アジア関係に関する分科会）					
委員長	川島 真	副委員長	栗田 禎子	幹事	下田 正弘、三重野 文晴
主な活動	審議内容 第24期で準備した提言案の内容（アジア研究者養成支援）を踏まえつつ、第23期の総合的な提言書に立ち返り、コロナ禍、またウクライナ戦争によるアジア研究の環境変容の実態に即した具体的発信の必要性を確認し、審議を進めている。また、ウクライナ戦争に関するアジア研究の知見を社会に向けて発信することも企図した。なお、「パンデミックと社会に関する連絡会議」にも参加している。 意思の表出（※見込み含む） 上記の審議内容に関しその成果を発信すべく、何らかの形での意思表示の可能性を検討中である。 開催シンポジウム等 1. 東洋学・アジア研究連絡協議会主催の公開シンポジウム「研究環境の変貌と東洋学・アジア研究」を後援（令和3年12月18日、オンライン開催） 2. 公開シンポジウム「アジアから見たウクライナ戦争」（令和4年9月18日、オンライン開催）				
開催状況	第3回分科会（令和4年3月29日）（オンライン開催） 第4回分科会（令和4年10月1日）（オンライン開催予定）				
今後の課題等	歴史学・地域研究・哲学・言語文学という異なるディシプリンの協働に基づく本分科会は、第25期において、第24期で準備した提言（案）を踏まえつつ、第23期の総合的提言の視点に立ち返り、新たな提言書を作成することが主たる課題である。 コロナ禍、ウクライナ戦争の中でアジア情勢、またアジア研究の環境は大きく変化した。日本にとってアジアとの関係性は緊密にして不可欠であり、アジア情勢の把握、アジア理解のためのアジア研究の進展は必要不可欠と考えられる。しかし、従来の学術・研究体制が近代以降の欧米発の学知の吸収・発展を主とした制度的枠組みに基づいていることなど、直面する課題は山積しており、分野横断的・学際的視点という特性を有する本分科会の果たすべき責務は重いと考えている。				

史学委員会（文化財の保護と活用に関する分科会）					
委員長	福永 伸哉	副委員長	芳賀 満	幹事	菊地 芳朗、松本 直子
主な活動	審議内容				
	平成31年4月施行の改正文化財保護法が文化財保護行政の体制や実務に及ぼす正負の影響、さまざまな災害が頻発する中で文化財防災・減災を図るための効果的な方策、文化財保護の次世代を担う人材育成等をおもな検討課題とし、各地の状況分析を踏まえて今後の文化財保護の望ましい方策を審議。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	審議内容を踏まえた「見解」の表出を予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年12月11日に、公開シンポジウム「文化財保護に未来はあるかー日本の文化財のこれからを考えるー」を開催予定。				
開催状況	第4回分科会（令和3年12月21日）（オンライン開催） 第5回分科会（令和4年3月30日）（オンライン開催） 第6回分科会（令和4年8月4日）（オンライン開催）				
今後の課題等	人口減少、地域社会の縮小が進む中で、地域の文化財をいかに保護していくか、その要となる専門人材をいかに養成・確保していくかが、喫緊かつ長期的な課題。				

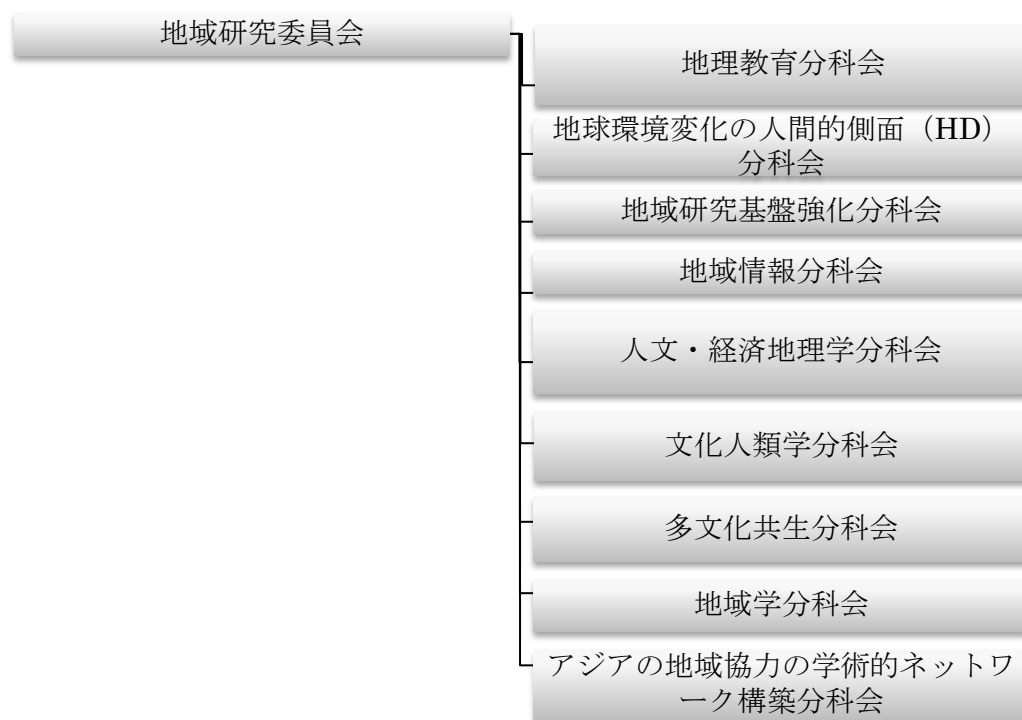
史学委員会（歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会）					
委員長	若尾 政希	副委員長	大友一雄	幹事	奥村 弘、柳原 敏明
主な活動	審議内容				
	本分科会では、主に①アーカイブズ制度の改善に向けて、②私文書の保存・管理をめぐって、③被災資料の救済・保全をめぐって、④日本学術会議資料の保存・管理・公開、⑤COVID-19に関わるアーカイブズ・資料の保全について、議論を積み重ねてきた。また、日本歴史学協会と連携して、公開シンポジウムを開催した。なお、パンデミックと社会に関する連絡会議にも参加している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解を発出すべく議論を積み重ねている				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「アーカイブズ専門職問題の新潮流」（令和4年6月25日、日本歴史学協会と共催、オンライン開催）				
開催状況	第4回分科会（令和4年3月4日）（オンライン開催） 第5回分科会（令和4年6月25日）（オンライン開催） 第6回分科会（令和4年10月30日）（オンライン開催予定）				
今後の課題等	審議内容に掲げた5つの課題はいずれも迅速に取り組んでいく必要があるが、同時に、長い時間をかけて議論を積み重ねていかねばならない。				

史学委員会（国際歴史学会議等分科会）					
委員長	吉澤 誠一郎	副委員長	小関 隆	幹事	小田中 直樹、浅田 進史
主な活動	審議内容				
	国際歴史学会議（CISH）について、渡邊啓貴理事を参考人として、理事会の現状および第23回大会の開催予定について確認した。日韓歴史家会議についても前年度の活動と今後の予定が報告された。また、歴史学の国際化をめぐる論点と課題について議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第2回分科会（令和4年1月21日）（オンライン開催）				
今後の課題等	令和4年11月に予定される日韓歴史家会議の成功に努めるとともに、第24回国際歴史学会議大会（イェルサレム）に向けて適切な準備を進める。また、国際的な歴史学の動向に対し我が国の歴史学界が取るべき対応について検討していきたい。				

史学委員会（歴史認識・歴史教育に関する分科会）					
委員長	栗田 禎子	副委員長	久留島 典子	幹事	鈴木 茂、中村 元哉
主な活動	審議内容				
	現在の社会が抱える歴史認識・歴史教育をめぐる諸課題を分科会委員全員で議論・検討する作業を進めるとともに、歴史教育の現場（高校の歴史教育）が抱える課題、教科書をめぐる制度の現状と課題等につき、それぞれ参考人を招聘して意見交換を行なう機会を持った。なお、「パンデミックと社会に関する連絡会議」にも参加している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記の活動成果を踏まえ、何らかの意思表出を行なうことを検討中である。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年10月2日に、公開シンポジウム「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」を開催予定（史学委員会と共催、オンライン開催）。				
開催状況	第3回分科会（令和3年12月11日）（オンライン開催） 第4回分科会（令和4年3月26日）（オンライン開催） 第5回分科会（令和4年6月12日）（オンライン開催） 第6回分科会（令和4年8月18日）（オンライン開催）				
今後の課題等	現在の日本社会が抱える歴史認識・歴史教育をめぐる諸課題を指摘・分析するとともに、今後のあり方をめぐる議論を喚起し、社会に発信するための意思の表出を検討している。外部の専門家を参考人として招聘して行なった意見交換の結果や、シンポジウム等での市民との対話の成果を意思の表出に適切に反映させたいと考えている。				

史学委員会（歴史学とジェンダーに関する分科会）					
委員長	長志 珠絵	副委員長	小浜 正子	幹事	高橋 裕子、來田 享子
主な活動	審議内容				
	第 25 期では、第 24 期における課題を踏まえ、新しい「歴史総合」の内容とその歴史実践、新たな「探究」にも注目するとともに、新しい課題としては前年度にて、市民教育におけるジェンダー史分野の貢献を中心課題として検討していくことを確認した。このため、歴史実践の場としての博物館に着目したが、さらに、デジタル・アーカイブという歴史教科書、歴史教育を取り巻く社会的環境の変化も踏まえ、アーカイブという資料保存空間をめぐっての課題を洗い出す試みを広げている。第 3 回分科会では、今後の参考人検討とともに、第 4 回で、戦後女性史のアーカイブとその抱える問題について参考人を招聘することを決めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし（記録にとどめるが 26 期につなぐことを意識している）				
	開催シンポジウム等				
	オンラインを活用した、海外招聘者を含む公開シンポジウムの開催を検討している。				
開催状況	第 3 回分科会（令和 4 年 8 月 27 日）（オンライン開催） 第 4 回分科会（令和 4 年 10 月 8 日）（オンライン開催予定）				
今後の課題等	第 25 期の市民教育におけるジェンダー史分野の貢献という課題を深めるため、さらにジェンダー射程におけるアーカイブズ空間とその課題をめぐって、国際比較や LGBT 資料など、新たなアーカイブの可能性と実践について、情報収集と議論を進める予定である。				

⑥地域研究委員会



地域研究委員会					
委員長	小長谷 有紀	副委員長	松原 宏	幹事	高倉 浩樹、宇山 智彦
主な活動	審議内容				
	令和4年2月に発生したウクライナ問題に対応するため、オンラインで連絡をとりあい、「学術フォーラム」の枠に申請すること、若い人びとも対象とすること、具体的なマネジメントの担当は、地域研究基盤強化委員会とすることにした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	委員会単位での意思の表出は予定していない。				
	開催シンポジウム等				
	ウクライナ問題に対応する国際シンポジウム「アジアから見たウクライナ戦争－世界の視線の多様性と日本の選択」を史学委員会、言語・文学委員会、哲学委員会と合同の委員会で令和4年9月18日にオンラインで実施した。				
開催状況	令和4年4月19日（第4回）でシンポジウムに関する方針を決定し、非公式でオンライン会議を実施し、学術フォーラムのプログラム案を検討した。 令和4年9月21日（第5回）で学術フォーラムの具体的な運営を決定した。				
今後の課題等	令和4年12月10日に実施する学術フォーラムについて周知を図る仕組みを構築し、学術会議全体で共有する。				

地域研究委員会・地球惑星科学委員会（地理教育分科会）					
委員長	井田 仁康	副委員長	村山 朝子	幹事	久保 純子、橋本 雄一
主な活動	審議内容				
	学校地理教育、自然地理学・環境防災教育、大学地理教育小委員会、地誌・国際理解教育小委員会、地図／GIS 教育小委員会の 5 つの小委員会に分け、1) 「地理総合」に関するアンケート調査の実施 2) 中学校地理における地誌の内容の検討 3) 地理教科書の内容検討および現場支援 4) 小、中、高、大の地理教育の接続、5) 大学入試の動向について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	充実した地理教育に向けての課題と展望について、教員へのアンケートおよび関係者からの聞き取りや新聞報道の分析などを踏まえ意思の表出を令和 5 年に行う。				
	開催シンポジウム等				
	令和 4 年 8 月 20 日に日本地理教育学会（オンライン）でアンケート結果を踏まえたシンポジウムを開催。令和 4 年 9 月 24 日に香川大学において、地理教育分科会および日本地理学会地理教育専門委員会との主催で公開シンポジウム「「地理総合」開始後の地理教育における課題と展望」を開催。参加者 100 名。				
開催状況	第 4 回 令和 4 年 3 月 27 日（オンライン開催）				
今後の課題等	意思の表出として整理すること。				

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同（地球環境変化の人的側面（HD）分科会）					
委員長	近藤 昭彦	副委員長	氷見山 幸夫	幹事	竹中 千里、山下 潤
主な活動	審議内容				
	Future Earth の前身の一つである IHDP（地球環境変化の人的側面国際研究計画）の理念を引継ぎ、地球環境を自然だけでなく人的側面も加えて総合的・俯瞰的観点から理解し、課題解決を目指す取組等について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地球および地域スケールの環境問題における人的側面の考え方について分科会として発信したいと考えているが、極めて広く、深い課題でもあり、時間をかけて慎重に取りまとめを進めている。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 4 回分科会 令和 4 年 5 月 9 日。その他、メールによる対話、議論。				
今後の課題等	人・自然・社会の相互作用に関わる諸問題を、異なる視座、異なる空間スケール、および時間軸で理解しようと試みているが、未だ到達していない。				

地域研究委員会（地域研究基盤強化分科会）					
委員長	小長谷 有紀	副委員長	宇山 智彦	幹事	川島 真、森本 泉
主な活動	審議内容				
	令和4年2月に発生したウクライナ問題に対応した各委員等研究者による活発な論文等をオンラインで共有しながら、若い人びとも対象とするシンポジウムを企画し、学術フォーラムに申請して認められた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和4年12月10日に学術フォーラム「地球的規模の危機に立ち向かう地域研究」を対面およびオンラインで開催する。				
開催状況	学術フォーラムの企画立案については機動性を要したため、一部のメンバーで非公式に検討を重ねた。 令和4年9月21日（第3回）で同フォーラムの具体的な運営について定めた。				
今後の課題等	アカデミアのみならず多様な機関と連携することによって、予定されている学術フォーラムを人材養成の現場とする。				

地域研究委員会（地域情報分科会）					
委員長	矢野 桂司	副委員長	貴志 俊彦	幹事	石川 徹、中谷 友樹
主な活動	審議内容				
	地域情報分科会（19名）は、国内外の多様な地域情報の分析に基づく、社会に向けた適切な情報発信のあり方に係る審議を行う。また、地球惑星科学委員会 IGU 分科会地名小委員会と連携して、地名に関するシンポジウム開催や提言の発出を目指す。さらに、前期同様、学術の大型研究計画に代わる未来の学術振興構想提案を計画する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地名標準化に関する提言などの発出を目標とする。また、地名に関わる公開シンポジウムの開催などを実施する。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「地名標準化の現状と課題：地名データベースの構築と地名標準化機関の設置に向けて」（主催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会・地球惑星科学委員会 IGU 分科会）令和4年12月18日				
開催状況	第4回 令和4年2月21日 第5回 令和4年8月23日（IGU 分科会地名小委員会と合同） 第6回 令和4年11月予定				
今後の課題等	地域情報を社会基盤として位置付け、地域情報の活用を促す。他の関連する分科会などとの連携を強化する。				

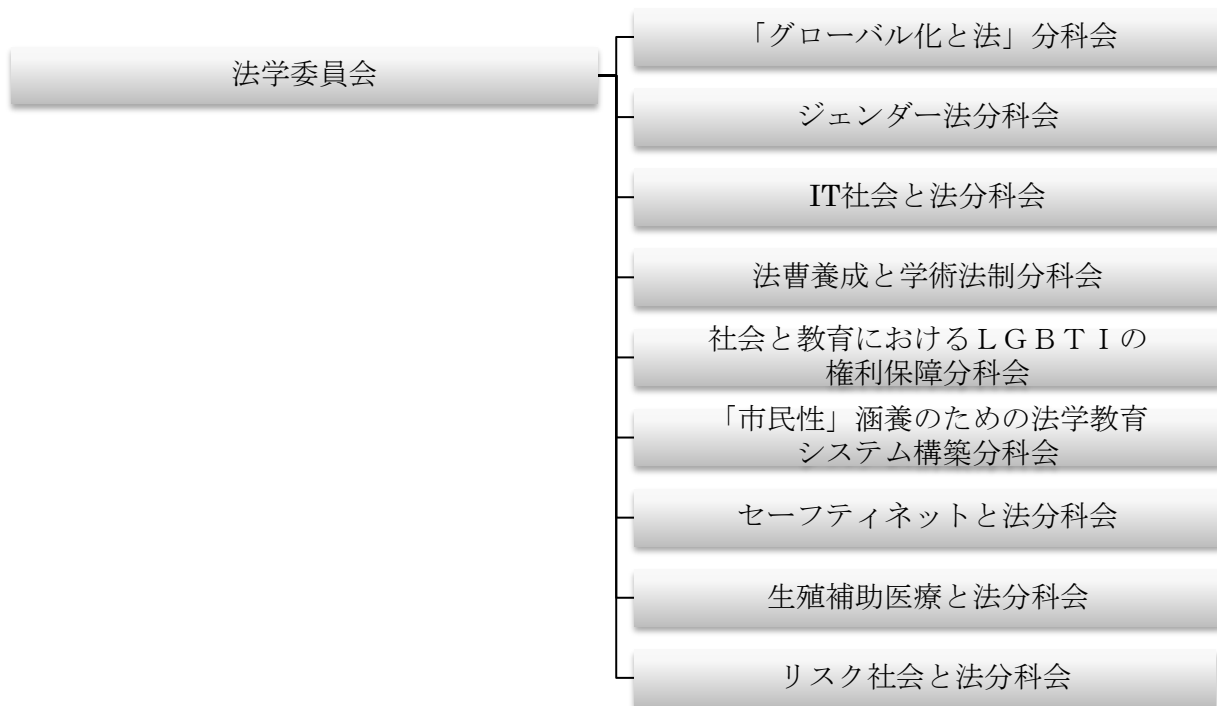
地域研究委員会（人文・経済地理学分科会）					
委員長	松原 宏	副委員長	山本 佳世子	幹事	近藤 章夫、中澤 高志
主な活動	審議内容				
	国土交通省が令和4年7月に公開した「国土形成計画（全国計画）中間とりまとめ」について、各委員から意見を聴取するとともに、今後の分科会の活動について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	コロナ禍を踏まえた国土形成計画のあり方について見解の発出を予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年12月23日に、「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の課題」と題した公開シンポジウムを開催予定。				
開催状況	令和4年8月7日 令和4年12月23日（予定）				
今後の課題等	コロナ禍を踏まえた国土や都市のあり方、地域政策の方向性について、分科会メンバーや観光小委員会での意見交換を活発に行い、公開シンポジウムを成功させるとともに、それらの成果を見解の発出につなげていく。				

地域研究委員会（文化人類学分科会）					
委員長	高倉 浩樹	副委員長	三尾 裕子	幹事	伊藤 泰信、湖中 真哉
主な活動	審議内容				
	・文化人類学に基づく政策提言に関わり、地理教育および文化遺産について検討する会議を二回行った。 ・地理教育については、地誌・国際理解教育小委員会との合同会議を行い、その結果、高校地理の副読本相当の書籍を出版することで合意した。 ・文化遺産については、文化庁・国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター・国立民族学博物館の専門家を招聘し、ユネスコ無形文化遺産に関わる専門的・技術的知見について教授してもらい、文化人類学者の協力範囲を委員の間で共有した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	湖中真哉・横山智（両方とも日本学術会議連携会員）編『フィールドから地球を学ぶ——地理授業のため60のエピソード（仮）』古今書院（現在印刷中）				
	開催シンポジウム等				
	日本学術会議シンポジウム主催「人類学者と語る人間の「ちがい」と差別（仮）」（文化人類学分科会、自然人類学分科会、多文化共生分科会主催、東京都教育委員会後援）を令和4年11月19日に実施予定。				
開催状況	第4回（令和3年12月10日）、第5回（令和4年7月11日）				
今後の課題等	実務者や関連する分科会との交流活発化及び関係する学協会との連携強化。				

地域研究委員会（多文化共生分科会）					
委員長	竹沢 泰子	副委員長	岩間 暁子	幹事	吉村 真理、窪田 幸子
主な活動	審議内容				
	前期(令和2年8月)に発出した提言を起点として、日本国内において多文化共生社会実現のために取り組まなければならない新たな課題は何か、特に国際条約や在留資格のない子どもたちの中等・高等教育、司法等に見られる課題について審議を重ねてきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和4年11月19日にシンポジウム「人類学者と語る人間の「ちがひ」と差別」を文化人類学分科会、自然人類学分科会と合同主催（於：一橋講堂）の予定。都立高校生徒ら約440名とライブ配信による一般公開の予定。				
開催状況	第5回令和3年11月5日、第6回令和4年2月23日、第7回5月30日、第8回8月4日				
今後の課題等	引き続き、多文化共生社会実現のための重要課題について俯瞰的に審議を続ける。				

地域研究委員会（地域学分科会）					
委員長	宮町 良広	副委員長	田原 裕子	幹事	井口 梓、小林 知
主な活動	審議内容				
	第5回分科会では、連携会員2名による報告をもとに、地域系大学での教育実践、地域学における学びの評価、コロナ禍のもとでの地域再開発について審議した。				
	第6回分科会では、連携会員3名による報告をもとに、イノベーションと地域経済、沖縄市コザ地区の街の記憶と魅力、地域学とトランスディシプリナリティについて審議した。				
	第7回分科会では、連携会員3名による報告をもとに、多文化教育と地域学、「地理総合」の地域学、食と農と地域の連携について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地域振興や地域志向人材の養成について議論を進める中で意思の表出を検討する。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年12月4日に、「人口減少時代の地域のかたち」をテーマとする公開シンポジウム（日本学術会議講堂およびオンライン）を開催する。				
開催状況	令和3年11月20日、令和4年5月15日、9月18日				
今後の課題等	広義の地域学を想定した Good Practice を幅広く収集し、出版物などの形で社会に公表する準備を進めており、19名からなる執筆者と目次が定まった。				

⑦法学委員会



法学委員会					
委員長	和田 肇	副委員長	川嶋 四郎	幹事	高山 加奈子、山田 八千子
主な活動	審議内容				
	任命拒否問題についての意見交換 意見表出の検討 査読委員会の設置				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	法学委員会と基礎法系学会連合との共催でのシンポジウムの開催 テーマ「「危機は法を破る」のか？－危機管理における人権制約と権力統制の問題」 令和4年7月23日 オンライン開催				
開催状況	メール審議2回				
今後の課題等	来年度以降の法学委員会の活動の在り方				

法学委員会（「グローバル化と法」分科会）					
委員長	高山 佳奈子	副委員長	阿部 克則	幹事	
主な活動	審議内容				

	これまでに挙げられた課題も踏まえ、人材育成に関するものを中心に、意見発出に向けた論点の抽出を行っている。政府から提示される改革案を受けて対応方針を決定する予定であったが、案が出ていないため未対応である。
	意思の表出（※見込み含む）
	「見解」を想定
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年1月25日 オンライン開催（第3回）
今後の課題等	「見解」は分量が限られているので、論点の絞り込みを行い、令和4年中に骨子案をまとめる。

法学委員会（ジェンダー法分科会）					
委員長	南野 佳代	副委員長	武田 万里子	幹事	立石 直子、内藤 忍
主な活動	審議内容				
	・第25期第3回公開シンポジウム開催に向けた準備 ・ハラスメントの実態と対策について、教育、政治、労働の各分野における法制度と実際の対処について審議				
	意思の表出（※見込み含む）				
	公開シンポジウムを受けて資料を作成することを検討中（令和4年8月分科会時点）				
	開催シンポジウム等				
	令和4年3月13日 女性の政治参画をどう進めるか？				
開催状況	令和4年6月13日分科会 令和4年度活動計画 令和4年8月5日ハラスメントについて教育、政治、労働各分野での課題について審議、公開シンポジウムの開催決定（日程は2～3月の見込み）				
今後の課題等	令和4年11月（予定）ハラスメントについて国際法、比較法の観点から審議、シンポジウムの内容の審議 令和5年2～3月 ハラスメントの法規制と対応について公開シンポジウムを開催				

法学委員会（IT社会と法分科会）					
委員長	川嶋 四郎	副委員長	林 秀弥	幹事	木下 麻奈子、川和 功子
主な活動	審議内容				
	本分科会では、IT利用者の安全なアクセス、利用の保護とプラットフォーム事業者の責任等について、経済産業省の報告書等の検討をも踏まえつつ、「IT社会における利用者とアクセス」を基軸にして、考察を重ねている。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	見解等の発出を視野に入れ、シンポジウムや論文公表等、多様な形式での成果の公表を考えている。
	開催シンポジウム等
	意思の表出の前には、公開シンポジウムを予定している。
開催状況	第4回を令和4年3月28日（月）にオンラインで開催した。この秋および来年初めにも開催予定。
今後の課題等	この分科会では、「誰一人取り残さないIT社会の実現」を目的として、「利用者とそのアクセス」をキーワードに、検討を重ねたい。

法学委員会委員会（法曹養成と学術法制分科会）					
委員長	山田 八千子	副委員長	中山 竜一	幹事	石田 京子、松尾 陽
主な活動	審議内容				
	法科大学院を中核とする新法曹養成制度における近時の重大な制度改革（在学受験等）による法科大学院教育、法学部教育と法学系研究者教育の位置づけについて、大学における教養教育と専門知のあり方との関係を踏まえた審議を行っている。なお、その成果は委員が所属する学術体制委員会に反映されている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告（記録）の表出に向けて審議中（見込み）				
	開催シンポジウム等				
	令和5年度の開催に向け審議中				
開催状況	令和4年1月17日。令和4年度に2回開催予定。				
今後の課題等	令和5年度に実施される在学受験等が法曹養成の行方に与える影響を、学術法制や法曹養成制度の審議に反映する。				

法学委員会（社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）					
委員長	南野 佳代	副委員長	三成 美保	幹事	谷口 洋幸、星乃 治彦
主な活動	審議内容				
	関係性のあり方、統計調査における性別記載、インターセックスと性の多様性、包括的差別禁止法について審議し、公開シンポジウム開催の内容、時期について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	公開シンポジウムの成果としての資料集作成を検討中（8月5日分科会時点）				
	開催シンポジウム等				
	多様な関係性のあり方と法制度について（1～2月見込み） ジェンダー統計における性別記載について（11～12月見込み）				
開催状況	令和4年2月13日 関係性のあり方について（午前）、ジェンダー統計と性別記載について（午後）参考人を招いて報告と審議 6月6日 活動計画について、公開シンポジウムの計画				

	8月5日 シンポジウムの計画について審議、開催を決定
今後の課題等	シンポジウムの円滑な開催 オンラインのみではなく、対面での開催も含めて検討する。 11月に分科会を開催 差別禁止法と国際的状況について（予定）

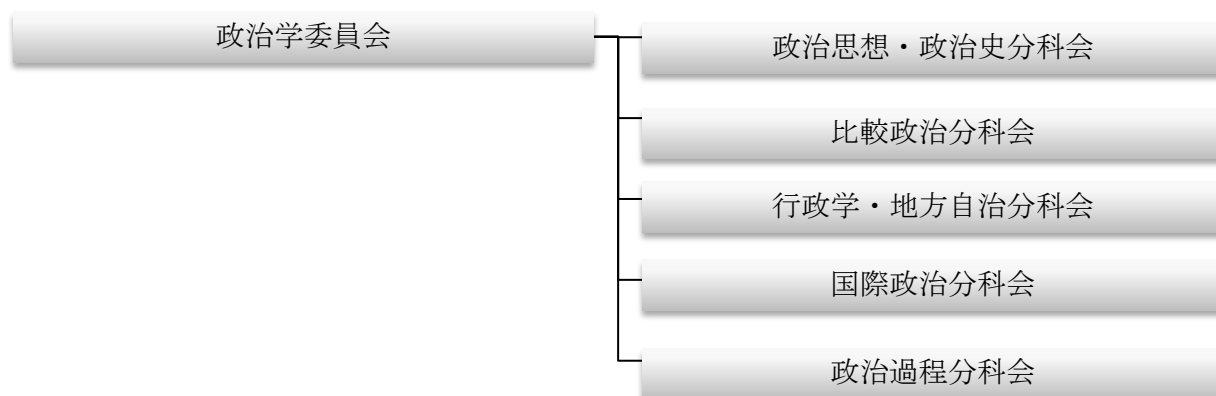
法学委員会（「市民性」涵養ための法学教育システム構築分科会）					
委員長	三成 賢次	副委員長	松本 尚子	幹事	長谷河 亜希子
主な活動	審議内容				
	令和4年度中におけるシンポジウム開催に向け活動計画について検討するとともに、シンポジウムに関わるテーマとして、特に中高生や大学初学者に対する法教育に関し、そのあり方や法曹の立場から見た現状と課題について、専門家を参考人として招致し審議を行った。また、日本学術会議の総会等の状況について報告を行い、意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第4回（令和4年2月14日）、第5回（令和4年5月7日）、第6回（令和4年7月23日）。いずれもオンラインで開催。				
今後の課題等	わが国の新たな科学技術政策の展開と日本学術会議に対する社会からの要請等を踏まえつつ、本分科会の課題の検討を着実に進め、今年度におけるシンポジウムの開催に向けて審議を行う。				

法学委員会（セーフティネットと法分科会）					
委員長	和田 肇	副委員長	廣瀬 真理子	幹事	丸谷 浩介、豊島 明子、橋本 祐子
主な活動	審議内容				
	前期までセーフティネットの崩壊と再構築について検討してきたが、今期は特にコロナ禍で顕在化した雇用・就業・家族・生活の局面におけるセーフティネットの綻びに注目し、その再構築の在り方を検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解の発出の準備をしている。				
	開催シンポジウム等				
	来年の春頃に公開シンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	第5回 令和4年3月22日、第6回 3月30日、第7回 7月26日、第8回 9月26日（すべてオンライン開催）				
今後の課題等	見解発出に向けた案文作成、次期以降に向けた課題の分析（社会的セーフティネットの課題、社会保障の再構築の課題等）。				

法学委員会（生殖補助医療と法分科会）					
委員長	水野 紀子	副委員長	建石 真公子	幹事	西希 代子
主な活動	審議内容				
	法務大臣・厚生労働大臣の諮問を受けて設置された課題別委員会「生殖補助医療の在り方検討委員会」の後継組織として、令和2年に制定された生殖補助医療法を、法学の観点から検討するとともに、歴史的・比較法的考察、世論の動向等まで踏まえ、今後の立法について多様な観点から議論する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	来年度、公開シンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	第4回 令和4年3月3日、第5回 6月18日、第6回 9月16日 第7回 令和4年10月1日（予定）				
今後の課題等	生殖補助医療に関する法制度のあり方に関して、さらに多方面の法分野から課題を検討し、その成果を社会に還元し、また市民との対話を試みるために「シンポジウム」を企画している。今後の分科会においては、問題点を集約することが課題となる。				

法学委員会（リスク社会と法分科会）					
委員長	大塚 直	副委員長	窪田 充見	幹事	高村 学人、林秀 弥
主な活動	審議内容				
	第1回では今期の活動内容・計画について、第2回では法哲学の分野からリスクについて法的にどのような考え方があるかについて、第3回では予防原則とその民事訴訟における適用可能性について、第4回では自動運転に関する課題－民事責任の制度設計を中心に、第5回では産業のデジタル化に伴うリスクと法規制のあり方について、第6回ではデジタル・プラットフォーム（DPF）を介したBtoC取引とDPF事業者の責任について、第7回では検察審査会制度－東電強制起訴裁判の検討を中心に審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	可能性を含めて検討中である。				
	開催シンポジウム等				
	当面シンポジウムを開ける状況にはないが、研究の全体像が見えたところでワークショップを開催したいと考えている。				
開催状況	第4回 令和3年10月8日 第5回 令和4年1月5日 第6回 3月24日 第7回 7月4日				
今後の課題等	「3年間の活動方針」として、自動運転、医療・環境、AI、プラットフォーム、原発など現在生起し又はしつつあるリスクに対し、民事法（不法行為法、差止法）、行政法、刑事法等種々の分野を対象として、どのようにその抑止と受容がなされているか、なされるべきかを考察し、最終的には何らかの提言に結びつけたい。				

⑧政治学委員会



政治学委員会					
委員長	荏部 直	副委員長	眞柄 秀子	幹事	大山 耕輔、鈴木 基史
主な活動	審議内容				
	前年度から引き続き、①高校科目「公共」のためのアクティブ・ラーニング、②新型コロナウイルス感染症対策の政策形成過程における政治家と専門家との関係、について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	上記の課題②については、「政治と専門知」に関するシンポジウムを検討中。①については「公共」教科書に関する論評が解禁になるのを待ちつつ検討を進める。				
開催状況	公式の会合は開催していないが、随時、メールにて意見交換を行った。				
今後の課題等	上記の課題①②について、複数の分科会同士の意見交換やシンポジウムの共同開催など、従来の専門の枠を越えた形で奨めてゆくことを考えている。				

政治学委員会（政治思想・政治史分科会）					
委員長	早川 誠	副委員長	田村 哲樹	幹事	中田 喜万
主な活動	審議内容				
	分科会を2回開催し、公開シンポジウムないし研究会の開催に向けて議論するとともに、政治学系学会との連携を含めて、今後の活動方針を検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和3年11月12日に公開シンポジウム「政治学におけるアナーキズムの意味～社会と国家をとらえ直す」（オンライン）を、北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センターの共催により開催した。				

開催状況	令和3年12月16日（オンライン開催）、令和4年7月14日（オンライン開催）
今後の課題等	令和4年10月1日、2日に開催される日本政治学会において、分科会「現代における政治的支配と知」を企画・実施する予定である。 今後も、学会あるいはオンライン等でのシンポジウム、研究会開催を企画していく。

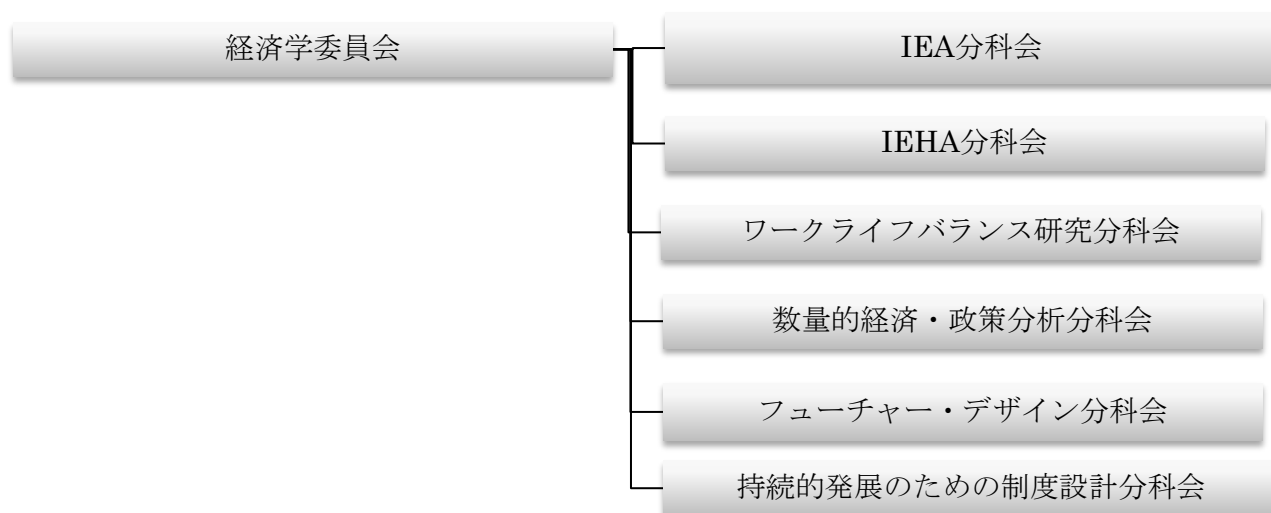
政治学委員会（行政学・地方自治分科会）					
委員長	北山 俊哉	副委員長	金井 利之	幹事	後 房雄、牧原 出
主な活動	審議内容				
	令和3年11月に分科会を開催し、以降の公開シンポジウムについて議論し、令和4年11月に公開シンポジウムを開催することを承認した。 また、政治学委員会における動向について意見交換すると同時に、今後の活動方針について検討した。 5月の分科会での審議の結果、公開シンポジウムは日本地方自治学会と共催で、「自治体とエネルギー政策」というタイトルで実施する予定となった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「自治体とエネルギー政策」を令和4年11月5日に開催予定。				
開催状況	令和3年11月7日、令和4年5月22日				
今後の課題等	新型コロナウイルス感染症の世界での感染拡大、様々な天災・人災の拡大、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、国内外の社会の諸問題に対する国及び地方の行政のあり方などについて、公開シンポジウムを準備し、広く社会的貢献を行うことを課題としたい。				

政治学委員会（国際政治分科会）					
委員長	山田 高敬	副委員長	亀山 康子	幹事	石田 淳、都丸 潤子
主な活動	審議内容				
	・学術フォーラム「感染症をめぐる国際政治のジレンマ——科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯」の成果発表方法について審議した。 ・令和4年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻に関する学際的なシンポジウムの開催を検討した。 ・日本学術会議「未来の学術振興構想」に対して分科会として意向表明することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	・令和4年2月6日に学術フォーラム「感染症をめぐる国際政治のジレンマ——科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯」をオンラインで開催した。 ・令和4年7月29日に公開シンポジウム「ウクライナ戦争の勃発とく共通の安全保障」のゆくえ」をオンラインで開催した。
開催状況	・令和4年3月15日にオンラインで第3回会合を開催した。 ・令和4年9月10日にオンラインで第4回会合を開催した。
今後の課題等	・国際政治学研究を担う次世代の研究者をどのように育成するのか、海外での日本への関心を高めるために海外の日本研究者との学術交流をどのように推進するのかなどが喫緊の課題である。

政治学委員会（政治過程分科会）					
委員長	谷口 尚子	副委員長	内山 融	幹事	井田 正道、中谷 美穂
主な活動	審議内容				
	今期の活動テーマ「デジタル化時代の選挙」や、令和4年実施の参議院議員通常選挙に即して、特に「若者と政治」に注目し、高校での主権者教育や若者の政治参加を進めるNPOを招いた公開シンポジウムを行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記テーマ・活動を踏まえて、分科会構成員・関係者で協力して報告書を作成する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年3月13日にオンライン・シンポジウム「2021年衆議院総選挙における市民意識—世論調査の課題と若い有権者の動向—」を開催、190名の参加者を得た。 https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/321-s-0313.html				
開催状況	令和4年3月13日にオンラインミーティングを行った。				
今後の課題等	令和4年度内に公開シンポジウムを開催予定である。				

⑨経済学委員会



経済学委員会					
委員長	岡崎 哲二	副委員長	大垣 昌夫	幹事	黒崎 卓、西山 慶彦
な活動	審議内容				
	経済学委員会は令和3年12月3日、令和4年2月21日、4月18日の3回開催され、経済学委員会と日本経済学会との連繋の仕方についてや公募される「未来の学術構想」への対応等を審議した。 経済学委員会には、IEA 分科会、IEHA 分科会、持続的発展のための制度設計分科会、数量的経済・政策分析分科会、フューチャー・デザイン分科会、ワーク・ライフ・バランス分科会の6つの分科会が置かれており、それぞれのテーマに関する審議、公開シンポジウムの開催等の活動を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	持続的発展のための制度設計分科会が意思の表出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	・ IEA 分科会：令和4年6月10日の IEA-METI Workshop に協力 ・ 数量的経済・政策研究分科会：令和4年5月29日、日本経済学会でチュートリアルセッションを開催 ・ 持続的発展のための制度設計分科会：令和4年10月10日、学術会議の後援を受けて社会的共通資本に関するシンポジウムを開催予定				
開催状況	令和3年12月3日（ハイブリッド開催） 令和4年2月21日（同） 令和4年4月18日（同）				
今後の課題等	未来の学術構想への応募を行う。また、研究力強化委員会、人文社会科学基礎データ委員会、「持続可能な発展のための基礎科学年」連絡会議等、関連が深い課題別委員会に経済学委員会の委員が参加しており、これらの分野横断的委員会の審議に、経済学の知見に基づいて貢献することも経済学委員会の課題である。				

経済学委員会（IEA 分科会）					
委員長	大塚 啓二郎	副委員長	グレーヴァ 香子	幹事	竹内 あい
主な活動	審議内容				
	・令和3年10月頃、日本学術会議のホームページ掲載用の IEA 分科会を説明する資料を作成した。 ・令和4年6月10日に実施された「IEA-METI (Japan) workshop on New Thinking on Industrial Policy」におけるパネルディスカッションに日本学術会議側からは浜口伸明連携会員（神戸大学）と矢野誠連携会員（京都大学）が参加し、活発な議論が行われた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年7月22日（第3回分科会）を Zoom を用いて開催した。				
今後の課題等	令和5年12月11～15日にコロンビアで開催予定の IEA World Congress について、上東会員のリーダーシップで、セッション応募を検討している。このように、引き続き IEA における日本のプレゼンスを高めることを今後の課題とする。				

経済学委員会（IEHA 分科会）					
委員長	岡崎 哲二	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	経済史分野の国際学術団体である International Economic History Association（IEHA）と日本の関連する学界との間の連絡を主要な目的としている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	IEHA に対して理事会等の機会に日本の学界の意見を随時表明している。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年9月21日にオンラインで分科会を開催した。同年7月25～29日にパリで IEHA が主催する世界経済史会議が開催され、これにあわせて IEHA の理事会と総会が行われたことを受け、最初の対面・オンラインハイブリッド開催となった世界経済史会議の課題、次回の世界経済史会議の開催場所の検討状況、IEHA の新執行部等について、意見交換を行った。				
今後の課題等	今回の世界経済史会議では日本からの参加者は地理的に開催地と近いヨーロッパ4国、アメリカに次いで6番目に多い105名を数えた。近年、経済史および関連分野のトップ・ジャーナルに掲載される日本人研究者の論文も増えており、引き続き日本における経済史研究・教育の発展・振興に努める必要がある。				

経済学委員会（ワークライフバランス研究分科会）					
委員長	大石 亜希子	副委員長	臼井 恵美子	幹事	中村 さやか、安井 健悟
主な活動	審議内容				
	本年度は、コロナ禍の中で在宅ワークの拡大など、従来と異なるワーク・ライフ・バランスの問題が生じていることを鑑みて、公開シンポジウムを開催し、さらなるワーク・ライフ・バランス研究の発展に必要なデータの活用・基盤整備のあり方について広範に議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	労働政策研究・研修機構（JILPT）と共同主催で公開シンポジウム「労働政策フォーラム：ワーク・ライフ・バランス研究の新局面ーデータ活用基盤の整備に向けてー」を令和4年3月4日に開催（オンライン）し、779名の視聴申込を得た。動画は JILPT のホームページで公開されており、JILPT の機関誌『ビジネス・レーバー・トレンド』令和4年8・9月号にも報告・議論の内容が掲載されている。 https://www.jil.go.jp/event/ro_forum/20220303/index.html https://www.jil.go.jp/kokunai/blt/backnumber/2022/08_09/index.html				
開催状況	なし				
今後の課題等	シンポジウムをもとにさらなる研究推進に向けた提言の在り方を議論する。				

経済学委員会（数量的経済・政策分析分科会）					
委員長	福重 元嗣	副委員長	宇南山 卓	幹事	小原 美紀、高槻 泰郎
主な活動	審議内容				
	・日本経済学会（春季大会）でのチュートリアル・セッション開催について ・日本経済学会等における啓蒙活動に関する形式等について ・COVID-19に関連した意思に関する内容に関する検討				
	意思の表出（※見込み含む）				
	COVID-19に関連して、経済統計に関わる調査統計の中断・変更、業務統計として収集された統計の今後の利用に関して、意思の表出が行えるように検討中。				
	開催シンポジウム等				
	オンラインで開催された、日本経済学会の令和4年度春季大会において、5月29日に、チュートリアル・セッション『歴史的データを使った研究とは』を開催した。オンラインで、開催時間による変動はあるが、参加者は100名を超え、盛況であった。				
開催状況	令和3年10月9日 第2回分科会をオンライン開催 令和4年10月15日 第3回分科会を対面とZoomによるハイブリッドで開催予定				
今後の課題等	引き続き、学会等における啓蒙活動を継続する COVID-19に関連するものを含め、数量的経済・政策に関わる意思の表出に向けて				

	検討する。
--	-------

経済学委員会・環境学委員会合同（フューチャー・デザイン分科会）					
委員長	西條 辰義	副委員長	江守 正多	幹事	浅利 美鈴、中川 善典
主な活動	審議内容				
	現世代の意思決定が将来世代に大きく影響を及ぼすとしても、現世代は近視眼的な意思決定をしがちである。このような意思決定を将来の視点から見直す社会の仕組みのデザインが目標である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和5年開催の「フューチャー・デザイン2023」を準備中。キーノートスピーカーとして、Future Earth の初代代表の Paul Shrivastava 氏を予定。国内のみならず、アジア・欧米の研究者のフューチャー・デザイン研究の発表も予定。				
開催状況	令和4年3月29日。その他はメールで審議。				
今後の課題等	令和5年に広島で開催されるG7においてフューチャー・デザインの使用を提案することを検討中。				

経済学委員会（持続的発展のための制度設計分科会）					
委員長	松島 斉	副委員長	岡崎 哲二	幹事	井伊 雅子
主な活動	審議内容				
	平成30年度に松島が分科会委員長に着任して以降、本分科会の総合的なテーマは、経済社会の持続的発展のために必要な政策や制度設計はなにかについての具体的実践的政策提言を、経済学の専門家としての多角的な視点から検討することであり、これはSDGsのほとんどの項目にも関連する。 ・令和3年10月から令和4年9月までに、5回のデジタル会議（各約1時間30分）を行うなどにより、気候変動、デジタル経済、医療・介護制度改革、コモンズ、地震リスク対策などが検討された。 ・分科会のメンバー及びゲストスピーカーが、自身の研究成果をもとに、社旗的共通資本および日本の現状についての基礎理論、制度設計、実証結果などを報告し、メンバー及びゲスト全員で質疑応答がなされ、政策提言の具体的内容を詰めていく作業を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・早期に分科会としての提言をまとめ、一般社会に経済学的知見による専門的な情報発信する。 ・これに関連するシンポジウムを継続的に開催する。				
	開催シンポジウム等				

	10月10日に東京大学伊藤謝恩ホールにおいて、シンポジウム「これからの社会的共通資本」をハイブリッド形式で行った。学術会議は、東京大学経済学研究科「社会的共通資本」寄付講座、東京大学グローバルコモンズセンターなどと共同して、共催後援の立場からシンポジウムを支援した。
開催状況	令和3年10月7日（第5回）、12月9日（第6回）、令和4年3月14日（第7回）、5月26日（第8回）、7月20日（第9回）にデジタル会議を開催した。
今後の課題等	環境、社会、経済を総合的にとらえる視点である「社会的共通資本」の概念を発展させ、環境問題、サーキュラーエコノミー、デジタル経済、医療制度、金融システムなどに関連する政策提言の可能性を検討していきたい。

⑩経営学委員会



経営学委員会					
委員長	西尾 チヅル	副委員長	野口 晃弘	幹事	原 拓志
主な活動	審議内容				
	経営学委員会下の5つの分科会の活動状況を定期的に把握し、予算配分ルールの策定や管理、連絡会議への参加推進、意思の表出や公開シンポジウムの計画・推進支援など、円滑な分科会活動に必要なサポート体制を審議した。また、意思の表出に関する新査読体制について、第一部で定められた方針に則って、経営学委員会の査読ルールの明文化と査読体制の整備を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会」は報告「経営学分野における研究評価の現状と課題」を令和4年3月22日に発出した。また、「SDGsと経営実践・経営学・経営学教育を検討する分科会」と「新型コロナウイルス感染症による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会」も今期中に意思の表出を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	「経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会」は本年4月に発出した報告内容に関する公開シンポジウム「経営学分野における若手研究者の育成のために、今、何が求められているのか」を令和4年11月27日に日本学術会議講堂で開催する。				
開催状況	令和3年12月3日（オンライン開催）、令和4年4月18日				
今後の課題等	分科会が意思の表出や公開シンポジウムを行う際に、より俯瞰的、領域横断的な観点から検討および遂行できるよう、他分野の分科会や関連学協会との連携等のサポートを行う。また、意思の表出がなされた時に、経営学委員会での査読を、策定したルールに則って的確かつ効率的に実施できるよう努める。				

経営学委員会（経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会）					
委員長	野口 晃弘	副委員長	上野 恭裕	幹事	小津 稚加子
主な活動	審議内容				
	報告として意思の表出を行い、若手研究者の育成という観点から公開シンポジウムの企画を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和4年3月22日に報告「経営学分野における研究評価の現状と課題」を公表。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年11月27日に公開シンポジウムを開催する予定。				
開催状況	令和4年1月22日（オンライン開催）、令和4年3月19日（オンライン開催）				
今後の課題等	報告の内容を関係者に伝えること。				

経営学委員会・総合工学委員会合同（サービス学分科会）					
委員長	山本 昭二	副委員長	戸谷 圭子	幹事	平田 貞代
主な活動	審議内容				
	サービス学の様々な成果を社会に還元し、教育プログラムとしても普及させるため2つのワーキンググループに分かれて審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	本年度は想定していない。				
	開催シンポジウム等				
	令和5年3月までにサービス学分科会公開シンポジウムを開催するよう検討中。				
開催状況	令和4年3月28日 第2回（オンライン開催） 令和4年3月29日 第3回（オンライン開催） 令和4年6月2日 第4回（オンライン開催） 令和4年9月14日 第5回（オンライン開催）				
今後の課題等	社会構造に関するワーキンググループでは研究成果を元にして書籍の出版を検討している。また、教育実装のワーキンググループでは、教材の開発も検討している。				

経営学委員会（SDGs と経営実践・経営学・経営学教育を検討する分科会）					
委員長	西尾 チヅル	副委員長	上林 憲雄	幹事	二神 枝保
主な活動	審議内容				
	SDGs の諸課題に対応した企業経営のあり方を学術的・実務的側面から広く審議し、経営上の課題と対応方法を「報告」としてまとめつつある。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第25期中に「報告」の形で意思を表出する方針				
	開催シンポジウム等				
	次年度に開催予定				

開催状況	令和4年2月12日、7月18日、9月19日（いずれもオンライン会議）
今後の課題等	第25期中に報告として意思の表出を行うとともに、その結果を公開シンポジウム等で公表し、対話を行う。

経営学委員会（AI・IT等の普及による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会）					
委員長	原 良憲	副委員長	仙石 正和	幹事	佐々木 郁子、椿 美智子
主な活動	審議内容				
	AIによる経営領域への変革に関する報告をまとめるため、①AIと人間、ビジネスでの変革、②AIと経営のフレームワーク、③会計監査等個別領域への適用、④教育カリキュラムなどについて審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	関係者との対話の機会を設けた上で、来期に意思の表出を目指す。				
	開催シンポジウム等				
	令和5年6月にシンポジウムを開催予定。				
開催状況	第2回分科会 令和4年2月12日、第3回分科会 9月6日 勉強会 令和4年7月7日（オンライン開催）				
今後の課題等	企業・組織における人とAI・ITの役割分担を明確化し、デジタル・トランスフォーメーション（DX）時代における経営学教育のあり方を提言する。				

経営学委員会（新型コロナウイルス感染症による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会）					
委員長	原 拓志	副委員長	上林 憲雄	幹事	高田 知実
主な活動	審議内容				
	新型コロナウイルス感染症による影響について、経営実践、経営学、経営学教育の各ワーキンググループで調査・検討の結果について執筆し、報告書にまとめつつある。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告として意思を表出する方針（第25期において）				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年8月8日（オンライン開催）				
今後の課題等	報告として第25期中に意思の表出を行う方針である。また、来年度には、公開シンポジウムを開催して、関連学協会や実務家との対話を図る予定である。				

⑪基礎生物学委員会



基礎生物学委員会					
委員長	小林 武彦	副委員長	後藤 由季子	幹事	杉本 亜砂子、三村 徹郎
主な活動	審議内容 ・「意志の表出」の査読者の選出 ・分科会委員長の連携会員の統合生物学委員会への追加について ・日本学術会議の意見表出の手順について ・政府による会員候補者任命拒否への対応について ・基礎生物学分野の諸問題についての意見交換 ・基礎生物学委員会所属の分科会の活動予定 ・学術会議のあり方に関する意見交換				

	・国連の「持続可能な発展のための国際基礎科学年 IYBSSD2022」について
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	生科連シンポジウムの後援（学術会議として）
開催状況	令和4年3月11日オンライン開催 令和5年3月オンライン開催（予定）
今後の課題等	分野の活性化、研究・教育力の向上、学術誌の問題

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（動物科学分科会）					
委員長	寺北 明久	副委員長	西田 宏記	幹事	深津 武馬
主な活動	審議内容				
	・第25期の活動方針 ・シンポジウムの内容：前回の一般向け公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」（Web開催）についてのアンケート結果に基づき、参加者の評価を参考に、次回シンポジウムの内容を検討・審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	現在企画中				
開催状況	第3回：令和4年3月25日（オンライン開催）				
今後の課題等	動物科学の振興のためのシンポジウムを開催するとともに、動物学普及のための方策を引き続き検討する。また、本分科会が中心となり提言した（H22、H26、H29）国立自然史博物館の設置について、フォローアップを行う。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（細胞生物学分科会）					
委員長	小林 武彦	副委員長	西原 祥子	幹事	坂内 博子、遠藤 求
主な活動	審議内容				
	日本の学術雑誌の問題について J-stage と意見交換（委員長、副委員長のみ）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	第13回形態科学シンポジウム（令和5年8月予定）を基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会と共同開催。				
開催状況	令和4年11月オンライン開催（予定）				
今後の課題等	分野の活性化、研究・教育力の向上、学術誌の問題				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同（植物科学分科会）					
委員長	三村 徹郎	副委員長	山崎 真巳	幹事	佐藤 豊、森田 美代
主な活動	審議内容				
	第 25 期では、第 24 期の課題を引き継ぎ、博士課程への進学者が減っている現状を打開する方法や、植物科学が社会に関わるために何ができるかについて検討を続けている。また、学術研究の将来構想の公募に対応するため、若手研究者の構想作成に協力を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第24期の最後に行った植物科学における若手キャリアパスの現状を把握するためのアンケート調査を何らかの形で表出する可能性を考える。				
	開催シンポジウム等				
	農芸科学分科会との合同シンポジウム「植物科学から持続可能な農業生産・ものづくりへ」を令和4年11月29日に開催予定である。				
開催状況	令和4年1月25日 第2回分科会を開催				
今後の課題等	第24期でまとめる予定であった若手キャリアパスの現状を把握するためのアンケート結果をどのようにまとめるか検討する。また、学術研究の将来構想について、植物科学分野からの応募に協力する。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同（分子生物学分科会）					
委員長	小林 武彦	副委員長	岩崎 渉	幹事	石川 麻乃、内 江望
主な活動	審議内容				
	日本の学術雑誌の問題について J-stage と意見交換（委員長、副委員長のみ）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	生科連シンポジウムの後援（学術会議として）				
開催状況	令和4年11月オンライン開催（予定）				
今後の課題等	分野の活性化、研究・教育力の向上、学術誌の問題				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（生物科学分科会）					
委員長	小林 武彦	副委員長	川合 真紀	幹事	高橋 素子、入江 直樹
主な活動	審議内容				
	・日本学術会議会の意見表出の手順について ・政府による会員候補者任命拒否への対応について ・生物・生命科学に関わる問題の意見交換—学術雑誌をとりまく問題など ・国立自然史博物館構想についての説明及び意見交換 ・研究者のキャリア形成（定年制、任期性）についての意見交換 ・学術会議のあり方に関する意見交換				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	生科連シンポジウムの後援（学術会議として）
開催状況	令和4年3月30日オンライン開催 令和5年3月オンライン開催（予定）
今後の課題等	分野の活性化、研究・教育力の向上、学術誌の問題、生物科学用語に関わる問題

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同（遺伝資源分科会）					
委員長	城石 俊彦	副委員長	有田 正規	幹事	嶋田 透
主な活動	審議内容				
	名古屋議定書にデジタルDNA配列情報（DSI）を含めるべきとする意見が資源提供国から提案され、生物多様性条約締約国会議（COP）において今後方針が決定される可能性が出てきている。本分科会では、学術の進展を図る立場からこの問題点について広く情報交換を行い、様々な角度から審議を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	まだ意見の集約には至っておらず、意思の表出までの見通しはたっていない。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年11月26日 オンライン開催 令和4年5月12日 オンライン開催				
今後の課題等	コロナ禍で遅れていた第15回生物多様性条約締約国会議（COP15）が令和4年12月には開催される見通しである。この会議において DSI の問題に何らかの進展が予想されることから、時宜を得た議論が求められている。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（海洋生物学分科会）					
委員長	大路 樹生	副委員長	川井 浩史	幹事	窪川 かおる、長里 千香子
主な活動	審議内容				
	日本の海洋生物学が直面している問題、特にグローバルな海洋環境の変化と海洋生物との関わり、大学が持つ臨海実験所、水産試験所で行われる教育、研究、地域連携に関する現状と将来等を中心に審議する。				
	ユネスコの政府間海洋学委員会（IOC）が発行する Global Ocean Science Report 2020 の日本語訳を分科会で作成、完成させ、IOC の公式ウェブページに掲載された。これは外国と比較した日本の海洋科学の現状を示す優れた資料として今後多方面で使用されることが予想される。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウム開催を踏まえてその議論の結果を表出することを計画している。				

	開催シンポジウム等
	海洋生物学に関するシンポジウムを行うことを計画している。トピックとしては上記に述べたグローバルな海洋環境の変化と生物との関わり、臨海実験所、水産試験所に関わる問題に関する議論が挙げられている。
開催状況	第3回（令和4年8月2日、オンライン開催）
今後の課題等	今期は他の関係する分科会と共同し、シンポジウムの開催や意思の表出を目指して活動していく予定である。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（総合微生物科学分科会）					
委員長	小柳 義夫	副委員長	竹田 潔	幹事	春日 文子
主な活動	審議内容				
	第25期総合微生物科学分科会委員が出席する令和4年6月29日の総合微生物科学分科会、IUMS分科会、病原体学分科会合同会議（第29回日本微生物連盟理事会）のWEB会議で、新型コロナウイルス感染症の流行で顕在化した国内の臨床、疫学、基礎研究に関する課題に対する意思をパブリックヘルス科学分科会、臨床研究分科会と表出する検討内容を報告した。そして、令和4年8月9日集計の総合微生物科学分科会のメール審議でその表出内容を確認した。 令和4年9月21日の総合微生物科学分科会、IUMS分科会、病原体学分科会合同会議（第30回日本微生物連盟理事会）のWEB会議で、日本学術会議への「報告」として表出することを報告した。なお、同じWEB会議で令和5年度日本微生物学連盟「野本賞」の応募分野を広げる変更を審議し、認められた。微生物科学に関する日本学術会議としての活動も行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「わが国の平時・緊急時の臨床・疫学・基礎研究の現状と課題」をパブリックヘルス科学分科会、臨床研究分科会委員長と「報告」として合同提出し、査読を受けた。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年9月21日の第30回日本微生物学連盟理事会で、微生物の利用に関するシンポジウムの開催準備を始めることを決めた。				
開催状況	なし				
今後の課題等	COVID-19により、微生物に関して一般社会において注目が集まっており、微生物に関するより正確な情報が必要とされている。WEBセミナーなどを通じて、多くの一般市民へのアウトリーチ活動の機会は増えたため、第25期は高校生などを主な対象にしたアウトリーチ活動について、議論をはじめている。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（生物物理学分科会）					
委員長	原田 慶恵	副委員長	上田 昌宏	幹事	徳永 万喜洋
主な活動	審議内容				

	・公開シンポジウムについての審議 ・「学術の中長期研究戦略」への応募についての審議 ・IUPAB congress 2024 の開催についての審議
	意思の表出（※見込み含む）
	意思の表出は行わず、「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」に応募する予定である。
	開催シンポジウム等
	令和4年11月15日に公開シンポジウム「異なるモダリティを統合するバイオ計測の最前線と展望」の開催を予定している。
開催状況	令和4年3月24日、11月15日
今後の課題等	IUPAB congress 2024 の開催準備、公開シンポジウムの開催、「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」への応募準備。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（IUBS 分科会）					
委員長	西田 治文	副委員長	村上 哲明	幹事	高田 まゆら
主な活動	審議内容 ・国際生物科学連合 IUBS の国別メンバーである日本として、令和5年3月に中央大学後楽園キャンパスで開催する IUBS 第34回総会の準備について ・総会で改選予定の IUBS 役員候補推薦などについて ・IUBS と国内学会等との連携について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	学術会議からの意見表出は予定していないが、IUBS 総会の内容と成果などについて、SCJ 広報ページを通じて公開する。				
	開催シンポジウム等				
	IUBS が企画するシンポジウムに加えて、国内関連学会との共催シンポジウムを専門家向けと一般向けとそれぞれ企画している。				
開催状況	第4回（25期通算）令和4年2月28日（オンライン開催） IUBS 総会プログラム委員会（内部委員会） 令和4年4月18日（ハイブリッド開催）				
今後の課題等	学術国際協力に学術会議が果たしてきた役割を強化するとともに、政府による積極的支援を求める。国内においては関連学会との連携を強化する。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（IUPAB 分科会）					
委員長	原田 慶恵	副委員長	野地 博行	幹事	永井 健治
主な活動	審議内容 ・公開シンポジウムについての審議 ・「学術の中長期研究戦略」への応募についての審議 ・IUPAB congress 2024 の開催についての審議				

	意思の表出（※見込み含む）
	意思の表出は行わず、「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」に応募する予定である。
	開催シンポジウム等
	令和4年11月15日に公開シンポジウム「異なるモダリティを統合するバイオ計測の最前線と展望」の開催を予定している。
開催状況	令和4年3月24日、11月15日
今後の課題等	IUPAB congress 2024の開催準備、公開シンポジウムの開催、「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」への応募準備。

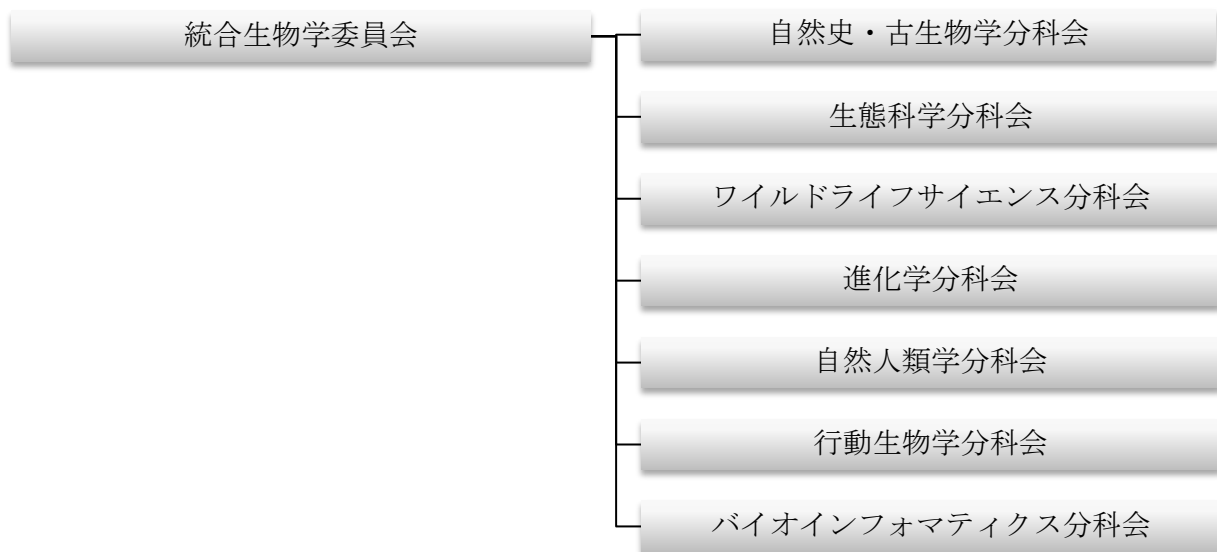
基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（遺伝学分科会）					
委員長	岩崎 博史	副委員長	岡田 由紀	幹事	田 たつみ、山本 卓
主な活動	審議内容				
	日本の学術雑誌の現状と学会が抱える問題について、現状の情報共有をもとに議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なんらかの形で遺伝学分科会として意思の表出を行うことをめざす（見込み）。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第2回 令和4年3月15日				
	第3回 令和4年8月8日				
今後の課題等	日本の学術雑誌の出版に大きく関わる J-STAGE から意見徴収を行うとともに、一緒に学術雑誌出版のあり方を議論していきたい。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同（ゲノム科学分科会）					
委員長	菅野 純夫	副委員長	徳永 勝士	幹事	本橋 ほづみ、佐々木 裕之
主な活動	審議内容				
	なし				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	ゲノム関連の解析の大きな部分が新型コロナウイルス感染症関連の解析に動員される形になり、従来のゲノム解析関連のプロジェクトはやや動きが少なかったことを受け、分科会の開催を見送ることとした。				
今後の課題等	新型コロナウイルス感染症関連の状況がやや落ち着きを見せ、ゲノム解析関連の				

	大型プロジェクトの解析進捗も早まっている。ペーボがノーベル賞をとり、\$100ゲノムを目指す新型シーケンサーの開発も進みつつあるので、現状の総括と方向性の見直しが必要な状況である。
--	--

基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同（生物リズム分科会）					
委員長	深田 吉孝	副委員長	三島 和夫	幹事	上田 泰己、遠藤 求
主な活動	審議内容				
	第3回分科会（令和4年8月4日にオンライン開催）において、概日・概年リズム、季節変動、環境適応などのテーマの中で本分科会ではそれほど扱ってこなかったヒト以外の生物種も含めた「環境変動と生物リズム（仮題）」に関する公開シンポジウムを開催することを審議した。本年11月までにシンポジウム講演者や演題内容の詳細を検討し、具体案をまとめることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。なお、平成30年11月7日に発出した提言「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」のインパクト・レポートを令和4年1月28日に提出した。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第3回分科会 令和4年8月4日 オンライン開催				
今後の課題等	地球の昼夜環境への適応の研究は人類の現代生活に重要な課題であることを再認識し、公開シンポジウムなどを通して一般社会との双方向性の議論を更に進める。				

⑫統合生物学委員会



統合生物学委員会					
委員長	北島 薫	副委員長	五斗 進	幹事	川人 光男、村山 美穂
主な活動	審議内容				
	・統合生物学委員会がリードする6つの分科会との情報交換 ・分科会の委員長全員を統合生物学委員会のメンバーとして追加 ・基礎生物学委員会、環境学委員会、カーボンニュートラル連絡会議との連携				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年3月11日（基礎生物学委員会との合同開催、オンライン）				
今後の課題等	共通課題を持つ他の委員会、特に、基礎生物学委員会、農学委員会、環境学委員会などとのより緊密な連携の構築。				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同（自然史・古生物学分科会）					
委員長	西田 治文	副委員長	大路 樹生	幹事	上松 佐知子
主な活動	審議内容				
	自然史財法案の再検討、自然史系標本の保全、自然史系博物館における学芸員のあり方と公開シンポジウム開催計画などについて。 国立沖縄自然史博物館設立計画を学術会議「未来の学術振興構想」の応募案件とすることへの協力について。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出は行わないこととなった。				

	開催シンポジウム等
	自然史博物館と自然史財問題の現状と将来を議論する公開シンポジウムを第25期中に開催予定である。
開催状況	第3回 令和4年3月15日（オンライン開催）
今後の課題等	・国立沖縄自然史博物館の実現に加え、自然の理解と持続可能性を地域ごとに推進・継承するために、全県レベルでの自然史系博物館設置を推進する。 ・自然史系標本の重要性の国際的理解を推進する。 ・以上を支える自然史科学全般の更なる振興。

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（生態科学分科会）					
委員長	北島 薫	副委員長	森 章	幹事	石川 麻乃、橋本 禅
主な活動	審議内容				
	・4つの分科会ワーキンググループ（学術連携 WG、研究ビジョン WG、社会連携 WG、企画調整 WG）の活動 ・カーボンニュートラルや生物多様性保全への生態学の貢献 ・関連省庁からのオブザーバーとの意見交換 ・他の分科会、学協会、国際との連携				
	意思の表出（※見込み含む）				
	学術の中長期戦略に向けてのビジョンの提出（研究ビジョン WG のメンバーが中心となって作成の見込み）				
	開催シンポジウム等				
	若手アカデミーの公開シンポジウム（令和4年3月1日）「縮退時代において20年後のまち・社会を考える」の合同主催				
開催状況	令和4年3月2日 オンライン開催				
今後の課題等	活動の継続とさらなる発展、学協会や関連省庁との連携				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（ワイルドライフサイエンス分科会）					
委員長	村山 美穂	副委員長	山極 壽一	幹事	山越 言
主な活動	審議内容				
	令和3年10月27日と令和4年2月26日に分科会を開催し、本分科会の目指す生物多様性保全に関する知識共有やアウトリーチのため、シンポジウムを開催する準備を進めた。また分科会に京都大学の緒方博之氏を迎えてウィルスと人間社会とのつながりについて議論した。				
	令和4年2月26日に開催した公開シンポジウムには、環境省自然環境局野生生物課からもご参加いただき、活発な質疑応答があった。				
	令和4年3月11日の分科会では、生物系にとどまらず多様な分野の専門家から情報を得る必要性を話し合い、令和4年8月22日の分科会では、富山大学の神山智美氏による野生動物の保護管理法についてのセミナーを開催した。今年度は引				

	き続き、セミナー開催と意見交換を継続する。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	令和4年2月26日に公開シンポジウム「生物多様性からみたワイルドサイエンス」をオンライン開催
開催状況	第3回：令和3年10月27日 第4回：令和4年2月26日 第5回：令和4年3月11日 第6回：令和4年8月22日
今後の課題等	今期は、野生動物管理システムの構築と人材養成に関して行政との更なる連携を深め、生物多様性とワイルドライフに関するシンポジウムの開催などのアウトリーチにも力を入れない。 https://www.wildlife-science.org/scj/

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（進化学分科会）					
委員長	村上 哲明	副委員長	深津 武馬	幹事	石川 麻乃、岩崎 渉
主な活動	審議内容 令和4年8月4～7日に沼津でハイブリッド開催された日本進化学会第24回大会時に、進化学の一般普及、国立沖縄自然史博物館構想、ならびに生物多様性条約下でのデジタル配列情報（DSI）等について意見交換を行った。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 国際生物科学連合の総会開催時（令和5年3月）に公開シンポジウムを開催予定				
開催状況	正式な分科会は、これから開催する予定である。				
今後の課題等	進化学の一般普及、国立沖縄自然史博物館構想、DSI				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（自然人類学分科会）					
委員長	諏訪 元	副委員長	村山 美穂	幹事	海部 陽介、馬場 悠男
主な活動	審議内容 ・前期までの大規模研究計画に替わる新たな取組について、昨年度以来の意見交換を踏まえ、可能な取り組みを進めることについて検討した。 ・自然人類学の意義や inclusive な社会と多様性の重要性などに関わるシンポジウム等の二つの企画について審議し、具体案の策定を進めた。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 なし				

開催状況	令和4年1月7日（対面・オンラインのハイブリッド開催）
今後の課題等	文化的多様性の重要性をも認識しながら、自然人類学から見た多様性（主として人類と人類以外の霊長類）に関わる社会発信とその専門を担う若手研究者層の充実と振興。

統合生物学委員会・心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会合同（行動生物学分科会）					
委員長	粕谷 英一	副委員長	辻 和希	幹事	明和 政子、相馬 雅代
主な活動	審議内容				
	生物を対象とした科学の再現性および人間の本性の両面への考察に関するシンポジウムの開催に向けてや、企画内容の詰めなど開催準備について、幹事、副委員長、委員長を中心に、メールを主な媒体として審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	生物を対象とした科学の再現性および人間の本性の両面を考えるシンポジウムの開催を準備している。				
開催状況	なし				
今後の課題等	シンポジウムの開催準備以外の広い視点での活動が必要と思われる。				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同（バイオインフォマティクス分科会）					
委員長	有田 正規	副委員長	岡田 眞里子	幹事	諏訪 牧子、五斗 進
主な活動	審議内容				
	改正個人情報保護法とゲノム情報の関係、遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）問題、GISAID とオープンサイエンス問題等について情報を共有した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	複数の分科会と合同の形式で表出を検討中。				
	開催シンポジウム等				
	複数の分科会と合同の形式でオンラインシンポジウムの開催を企画中。				
開催状況	第2回 令和4年3月31日				
今後の課題等	上記に記載した問題は国からのトップダウンで施策を考える必要があり、学会シンポジウムや学術会議を通じた意思の表出が重要となる。				

⑬農学委員会



農学委員会					
委員長	仁科 弘重	副委員長	経塚 淳子	幹事	中嶋 康博、土井 元章
主な活動	審議内容				
	・意思の表出に関する考え方が変わったため、表出の手順を共有するとともに、農学委員会として表出するか検討した。 ・「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」を各分科会で検討するとともに、農学委員会でも検討した。 ・カーボンニュートラルへの取組について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	所属分科会の半数以上が、意思の表出（見解または報告）を予定している。				

	開催シンポジウム等
	農学委員会としてはなし。各分科会が公開シンポジウムを開催している。
開催状況	令和3年11月23日（第4回）、令和4年3月8日（第5回）、4月15日（第6回）
今後の課題等	第25期の最終年に意思の表出を行う分科会があるため、サポート体制を検討する。

農学委員会（植物保護科学分科会）					
委員長	松本 宏	副委員長	渡辺 京子	幹事	水口 亜貴
主な活動	審議内容				
	・公開シンポジウムの開催について ・関連学会との連携について ・意思の表出に向けた原案作成の進捗と今後の進め方について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「外来害虫・病原体・雑草による作物生産被害の現状と対策」の今期中の発出を目指している。関連学会の意見を基に、素案のとりまとめ作業と素案に対するメールによる意見交換を行った。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年12月4日に公開シンポジウム「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献」をオンラインで開催した。				
開催状況	令和3年12月4日（第2回）				
今後の課題等	これからも植物保護科学振興のためのシンポジウムを開催するとともに、カーボンニュートラルを目指す中での食料確保のための方策について引き続き検討する。また、作成中の報告の発出に向けて必要な活動を展開する。				

農学委員会・食料科学委員会合同（IUSS 分科会）					
委員長	小崎 隆	副委員長	波多野 隆介	幹事	川東 正幸
主な活動	審議内容				
	1) IUSS 役員選挙結果と選出役員への支援体制の確立、2) 世界土壌会議（令和4年8月於英国グラスゴー市）評議会への対応、3) 以下の公開シンポジウムの総括、取り纏め方法、意志の表出方法、4) 「持続的な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」への対応（公開シンポジウムの可能性）について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	以下のシンポジウム及び今後の課題に基づき継続して審議した。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「原発事故から10年ーこれまで・今・これからの農業現場を考える」（福島・令和3年11月5日）を土壌肥料学会と共同主催で開催した。				
開催状況	令和3年11月6日（ハイブリッド開催） 令和5年2月開催予定				

今後の課題等	1) IYBSSD シンポジウムの具体化(令和5年6月開催予定)、2) IUSS 新規選出役員への具体的支援策の検討
--------	--

農学委員会（農学分科会）					
委員長	土井 元章	副委員長	江面 浩	幹事	下野 裕之、本間 香貴
主な活動	審議内容				
	「気候変動と農業－持続可能性の視点から」という課題で議論を行っている。令和4年2月22日開催の第2回分科会（オンライン開催）では、国立環境研究所の木本昌秀理事長を招聘し、「地球温暖化の予測と異常気象」と題する話題提供をいただいた。科学的な視点からの地球温暖化予測の現状の理解とIPCC第6次報告書の根拠について、委員間での共通認識を促すことができ、分科会における議論の意義づけができたと考えている。 また、カーボンニュートラル（ネットゼロ）連絡会議に参加することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	今年度中に2回程度の分科会を開催予定				
今後の課題等	土壌の炭素貯留に関する課題を審議し、その機能と役割についてとりまとめる。また、カーボンニュートラルに関する農学分野の研究の現状や今後の果たすべき役割について議論する。 加えて、未来の学術振興構想において農学分科会関連分野がどのように関わりうるかについて審議し、提案に向けての意見を取りまとめる。				

農学委員会（育種学分科会）					
委員長	経塚 淳子	副委員長	堤 伸浩	幹事	佐藤 豊
主な活動	審議内容				
	20年後、30年後を見据えた育種学の将来について若手研究者を含めて議論する機会を設ける。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「地球の未来を切り拓く－育種学の役割－」3回シリーズ（令和4年7月7日、8月5日、9月1日）を開催した。				
開催状況	令和4年9月5日				
今後の課題等	公開シンポジウムの定期的な開催を継続する。				

農学委員会（農業経済学学科会）					
委員長	中嶋 康博	副委員長	立川 雅司	幹事	梅津 千恵子、清原 昭子
主な活動	審議内容				
	第 25 期の本分科会の調査活動内容を農業経済学の関連学協会へ報告・周知すること、農業経済学関連の 5 学会との合同で公開シンポジウムを開催した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「新型コロナウイルス感染拡大がもたらした日本の食と農をめぐる経済・社会問題」（令和 4 年 3 月 21 日開催）				
開催状況	令和 4 年 3 月 21 日（オンライン開催）				
今後の課題等	新型コロナウイルス感染拡大及び地球環境問題の展開が食料・農業・農村に及ぼす影響の評価と今後の農業政策のあり方についての検討を引き続き進める。				

農学委員会（農業生産環境工学学科会）					
委員長	仁科 弘重	副委員長	後藤 英司	幹事	荊木 康臣、広田 知良
主な活動	審議内容				
	5 つの WG（フェノタイピング植物工場、都市農業、生態系・環境モニタリング、気象環境、環境・エネルギー）を設置し、農学分野における環境工学の役割を明確化している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	本分科会から、2 件の意思の表出（見解の予定）を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「東南アジアのアブラヤシ農園の持続的開発の問題点と課題」（令和 4 年 9 月 29 日）				
開催状況	令和 4 年 2 月 24 日（第 3 回）、令和 4 年 6 月 3 日（第 4 回）				
今後の課題等	公開シンポジウム「施設園芸のグリーン化に向けた課題と展望」（11 月 15 日）を開催する。				

農学委員会（地域総合農学学科会）					
委員長	宮崎 毅	副委員長	飯田 俊彰	幹事	武藤 由子
主な活動	審議内容				
	今期第 2 回分科会において副委員長を選出するとともに、8 月を目途として公開シンポジウムの開催予定を合意した。その後、日本学術会議からの講演者選出に難航したため、次回分科会に先進的農業経営のリーダーを参考人として招致し、課題を明確化する方向で調整している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「見解」「記録」の可能性を追求する。				

	開催シンポジウム等
	参考人の意見を聞いた上で改めて検討する。
開催状況	令和4年3月29日に第2回分科会をオンラインで開催した。
今後の課題等	参考人からの意見を聴取して今後の分科会活動に資する情報を得ること。

農学委員会（林学分科会）					
委員長	丹下 健	副委員長	杉山 淳司	幹事	井上 真理子
主な活動	審議内容				
	地球温暖化の緩和策と国土強靱化に向けた適応策としての森林管理や木材利用のあり方について、自然科学分野だけではなく、土地利用や社会制度などの社会科学分野を含めた分野横断的な審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現時点では、具体的な計画はない。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「気候変動時代における市町村による新たな森林管理とゾーニング」を令和4年11月20日に開催予定である。				
開催状況	令和4年11月20日に分科会を開催予定である。				
今後の課題等	2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、森林の吸収源機能と再生可能な資源である木材の役割が高まっており、グローバルコモンズとして森林が位置づけられる国際社会の実現に向けての活動を強化したい。				

農学委員会（応用昆虫学分科会）					
委員長	小野 正人	副委員長	池田 素子	幹事	大門 高明、阿部 芳久
主な活動	審議内容				
	- 我が国の高等教育における昆虫学教育のあり方について、見解の発出にむけての検討を行った。 - 日本昆虫科学連合と公開シンポジウムの内容について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「我が国の高等教育における昆虫学教育のあり方」を計画中。				
	開催シンポジウム等				
	- 令和4年6月18日：公開シンポジウム「ムシを極める！ー昆虫分類学のフロンティア」を日本昆虫科学連合と合同でオンライン開催した。 - 令和4年7月17日～22日：「第26回国際昆虫学会議（ヘルシンキ国際会議場、フィンランド国）」に嶋田透連携会員がオンサイト、小野正人連携会員がオンデマンドで代表派遣され、国立京都国際会館で開催の第27回大会(ICE2024 Kyoto)の広報活動を実施した。				
開催状況	令和4年12月に分科会を開催予定。				

今後の課題等	・ 令和 5 年度の公開シンポジウム実施案の策定 ・ 見解「我が国の高等教育における昆虫学教育のあり方」の作案 ・ 第 27 回国際昆虫学会議（ICE2024 Kyoto）組織委員会への協力
--------	---

農学委員会（土壌科学分科会）					
委員長	小崎 隆	副委員長	犬伏 和之	幹事	山岸 順子
主な活動	審議内容				
	1) 今年度主催した以下の公開シンポジウムの総括、取り纏め方法、意志の表出方法、2) 関連学協会との連携のあり方、3) 「持続的な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」への対応（公開シンポジウムの可能性）、について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	以下のシンポジウム及び今後の課題に基づき継続して審議した。				
	開催シンポジウム等				
	農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会とともに公開シンポジウム「原発事故から 10 年ーこれまで・今・これからの農業現場を考える」（福島・令和 3 年 11 月 5 日）を土壌肥料学会と共同主催で開催した。				
開催状況	令和 3 年 11 月 6 日ハイブリッドで開催した。 令和 4 年 12 月に開催予定。				
今後の課題等	1) 上記シンポジウムのフォローアップ、2) IYBSSD シンポジウムの具体化（令和 5 年 6 月開催予定）、3) 「未来の学術振興構想」への学術の中長期研究戦略の検討。				

農学委員会・食料科学分科会合同（遺伝子組換え作物分科会）					
委員長	江面 浩	副委員長	立川 雅司	幹事	吉田 薫、丸山 明子
主な活動	審議内容				
	ゲノム編集作物などを含むゲノム編集生物の利用に関する国内外の規制、アウトリーチ活動、表示問題などを学術的立場で議論し、その成果を社会に発信する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	議論の進展がみられれば、シンポジウムなどを企画し、社会に発信する。				
	開催シンポジウム等				
	検討中				
開催状況	令和 4 年 8 月 2 日（オンライン開催） 令和 4 年 11 月下旬（オンライン開催予定） 令和 5 年 2 月上旬（オンライン開催予定）				
今後の課題等	令和 3 年我が国初のゲノム編集トマトの上市が世界初の CRISPR 作物の先行事例となったのを皮切りに、令和 4 年には米国でゲノム編集レタスの上市が始まった。今後、農作物を中心としたゲノム編集生物の社会実装が進んでいくと予想される。本分科会としては、ゲノム編集生物の利用に関する国内外の規制、アウトリーチ				

	活動、表示問題などに関する議論を深化させ、その成果を社会に発信していく予定である。
--	---

農学委員会・食料科学委員会合同（農学分野における名古屋議定書関連検討分科会）					
委員長	佐藤 豊	副委員長	土井 元章	幹事	香坂 玲
主な活動	審議内容				
	・農学分野における名古屋議定書関連の課題抽出と対応の検討 ・関連分科会（遺伝資源分科会）との情報交換				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	・令和3年11月26日第2回開催（遺伝資源分科会と合同開催） ・令和4年5月12日第3回開催（遺伝資源分科会と合同開催）				
今後の課題等	名古屋議定書関連の最新の情勢を情報収集するとともに、DSI の取り扱いなどについて関連分科会（遺伝資源分科会）等と連携をはかりながら国内措置等に関する農学分野としての対応を検討する。				

農学委員会・食料科学委員会合同（CIGR 分科会）					
委員長	野口 伸	副委員長	澁澤 栄	幹事	高山 弘太郎、安永 円理子
主な活動	審議内容				
	国際農業工学会（CIGR）に関して、我が国としての対応を審議する。また、わが国が CIGR を通して世界の食料生産・環境問題の解決に貢献する活動を推進し、国際的な視点で農業工学とその技術の進歩発展に資する活動を推進する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	日本学術会議共同主催国際会議として令和4年12月5～10日に国立京都国際会館において第20回 CIGR World Congress 2022 (http://cigr2022.org/) をハイブリッド形式で開催する。CIGR 分科会は大会組織委員会として企画・運営を担う。				
開催状況	第3回 令和3年12月7日（ハイブリッド開催）				
今後の課題等	CIGR 分科会の目標は第20回 CIGR World Congress 2022 を成功させることにある。また、World Congress において日本の強みであるスマート農業分野や植物工場分野の先進性を世界に向けて発信する。				

農学委員会・基礎生物学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（IUMS 分科会）					
委員長	河岡 義裕	副委員長	松浦 善治	幹事	上田 一郎
主な活動	審議内容				
	総合微生物科学分科会及び病原体学分科会と密に連携をとりながら、日本微生物学連盟の国際活動やシンポジウム、フォーラム開催計画を審議した。 日本選出の理事と連絡をとりながら、今年7月開催の国際微生物学会議 2022（IUMS）の活動報告を、日本微生物学連盟に所属する学協会に対して行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	今年度も日本微生物学連盟として合同シンポジウムやフォーラムの開催を推進することが確認され、開催テーマの募集を行っている。				
開催状況	令和4年6月9日（オンライン会議）、9月21日（ハイブリッド開催）				
今後の課題等	今後の我が国の IUMS に対する取組を論議する。				

⑭食料科学委員会



食料科学委員会					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	高山 弘太郎	幹事	石塚 真由美、中嶋 康博
主な活動	審議内容				
	・食料の持続可能な生産、保管、加工、流通、消費などに関する学術課題について審議する。 ・農学委員会との合同会議を通じて、横断的に情報共有と意見交換を行う。 ・カーボンニュートラル連絡協議会との連携について検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年11月23日 ビデオ会議 令和4年2月23日 ビデオ会議 令和4年4月15日 ビデオ会議				
今後の課題等	・「未来の学術振興構想」への応募に関して、農学委員会と連携して提案を行うことを検討する。 ・食料システム（食料の生産、保管、加工、流通、消費に関わる活動）に関する課題について、引き続き議論する。 ・農学・食料科学委員会合同の公開シンポジウムの再開・継続について検討する。 ・学協会（農学会など）との連携について検討する。				

食料科学委員会（水産学分科会）					
委員長	古谷 研	副委員長	萩原 篤志	幹事	八木 信行、佐藤 秀一
主な活動	審議内容				

	水産資源の中長期的利用の方途について、食としての水産物、水産物の需給、水産資源管理、養殖生産、カーボンニュートラル、流通と消費、社会啓発と教育を中心に審議を進めている。特に、変化する地球生態系の中で水産資源利用をどのように位置づけるかに重点を置いている。
	意思の表出（※見込み含む）
	今期中に中長期的な水産資源利用のあり方に関する意思の表出を予定する。
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「フードシステムと養殖の未来」を令和3年11月12日にオンラインで開催した。
開催状況	令和3年11月12日、令和4年3月18日、7月5日にオンラインで開催した。
今後の課題等	中長期的な水産資源利用のあり方について審議を進め、意思の表出のために取り纏めた確定稿を作成する。また、令和4年11月25日開催予定の公開シンポジウム「水産からカーボンニュートラルの未来を展望する」の準備を進める。

食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同（IUNS 分科会）					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	稲垣 暢也	幹事	家光 素行、竹中 麻子
主な活動	審議内容 ・食品・栄養学分野の研究や人材育成に貢献し、日本の食品・栄養学分野の国際的なプレゼンスをさらに高めるよう審議を続ける。 ・令和3年12月11、12日に「第4回IUNS栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップ」をオンラインで開催し、アジアを中心に各国の若手研究者が参加し、事前に配信した9つの講義動画を視聴した後、当日は、6つのグループに分かれて、各グループのテーマについて活発な議論を行った。 ・令和4年12月6日から11日に延期された東京で開催される第22回IUNS国際栄養会議（ICN）の準備について審議を続けている。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 公開シンポジウム「JSNFS, KFN and SCJ Joint Symposium on Nutrition and Nutraceuticals」（令和4年6月11日、神戸）				
開催状況	令和4年1月24日（オンライン開催）				
今後の課題等	・第22回IUNS-ICNの成功に向けてさらに検討を続ける。 ・世界の食品・栄養学のリーダーシップ育成について検討を行う。				

食料科学委員会（畜産学分科会）					
委員長	眞鍋 昇	副委員長	吉澤 緑	幹事	枝重 圭祐、後藤 貴文、 木村 直子
主な活動	審議内容				

	「地球規模で蔓延し続ける家畜感染症を配慮したアニマルウェルフェア準拠家畜飼養衛生管理の創出と普及」に重点を置いた畜産学の教育・研究の特性に関する記録の取り纏めと成果公表を目指して審議を深め、最先端学術成果を含む共用教科書の作成、公開シンポジウムの開催、関連学会等との連携等について実施した。
	意思の表出
	「AI システムを活用したスマート放牧システムの創出」と題する報告の発出と本分科会主催シンポジウム要旨集を記録として令和4年中に取り纏める。
	開催シンポジウム等
	感染症統御を目指して公開シンポジウム「生活に身近な One Health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状・令和4年2月26日」、食料危機克服を目指して「グリーン・デジタルによる持続的食料生産：環境保全型DX支援放牧のポテンシャル・同3月20日」を開催した。他に「持続的な畜産経営を目指したスマート技術と今後の展望・同12月11日」を日本畜産学会等と共催する。
開催状況	3回開催した（令和3年12月25日、令和4年3月20日、8月31日）
今後の課題等	新型コロナ禍における国際学術集会の在り方について関連学協会と協議、女性研究者と若手研究者の活躍支援と協働プロジェクトの一層の推進。

食料科学委員会・農学委員会合同（農芸化学分科会）					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	稲垣 賢二	幹事	竹中 麻子、東原 和成
主な活動	審議内容				
	・農芸化学分野からの「未来の学術振興構想」への提案について議論する。 ・サイエンスカフェ及び公開シンポジウム等の啓発活動について検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた農芸化学の挑戦」第1回「食を通して全ての人に健康を」（令和3年9月14日） ・連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた農芸化学の挑戦」第2回「地球と生命をつなぐ高度な化学物質ネットワークー天然物化学再考ー」（令和3年12月8日） ・連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた農芸化学の挑戦」第3回「微生物や微生物菌叢への革新的機能付与・機能制御の新展開」（令和4年8月18日） ・公開シンポジウム「複合的アプローチで拓く新規フードサイエンス」（令和4年3月18日） ・サイエンスカフェ in 福島「あんぽ柿の美味しさと健康への秘密・研究の楽しさも語ります」（令和3年12月5日、福島） ・サイエンスカフェ in 東京「お米で糖尿病予防！？」（令和3年12月18日、ウェブ開催） ・サイエンスカフェ in 福岡「乳酸菌が作る抗菌物質・バクテリオシン ～食べるだけではもったいない乳酸菌の力～」（令和3年12月25日、福岡）				
開催状況	令和4年5月23日 オンライン開催				

今後の課題等	・連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた農芸化学の挑戦」の第4回「植物科学から持続可能な農業生産・ものづくりへ」を11月29日に開催し、その後、第1回から第4回の取りまとめを行う。 ・日本農芸化学会大会時に当分科会との共同主催のシンポジウムを開催する。 ・サイエンスカフェの共同主催を、今後も積極的に行っていく。 ・農芸化学分野が抱える課題等について議論する。 ・「未来の学術振興構想」に対し、他の分科会とも共同で提案を行う。
--------	--

食料科学委員会・農学委員会合同（農業情報システム学分科会）					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	澁澤 栄	幹事	彦坂 晶子、高橋 憲子
主な活動	審議内容				
	農林水産業のイノベーションの基盤となる農業情報の創成とその社会実装を目指した開発研究に関する課題の審議を行った。具体的には、持続可能なスマート農林水産業、安全・安心が担保されたスマートフードチェーン、農林水産業における自動化・ロボット化について検討するとともに、農業のオープンデータ化・スタートアップ総合支援・カーボンニュートラルへの取り組み戦略を検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和4年11月15日公開シンポジウム「施設園芸のグリーン化に向けた課題と展望」（農学委員会農業生産環境工学分科会と共同で主催）のオンライン開催を予定している。				
開催状況	第3回 令和4年2月9日 オンライン開催 第4回 令和4年8月10～16日 メール審議				
今後の課題等	生産・流通・消費のスマート化とDXを通じたカーボンニュートラルの実現に向けた方策を具体化し、関連省庁に適切な形で提案する。また、“カスタマー・セントリック環境制御型農業生産システム”と“CX（Customer experience：消費者体験）を最大化するスマートフードシステム”を目標にした議論を行う。				

食料科学委員会・農学委員会合同（PSA 分科会）					
委員長	大越 和加	副委員長	古谷 研	幹事	中野 伸一、原田 尚美
主な活動	審議内容				
	・太平洋学術協会の活動状況と当分科会の連携等、対応について意見交換を行う。 ・新委員を加え、太平洋域における学際的な研究活動について意見交換を行う。 ・畑井メダル顕彰事業について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	今後の PSA の動向を見ながら連携して活動していく予定である。
開催状況	令和 3 年 12 月 8 日 オンライン開催
今後の課題等	PSA の主な活動としての PSC がコロナ禍のため再延期されている。今後の動向を見ながら太平洋地域社会間のコミュニケーションの促進等、PSA と連携して活動を行う。日本のプレゼンスを維持するため畑井メダル顕彰は遂行する。

食料科学委員会・農学委員会合同（東日本大震災に係る食料問題分科会）					
委員長	中嶋 康博	副委員長	眞鍋 昇	幹事	小山 良太、関谷 直也、 本間 香貴
主な活動	審議内容				
	東日本大震災・原発事故発生後の 11 年を振り返り、農林水産業と生活の現状を踏まえて、福島県農林水産業と地域の復興に向けた課題と方策を議論する公開シンポジウムを福島県双葉町において開催するための準備を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2022—原子力災害 11 年の総括と福島県農林水産業の復興—」（令和 4 年 11 月 19 日開催予定）				
開催状況	令和 4 年 4 月 1 日				
今後の課題等	帰還に向けて避難指示解除が進む中、福島原発事故からの復興における次のステージに向けた方策のあり方について検討する。				

食料科学委員会（獣医学分科会）					
委員長	高井 伸二	副委員長	杉山 誠	幹事	堀 正敏、芳賀 猛
主な活動	審議内容				
	獣医学分科会・食の安全分科会が主催する「One health」をキーワードとしたシンポジウムを継続して開催している。令和 4 年 2 月 26 日に開催した公開シンポジウム「生活に身近な One Health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状」では 133 名の参加者、学術フォーラム「リスク認知と教育」の共催（令和 4 年 5 月 7 日 Web 開催）では約 200 名、公開シンポジウム「法獣医学の世界」（令和 4 年 9 月 3 日 Web 開催）では約 250 名の参加者と活発な意見交換が行われた。 令和 4 年度の One health シンポジウムは COVID-19 で学んだ教訓を活かすべく、人獣共通感染症の克服に向けた取組として、公開シンポジウム「食の安全と社会 vol.3: 科学者の社会への伝え方」を令和 4 年 10 月 8 日に、「動物のワクチン：家畜を中心に」を令和 4 年 11 月 12 日に開催予定であり、更なる一般市民へ情報発信を展開したい。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	初等・中等教育におけるリスク教育推進（仮題）に獣医学分科会・食の安全分科会が協力している。				

	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「One health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状」令和4年2月26日（オンライン開催） 学術フォーラム「リスク認知と教育」令和4年5月7日（オンライン開催） 公開シンポジウム「法獣医学の世界」令和4年9月3日（オンライン開催）
開催状況	第4回 令和4年2月26日 第5回 令和4年6月2日
今後の課題等	COVID-19のパンデミックは新たな野生動物などが関係する人獣共通感染症の出現に対応できる調査研究基盤となる獣医学領域の施設並びに研究者が益々重要となっており、その研究教育調査基盤の整備なども検討したい。

食料科学委員会・農学委員会合同（食の安全分科会）					
委員長	石塚 真由美	副委員長	澁澤 栄	幹事	芳賀 猛、有路 昌彦
主な活動	審議内容				
	第25期の食の安全分科会の活動について、以下の点について審議を行った。				
	1) 食の安全にかかわるシンポジウムの企画について				
	2) 提言に関する検討について				
	3) その他、食の安全にかかわる国内外の情勢について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在、提言の発出に向けて、情報を収集し、議論を重ねている。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「One health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状」令和4年2月26日（オンライン開催） 学術フォーラム「リスク認知と教育」令和4年5月7日（オンライン開催）				
開催状況	第4回 令和4年2月26日 第5回 令和4年6月2日				
今後の課題等	リスクの認知と教育に関する提言に向けて準備・検討を進める。また、分野横断、市民ニーズを意識してシンポジウム等企画し、開催後のさらなる社会への還元・公開についてその方策を検討する。				

⑮基礎医学委員会



基礎医学委員会					
委員長	松田 道行	副委員長	佐々木 裕之	幹事	多久和 典子、五十嵐 和彦
主な活動	審議内容				
	吉岡会員逝去にともなう分科会世話人及び委員長の選任、研究力強化に向けた取組についての討議、さらに 26 期の会員選考方法、25 期までの活動内容の 26 期への引き継ぎの方法などについて具体的な討議を行った。また、基礎医学委員会に所属する分科会の設置及び提言発出等についても討議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会を中心として活動し、本委員会からの意思の表出等を行わない予定である。				
	開催シンポジウム等				
	本委員会主催でのシンポジウムは開催しなかった。				
開催状況	2 回の分野別委員会（令和 3 年 12 月 3 日、令和 4 年 4 月 19 日）、懇談会（令和 4 年 6 月 28 日）及び複数議題に関するメールでの意見交換を行った。				
今後の課題等	分科会委員長を委員会に加えたことで、分科会活動内容についての各委員の理解がより進んだ。また、オンライン会議による出席率の向上は委員会活動には大きなメリットであり、今後とも継続する方向性が望ましい。25 期も残すところ 1 年となったので、各分科会の意見の発出やシンポジウム等を積極的に支援していく予定である。				

基礎医学委員会（形態・細胞生物医学分科会）					
委員長	渡辺 雅彦	副委員長	仲嶋 一範	幹事	澤本 和延
主な活動	審議内容				
	高校生を主な対象とする第 13 回形態科学シンポジウム開催に向け準備を進め、開催日（令和 5 年 8 月 19 日）、開催地（名古屋市立大学）、世話人（澤本和延）、開催方式（対面とオンラインによるハイブリッド）、講演者（阿形清和 基礎生物学研究所所長：高橋政代（株）ビジョンケア代表取締役社長）を決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年の第 12 回形態科学シンポジウム開催に続き、令和 5 年 8 月 19 日に第 13 回形態科学シンポジウムを予定している。				
開催状況	なし				
今後の課題等	次代の生命科学を担う高校生を主な対象として、生命科学の面白さや魅力を伝える講演会や、生命科学研究者と接する交流会を今後も継続して開催する。				

基礎医学委員会（IUPS 分科会）					
委員長	久保 義弘	副委員長	赤羽 悟美	幹事	多久和 典子
主な活動	審議内容				
	1. 令和 5 年 3 月に京都において開催される日本生理学会第 100 回記念大会（大会長：伊佐委員 日本生理学会 第 100 回記念大会 - 恒常性と持続可能性～生理学の次なる 100 年に向けて～（aeplan.co.jp））において、同大会実行委員会が主催する「100 年後の人類は？」をテーマとした市民公開シンポジウムを、「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD2022）」連携シンポジウムとして、機能医科学分科会、IUPS 分科会が共催することを決定した。また、同大会において IUPS の生理科学啓発・推進キャンペーン“Year-of-Physiology（YoP）”と連携したシンポジウムを 2 件開催することを決定した。 2. IUPS 本部からの要請を受けて、上記 YoP のタスクフォースメンバーとして久保委員長、赤羽副委員長が参加することを決定した。 3. 4 年毎に開催される IUPS コングレスが令和 4 年 5 月北京においてオンライン開催され、(IUPS 2022 - The Physiological Society (physoc.org)) 準備段階で IUPS 理事を務める久保委員長がプログラム委員として貢献した。総会において久保委員長が 2022～2025 年の IUPS 第二副会長、岡村委員が IUPS 理事・分子細胞分野委員長に選出された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 2 回分科会：令和 4 年 3 月 30 日（オンライン会議）				

今後の課題等	FAOPS2023 大会（韓国）を成功に導くために協力し、世界の生理科学の振興に貢献するとともに、日本のプレゼンスを示す。
--------	---

基礎医学委員会（免疫学分科会）					
委員長	小安 重夫	副委員長	三宅 幸子	幹事	反町 典子、吉村 明彦
主な活動	審議内容				
	COVID-19 パンデミックにおける研究推進や社会還元の在り方、欧米諸国との違いなど、幅広く将来に向けた発展的な視点で審議が行われ、審議の結果を、パンデミックと社会に関する連絡会議「平時、緊急時の臨床、疫学、基礎研究の体制」WGへ報告した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年1月14日にZoomにて第1回分科会を開催し、役員を選出した。出席者9名、欠席者1名。その後、令和4年3月7～11日に第2回分科会をメール会議として開催した。				
今後の課題等	1) 感染症との戦いの主役である免疫システムを研究する免疫学が研究面からどのような貢献ができるかを検討する。 2) 高校教育「生物基礎」における免疫学で取り扱うべき用語をしっかりと検討し提言してゆく。				

基礎医学委員会（神経科学分科会）					
委員長	伊佐 正	副委員長	柚崎 通介	幹事	大木 研一、渡部 文子
主な活動	審議内容				
	・未来の学術振興構想」の策定 ・神経倫理に関する論点を整理、見解のまとめ方 ・今後の脳科学の推進方策について ・今後の分科会活動について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「神経科学領域における倫理的課題」に関する見解を表出する予定				
	開催シンポジウム等				
	令和4年8月27日に脳とこころ分科会、アディクション分科会、移植・再生医療分科会と合同で公開シンポジウム「神経科学領域の倫理的課題」を開催した。参加登録者数は720名、実際には400名近くの方が視聴されて多くの質問・コメントをいただき、本テーマへの関心の高さが伺えた。				
開催状況	令和4年8月27日に脳とこころ分科会と合同で分科会を開催した。				

今後の課題等	世間の関心がコロナ一色になっていたが、地道な基礎科学の振興、また神経科学の発展に伴う倫理の問題等について、必要に応じて分科会の枠を超えた地道な議論を続けていきたい。
--------	--

基礎医学委員会（IUBMB 分科会）					
委員長	五十嵐 和彦	副委員長	本橋 ほづみ	幹事	菊池 章
主な活動	審議内容				
	生化学グローバルサミット（IUBMB 大会、7 月リスボンにて開催）派遣へ向けて候補者選考を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	メール審議 1 回、生化学大会（11 月 9～11 日、名古屋）の会場にてさらに 1 回開催予定。				
今後の課題等	IUBMB Congress 2030 招致の可否				

基礎医学委員会（IUPHAR 分科会）					
委員長	金井 好克	副委員長	赤羽 悟美	幹事	古屋敷 智之、黒川 洵子
主な活動	審議内容				
	本委員会委員長が 2 ヶ月毎に開催される IUPHAR 理事会に IUPHAR 次席副会長として出席し、その報告に基づき活動内容を審議した。現在 IUPHAR で進行している IUPHAR 組織改革において、わが国のイニシアティブを維持向上させるため、IUPHAR への働きかけと施策の検討を継続して審議することとした。また、国内対応として、薬理科学関連学会の統合的な連携構築を継続し、国際対応基盤を強化することとした。前年に開設したウェブサイト「国際交流ひろば」を充実させ、IUPHAR 活動をさらに周知することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	総合的な薬理科学の視点から、生命科学とその応用分野および国際保健、国際対応に関わる意思の表出を継続して検討。				
	開催シンポジウム等				
	IUPHAR 加盟国間の連携として、令和 3 年 12 月 1 日に ASCEPT-JPS Lecture（オーストラリア・ニュージーランド薬理学会年会への講師派遣講演）、令和 4 年 3 月 7 日に IUPHAR セミナー（第 95 回日本薬理学会年会にて実施）、令和 4 年 3 月 9 日に JPS-ASCEPT Lecture（米国薬理学会からの講師招聘講演を第 95 回日本薬理学会年会にて実施）を開催。				
開催状況	令和 3 年 12 月 14 日（第 2 回）				
今後の課題等	今期の活動方針として以下の柱を設定している。（1）IUPHAR を基軸とした国際的				

	プレゼンスの維持・向上と国際的人材の育成。(2) 生命科学における薬理科学の位置付けの確立と、基礎生命科学から創薬、医療に関わるわが国の薬理科学関連学会の統合的な連携の構築。(3) 総合的な薬理科学の視点から、生命科学とその応用分野および国際保健、国際対応に関わる意思の表出を検討。
--	---

基礎医学委員会（病原体学分科会）					
委員長	鎌倉 光宏	副委員長	赤池 孝章	幹事	澤邊 京子
主な活動	審議内容				
	令和2年以降の新型コロナウイルス感染症流行とそれに対するワクチン接種の状況を鑑み、ワクチンの普及障害となる社会的要因を分析・考察し、ワクチン政策・医療・教育・啓発活動等に関わる人々のみならず、ワクチンを受ける側の視点にも立ち、ワクチンの更なる理解と普及の一助となることを目指して、提言「我が国におけるワクチンリテラシー」の発出を目指すこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第25期、26期を通じて討議した内容に基づき、提言「我が国におけるワクチンリテラシー」を発出する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	日本微生物連盟理事会との合同会議を含め、第25期中に6回、令和4年度に3回（令和4年6月9日、9月21日（病原体学分科会と日本微生物連盟理事会を同日開催））の分科会を開催した。				
今後の課題等	令和元年発出の提言「我が国における微生物・病原体に関するリテラシー教育」の各方面における周知を引き続き試みることと、審議中の提言「我が国におけるワクチンリテラシー」を慎重な審議を通じて完成させることが主たる課題である。				

基礎医学委員会（ICLAS 分科会）					
委員長	入来 篤史	副委員長	門松 健治	幹事	伊佐 正
主な活動	審議内容				
	ICLAS が創立以来60年ぶりに行う新たな基本理念とStrategic Planの策定に掛かる対応方針について準備を進めるとともに、動物実験に掛かる学術会議ガイドラインの改訂検討に向けた関連分科会との調整の進め方について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	CIOMS-ICLAS International Guiding Principles for Biomedical Research Involving Animals の改訂に対応して、現行の日本学術会議 動物実験の適性な実施に向けたガイドラインを、関連分科会と協働して更新し表出する。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	対外組織への個別案件対応のために、適時に随時メール等での意見交換・調整を行ってきた。				

今後の課題等	来年の ICLAS 総会時に予定されている、次期 4 年間の理事・役員選挙への対応をするとともに、その創立貢献国としての日本のリーダーシップを発揮するための、国内関連学会との有効で機動的な共同体制を構築する方策を策定し推進する。
--------	--

基礎医学委員会（機能医科学分科会）					
委員長	鍋倉 淳一	副委員長	金井 好克	幹事	岡村 康司、多久和 典子
主な活動	審議内容 1. 内閣府からの研究力強化に関する審議依頼についてアンケート調査が行われ、機能医科学分科会からは、技術職員の確保・育成とキャリアパスの構築の必要性についての意見を提出した。 2. 令和 5 年 3 月に京都において開催される日本生理学会第 100 回記念大会（大会長：伊佐委員 日本生理学会 第 100 回記念大会 - 恒常性と持続可能性～生理学の次なる 100 年に向けて～（aeplan.co.jp））において、「100 年後の人類は？」をテーマとした市民公開シンポジウムを「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD2022）」連携シンポジウムとして、同大会実行委員会および IUPS 分科会と共催で開催することを決定した。加えて学術シンポジウムの 1 つを学術会議後援シンポジウムとして開催する。 3. モデル動物研究の環境整備について審議し、本分科会は関連分科会等に協力して対応していく方針を確認した。 4. 機能医科学分科会の新たな委員として、古屋敷智之会員・横山詩子特任連携会員が選出され、幹事会で承認された。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 学術会議・日本生命科学アカデミー後援シンポジウム『疾患の理解に向けた領域融合型研究基盤の構築』を令和 4 年 3 月 8 日、第 95 回日本薬理学会年会において開催した。日程表 第 95 回日本薬理学会年会（pharmacology.main.jp）				
開催状況	第 3 回分科会：令和 3 年 11 月 30 日（オンライン会議） 第 4 回分科会：令和 4 年 6 月 6 日（オンライン会議）				
今後の課題等	・機能医科学に関連する学術分野及び学際領域において中長期的な学術研究構想の議論を深化させる。 ・大学における技術職員の確保・育成とキャリアパスの構築について引き続き検討していく。				

基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（アディクション分科会）					
委員長	池田 和隆	副委員長	伊佐 正	幹事	西谷 陽子、南 雅文
主な活動	審議内容				

	・第一部より2名の委員を迎え、アディクションの人文社会学的課題について審議した。 ・第24期に発出した提言を基に、国立精神・神経医療研究センター（NCNP）内にアディクション研究センターが設置されることから、NCNPの中込和幸総長を参考人として招致し、アディクション研究推進のための基盤整備について審議した。
	意思の表出（※見込み含む）
	神経科学分科会とともに神経倫理に関する見解を表出する見込み。
	開催シンポジウム等
	令和4年8月27日に神経科学分科会などとともにオンライン公開シンポジウム「神経科学領域の倫理的課題」を共同主催。
開催状況	令和4年1月22日、7月10日に分科会開催
今後の課題等	NCNP アディクション研究センターにおいて、学際的で社会に貢献できる研究がなされるように、学術会議ならではの大局的な議論と活動を行う。

基礎医学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会・食料科学委員会・臨床医学委員会・薬学委員会合同（実験動物分科会）					
委員長	小幡 裕一	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	1. 動物実験の機関管理制度に関する共通基本指針について 2. 内閣府の依頼に応じた日本学術会議の研究力強化アンケート調査へ協力 3. 米国における愛護団体による大学動物審査委員会委員への攻撃の件				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「動物実験に関する機関管理制度についての発展、充実」に関する意思の表出（見解）を予定				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年11月30日、令和4年6月17日				
今後の課題等	上記、意思の表出（見解）の取りまとめ				

⑩臨床医学委員会



臨床医学委員会					
委員長	名越 澄子	副委員長	山本 晴子	幹事	荒井 秀典、木村 通男
主な活動	審議内容				
	臨床医学委員会に設置された分科会から意思が表出された場合の本委員会における査読体制を構築するため、査読委員の選出方法を審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	臨床医学委員会としての表出は予定していない。				
	開催シンポジウム等				
	・日本学術会議と日本薬学会、日本医学会連合との主催で行われた学術フォーラム コロナ禍を共に生きる 新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown # 4「新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」（令和4年2月5日） ・日本学術会議と日本医学会連合との主催で行われた学術フォーラム コロナ禍を共に生きる 新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown				

	# 7「新型コロナウイルス感染症のレジストリ研究の現状と今後の方向性 医療情報の収集と活用による対策について」（令和4年5月28日） 上記の企画・運営に臨床医学委員会委員が携わった。
開催状況	令和4年4月18日オンライン開催
今後の課題等	本委員会の分科会から表出される意思の相談調整及び査読が適切に行われ、発出時機を失することがないようにする。

臨床医学委員会（出生・発達分科会）					
委員長	水口 雅	副委員長	藤井 知行	幹事	船曳 康子
主な活動	審議内容				
	・特定妊婦支援、特別養子縁組、Baby box/内密出産に関して従来、委員らが関係する市民や団体、関係機関と行ってきた意見交換について情報を整理、共有した。 ・第一部会（法学分野）から新しい委員に加入いただいた。 ・特別養子縁組や社会的養護に関する行政の取り組みについて説明を受けた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「若年女性の望まぬ妊娠における母子の支援と児童虐待の防止」を第25期のうちに発出すべく、準備を進めている。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第3回（令和4年7月6日）オンライン開催 第4回（令和4年8月2～12日）メール審議（委員の追加について） 第5回（令和4年9月21日）オンライン開催				
今後の課題等	令和3年12月に国内初の内密出産が実施され、適切な見解の発出がいよいよ重要な課題となっている。				

臨床医学委員会（臨床研究分科会）					
委員長	名越 澄子	副委員長	山本 晴子	幹事	荒井 秀典、木村 通男
主な活動	審議内容				
	臨床医学委員会に設置された分科会から意思が表出された場合の本委員会における査読体制を構築するため、査読委員の選出方法を審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・日本学術会議と日本薬学会、日本医学会連合との主催で行われた学術フォーラム コロナ禍を共に生きる 新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown # 4「新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」（令和4年2月5日） ・日本学術会議と日本医学会連合との主催で行われた学術フォーラム コロナ禍を共に生きる 新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown				

	# 7「新型コロナウイルス感染症のレジストリ研究の現状と今後の方向性 医療情報の収集と活用による対策について」（令和4年5月28日） 上記の企画・運営に臨床医学委員会委員が携わった。
開催状況	令和4年4月18日（オンライン開催）
今後の課題等	本委員会の分科会から表出される意思の相談調整及び査読が適切に行われ、発出時機を失することがないようにする。

臨床医学委員会（腫瘍分科会）					
委員長	村上 善則	副委員長	光富 徹哉	幹事	三谷 絹子、清宮 啓之
主な活動	審議内容				
	がんの治療成績の向上に伴い、共生をはじめ、がん医療に関する新たな課題が生じており、領域横断的な課題解決へ向けた議論、啓発活動を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「患者と医療者が協創するがん医療を目指して」 日時：令和4年10月1日（予定）、場所：パシフィコ横浜会議センター5階503、 開催方法：現地 + Web 配信、入場無料、共催：第81回日本癌学会学術総会				
開催状況	令和4年7月26日。オンライン開催。出席委員12名。				
今後の課題等	今期中に、第2回の公開シンポジウムの開催を予定しており、その準備も含めて、年度内に分科会を開催予定である。				

臨床医学委員会（循環器・内分泌・代謝分科会）					
委員長	山本 晴子	副委員長	荒井 秀典	幹事	
主な活動	審議内容				
	循環器・内分泌・代謝分科会では主に前期の提言の実行状況の調査と、今期の重点項目の検討を行っている。脳卒中・循環器病対策基本法が平成30年に成立、令和元年に施行されたことで、脳卒中・循環器病及び周辺領域の状況が大きく変化することが考えられるため、その状況を注視しつつ、本分科会として重点的に検討すべき項目を抽出していく。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回分科会：令和3年4月28日（オンライン開催） 第2回分科会：令和4年10月19日（オンライン開催）※予定				
今後の課題等	なし				

臨床医学委員会（脳とこころ分科会）					
委員長	高橋 良輔	副委員長	加藤 忠史	幹事	林 朗子、古屋敷 智之
主な活動	審議内容				
	会員任命問題への対応、研究インテグリティの確保、IYBSSD 連絡会議への参加・協力について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「神経科学領域の倫理的課題」について神経科学分科会との合同で見解を令和5年末頃に発出する見込みである。				
	開催シンポジウム等				
	神経科学分科会・脳とこころ分科会の共催で公開シンポジウム「神経科学領域の倫理的課題」を8月27日にウェブ開催した。参加者は500名であった。 ウェブサイト： https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/323-s-0827.html				
開催状況	令和4年8月27日（神経科学分科会との合同、オンライン開催）				
今後の課題等	なし				

臨床医学委員会（移植・再生医療分科会）					
委員長	澤 芳樹	副委員長	岡野 栄之	幹事	岡田 潔
主な活動	審議内容				
	・移植、遺伝治療、再生医療分野のアクションプランの確定について ・提言に基づいたシンポジウムの開催について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第25期はシンポジウムを通じた分科会の検討状況の公開と意見交換を行い、第26期にその内容を取りまとめて、提言として表出することを目指す。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「移植・再生医療の現在の課題」 ・開催日時：令和4年2月14日（オンライン開催）				
開催状況	第4回 令和3年10月18日 第5回 令和4年6月20日 第6回 令和4年9月13日				
今後の課題等	第25期は引き続き、第24期に公表した提言「我が国における移植医療と再生医療の発展と普及」に基づき、移植、遺伝子治療、再生医療の課題を抽出し、提言に基づいたアクションプランを作成するとともに、アクションプランに基づいたシンポジウムの開催や議論の検討内容を取りまとめることを目標に活動を行っていく。				

臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同（子どもの成育環境分科会）					
委員長	山中 龍宏	副委員長	西田 佳史	幹事	水口 雅

主な活動	審議内容
	事故による子どもの傷害は多発しており、同じ年齢層の子どもに同じ事故が起こり続けている。すなわち、これまで予防策と考えられていたものは機能していない。そこで、子どもやケアラーを中心にした傷害予防のシステムを構築する検討を行っている。
	意思の表出（※見込み含む）
	事故による子どもの傷害を予防するための国レベルのシステムの構築について提言を出す予定である。
	開催シンポジウム等
開催状況	令和4年7月23日14:00～17:00 日本学術会議主催 公開シンポジウム「事故による子どもの傷害を予防するー子ども中心の新たな予防システムの構築へー」を開催した（講演者14人、参加者85人）。 令和5年春の「学術の動向」誌の小特集「事故による子どもの傷害を減らすために」（執筆者6人）を企画した（承認済）。
	毎月1回、オンラインで委員会を行っている。令和4年10月時点で15回開催した。
今後の課題等	傷害を予防するためには、多職種の関与や地域実装が不可欠である。それぞれの職種、担当部署の役割を明確にし、予防策の効果を評価することができるシステムを構築する必要がある。このシステムの継続性も不可欠で、これらのすべてを含んだ提言を模索している。

臨床医学委員会（放射線・臨床検査・病理分科会）					
委員長	井上 優介	副委員長	増田 しのぶ	幹事	青木 茂樹、山田 俊幸
主な活動	審議内容				
	・法改正により職業被ばくの線量限度が引き下げられ、医療従事者の放射線管理が社会的課題になっている。本分科会では、医療従事者の職業被ばくに係る放射線管理の改善を目的とした意思表出に向けて審議した。分科会及び新たに設置した小委員会における審議をもとにまとめた見解案について、学術会議内外の関係者と意見交換を行っている。 ・臨床検査値の共有化とその問題点について審議を行って報告案を作成していたが、社会への発信は専門学会等から行い、発信内容の検討に分科会での審議結果を活かすことになった。 ・病理解剖は医学研究や教育に加え、医療の質の検証等にも寄与する。診療における意義は大きくなっているが、実施数は減少している。病理解剖の現状と課題、解決すべき点について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「医療従事者の職業被ばくに係る放射線管理の改善に向けて」を発出見込み。				
	開催シンポジウム等				

	なし
開催状況	令和4年2月1日 (令和4年6月1日 医療従事者の放射線管理小委員会)
今後の課題等	・現在検討中の見解案をとりまとめる。 ・病理解剖についてさらに審議を深める。 ・その他、今後取り組むべき課題について協議する。

臨床医学委員会（放射線防護・リスクマネジメント分科会）					
委員長	神谷 研二	副委員長	青木 茂樹	幹事	井上 優介、細谷 紀子
主な活動	審議内容				
	なし				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言」（仮題）の適切な意思の表出について検討する。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし				
今後の課題等	「医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言」（仮題）を取り纏め、意思の表出について検討する。また、内容の実効性を高めるため関連学会等との連携を検討する。				

臨床医学委員会・基礎医学委員会合同（法医学分科会）					
委員長	藤田 眞幸	副委員長	西谷 陽子	幹事	橋本 優子
主な活動	審議内容				
	法医学分科会を立ち上げた。第24期に実施した若手医師の進路の動向を探るアンケート結果の分析をさらに進め、今期に報告として表出することを決定した。法医学認定医の専門医制度との係わり、これからの死因究明制度について、それぞれ日本専門医機構、厚生労働省の担当者を参考人として話を聞く方向となった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中に報告を表出する予定				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年1月25日（第1回・オンライン開催）、6月6日（第2回・オンライン開催）				
今後の課題等	若手医師の進路の決定に関する動向に基づいた法医学を志す若手医師の確保のための戦略・現状の法医学に関する制度の問題点と改善案の提言・法医学の重要性に関する国民の理解を深める活動の推進				

臨床医学委員会（臨床ゲノム医学分科会）					
委員長	戸田 達史	副委員長	櫻井 晃洋	幹事	田中 敏博
主な活動	審議内容				
	臨床ゲノム医学分科会では、研究指針の統合、全ゲノム解析の進展とその臨床応用、がんゲノム医療の発展、遺伝学的検査の保険診療化、遺伝子検査ビジネス、生殖遺伝学などの倫理など、主に臨床ゲノム医学の現在の「問題」の抽出を行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウムの課題を中心に、期末までに表出する予定あり。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年9月25日公開シンポジウム。オンライン開催 「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族観のゆらぎと法的・社会的課題」				
開催状況	令和4年4月22日オンライン開催				
今後の課題等	シンポジウムでの討議をもとに、次の会議で意思表出などを決定・開始する。今後は時間を取り、法学系の分科会と議論する。				

臨床医学委員会（感覚器分科会）					
委員長	寺崎 浩子	副委員長	山嵜 達也	幹事	五味 文、松本 有
主な活動	審議内容				
	・コロナ感染を恐れた受診控えによる感覚器疾患の悪化を防止するための対策や、病床ひっ迫のための患者選択のガイドラインの検討。 ・『コロナ禍での感覚器障害のリスクについて』をテーマとした市民公開講座の開催。 ・視覚以外の感覚神経分野の最新研究をもとに、“みる”を支える感覚器研究の未来について議論できる場を提供するため、医師・研究者を対象としたシンポジウム『「みる」をささえる五感の科学最前線』の企画を検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和4年1月25日に『コロナ禍での感覚器障害のリスク』と題した市民公開講座をWebにて開催し、154名の参加者を得た。なお、講師は4名すべて女性であった。				
開催状況	なし				
今後の課題等	「デジタル化社会と感覚器」を大きなテーマに見据えて活動を開始したが、COVID-19収束の兆しがいまだ見えず、感覚器に関する健康二次被害の防止を喫緊の重要課題と捉えて審議を進めている。				

臨床医学委員会（慢性疼痛分科会）					
委員長	中村 雅也	副委員長	住谷 昌彦	幹事	
主な活動	審議内容				
	・第 25 期に見解（案）を作成し、日本学術会議から発出するための査読を受け修正稿を審議した。 ・国民・関連学協会との対話の在り方を議論し、公開シンポジウムを開催することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解を発出する見込み				
	開催シンポジウム等				
	令和 4 年 7 月 23 日にオンライン公開シンポジウム「運動器疼痛に対する本邦の診療研究体制整備」を開催した。				
開催状況	令和 3 年 11 月 3 日 見解（案）の内容について審議、承認（メール開催） 令和 4 年 3 月 14 日 公開シンポジウムの開催について審議、承認（メール開催） 令和 4 年 7 月 23 日 公開シンポジウムでの国民・関連学協会との質疑応答を踏まえ、慢性疼痛分科会の活動方針を再確認（オンライン開催）				
今後の課題等	・見解の発出に向け、査読後の改訂作業を進める。 ・見解中に記載した運動器疼痛への診療研究体制整備の実現に向けた方策の検討				

⑰健康・生活科学委員会



健康・生活科学委員会					
委員長	小松 浩子	副委員長	安村 誠司	幹事	杉山 久仁子、山口 香
主な活動	審議内容				
	健康・生活科学の視点から、新型コロナウイルス感染症にかかる課題と対策について検討を行った。ことに、健康危機の時代に求められる人材育成について、シンポジウムの企画を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・健康・生活科学分野における「ポストコロナ時代に求められる人材育成」について（報告・資料）の検討予定。 ・各分科会の意思の表出予定：看護学分科会「報告：WITH/AFTER コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション（仮題）」、高齢者の健康分科会「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナ感染症対策に求められる老年学の役割と発揮（案）」、スポーツ科学分科会「見解：社会参加へと導くスポーツのあり方—つながるスポーツのカー—」、脱たばこ分科会「見解（案）脱タバコ社会の実現を脅かす加熱式タバコ普及の問題点」など				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる公衆衛生人材」（令和3年12月21日）健康・生活科学委員会、パブリックヘルス科学分科会ほか主催 ・公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる看護系人材」（令和4年5月21日）健康・生活科学委員会、看護学分科会主催				
開催状況	第5回委員会 令和3年12月2日 第6回委員会 令和4年4月18日				

今後の課題等	健康危機の時代に求められる人材育成について、新たなシンポジウムの企画や、科学的助言（報告）の方針について検討を進める。
--------	---

健康・生活科学委員会・基礎医学委員会合同（パブリックヘルス科学分科会）					
委員長	磯 博康	副委員長	玉腰 暁子	幹事	堀江 正知、瓜生原 葉子
主な活動	審議内容				
	パブリックヘルス科学分科会の委員長が、パンデミックと社会に関する連絡会議における「平時・緊急時の臨床・疫学・基礎研究体制を検討するワーキンググループ」の代表世話人として、臨床、疫学、基礎研究の分野から 14 名の産学の関係者に対してヒアリングを行い、課題と提案に関する意見を聴取した。その内容を「わが国の平時・緊急時の臨床・疫学・基礎研究の現状と課題」として取り纏め、パブリックヘルス科学分科会、総合微生物科学分科会、臨床研究分科会が報告として提出し、現在、最終確認の段階で今年中の発出予定である。 次に、パンデミックと社会に関する連絡会議で重要なテーマとして挙げられている「公衆衛生・リスクコミュニケーション」に関して、関連分科会と共に意見表出の作成を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「わが国の平時・緊急時の臨床・疫学・基礎研究の現状と課題」を年内発出予定。				
	開催シンポジウム等				
	今年度シンポジウムは開催しなかったが、来年度は、「わが国の平時・緊急時の臨床・疫学・基礎研究の現状と課題」と「公衆衛生・リスクコミュニケーション」のテーマをまとめて、日本公衆衛生学会総会（茨城県つくば市）で開催する。				
開催状況	第 1 回 令和 3 年 12 月 6 日 ハイブリット会議予定				
今後の課題等	なし				

健康・生活科学委員会（看護学分科会）					
委員長	小松 浩子	副委員長	安村 誠司	幹事	山口 香
主な活動	審議内容				
	看護学分野における「看護イノベーション」並びに「地元創生看護学」の 2 つのテーマに焦点をあて、公開シンポジウム、関連学協会との連携・協働、科学的助言の表出に取り組んでいる。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「WITH／AFTER コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション（仮題）」を発出予定。				
	「地元創生看護学」に関しては、専門誌からの招聘論文が掲載予定（11 月予定）。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる看護系人材」（令和 4 年 5 月 21 日）				

開催状況	メール審議を含め3回の分科会を開催（令和3年10月29日、11月22日～12月3日、令和4年3月27日）
今後の課題等	・報告「WITH/AFTER コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション（仮題）」について継続審議 ・「地元創生看護学」公開シンポジウムの開催（12月予定）

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会（生活習慣病対策分科会）					
委員長	八谷 寛	副委員長	磯 博康	幹事	郡山 千早、小熊 祐子
主な活動	審議内容				
	医学部モデル・コア・カリキュラム改訂に際し、生活習慣病予防に係る内容について専門の各委員、外部の専門家と意見交換を行い、文部科学省のもとに設置された研究班に提案した。初等・中等教育における教科横断的な「リスク」教育の実施・充実を提言する分科会横断的な議論に関与した。また、パンデミックと社会に関する連絡会議に参加した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	リスク認知教育に関する意思の表出（環境リスク分科会等と合同）				
	開催シンポジウム等				
	令和3年11月6日「幼小児期・若年期からの生活習慣病予防」記録動画公開中： https://www.scj.go.jp/ja/event/2021/link/314-s-1106_link_1.html				
開催状況	令和4年2月16日				
今後の課題等	なし				

健康・生活科学委員会・歯学委員会合同（脱タバコ社会の実現分科会）					
委員長	山下 喜久	副委員長	井上 真奈美	幹事	永田 知里
主な活動	審議内容				
	令和4年1月12日 第4回同分科会委員会の開催 ・これまでに本分科会で実施してきた前期（24期）に同分科会から発出した2つの提言の社会的波及効果の調査結果を纏めることで、これら2つの提言が社会的にどのような影響を与えたのかを評価した。 ・これらの調査結果を報告として発出をすることを当初計画していたが、調査結果を吟味するとあくまで同分科会内の反省事項に過ぎないので、改めて報告として公に向けて発出することは取り止め、これらの一部を用いてそれぞれの提言のインパクト・レポートとして提出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記委員会で脱タバコ社会を目指す動きを脅かす加熱式タバコの普及問題に関する見解を作成し発出することを決定し、分科会外部の専門家2名に見解作成に協力いただけることに承諾を得た。				
	開催シンポジウム等				

	・令和3年12月12日に名古屋国際会議場において第25回日本学顔面インプラントに併催して、市民公開シンポジウムを開催した。 ・令和5年5月21日に大阪で開催される第72回日本口腔衛生学会学術大会の支援を受けて、脱タバコ社会の実現を脅かす加熱式タバコの普及についての日本学術会議主催の市民公開シンポジウムを開催する予定である。
開催状況	・第4回の同分科会委員会を1月12日16時より開催し、上記の審議を行った。 ・第5回の同分科会委員会は10月11日17時から開催予定である。
今後の課題等	・本分科会の残りの残任期間が来年9月末と限られており、見解の作成は効率よく纏める必要がある。

健康・生活科学委員会（健康・スポーツ科学分科会）					
委員長	宮地 元彦	副委員長	来田 享子	幹事	山口 香、神崎 素樹
主な活動	審議内容				
	・2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック大会の開催に関する科学的情報の収集に努めた。 ・第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会において、本分科会所属の来田副委員長並びに山口幹事による講演などの活動を行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「社会参加へと導くスポーツのあり方―つながるスポーツの力―」を表出見込み。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年1月29日に、公開シンポジウム「スポーツの新たなステージへ～調和のとれた共生社会の構築に向けて～」を日本スポーツ体育健康科学学術連合と協力して主催した。				
開催状況	なし				
今後の課題等	なし				

健康・生活科学委員会（家政学分科会）					
委員長	杉山 久仁子	副委員長	守随 香	幹事	阿部 栄子、重川 純子
主な活動	審議内容				
	・子育て支援及び免許外教科担任制度に関する意思の表出に向けて、聞き取り調査や文献の分析などを行った。 ・本分科会と生活科学関連学協会との連携を図るために設立されている生活科学系コンソーシアムの活動について審議した。 ・生活を生涯にわたって学ぶテキストの検討を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

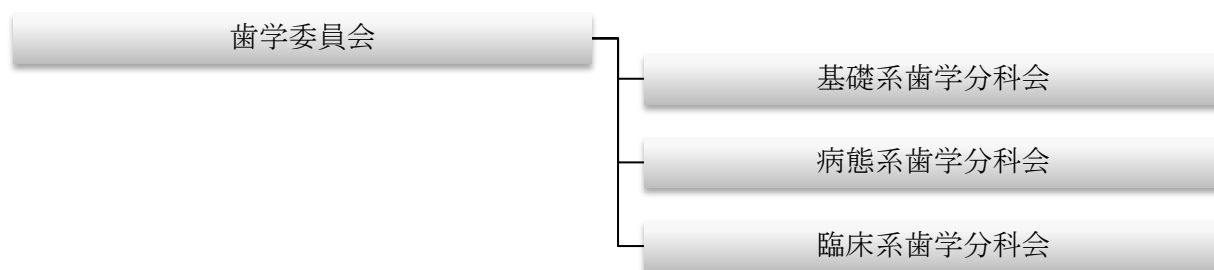
	生活科学系コンソーシアム主催で「With/Post コロナ社会と人の生活」を主テーマとするシンポジウム（令和3年12月18日、令和4年5月22日、オンライン）及び生活科学系博士課程論文発表会（令和4年3月21日、オンライン）を開催した。
開催状況	令和3年12月18日、令和4年3月21日、6月17日
今後の課題等	検討してきた問題について課題を整理し、第25期中に提言としてまとめた。

健康・生活科学委員会（高齢者の健康分科会）					
委員長	住居 広士	副委員長	須田 木綿子	幹事	飯島 勝矢、田高 悦子
主な活動	審議内容				
	高齢者の健康分科会において、高齢者の健康・生活の視点から、新型コロナウイルス感染症対策に求められる老年学の役割と発揮についてシンポジウムで討論と質疑を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出案「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる老年学の役割と発揮」の見込みを審議した。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる老年学の役割と発揮」を、令和4年7月30日にオンライン開催した。				
開催状況	第6回 高齢者の健康分科会（公開シンポジウム案等の審議）2月28日オンライン 第7回 高齢者の健康分科会（意思の表出等の審議）7月30日オンライン 公開シンポジウム「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる老年学の役割と発揮」（Zoom・Youtube オンライン） 第8回 高齢者の健康分科会 11月末開催見込み オンライン				
今後の課題等	・第25期において、意思の表出（案）「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる老年学の役割と発揮」の見込みを継続的に審議する。 ・令和5年7月下旬に公開シンポジウム「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる老年学の役割と発揮」（続報）を検討課題とする。				

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同（少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会）					
委員長	西村 ユミ	副委員長	荒井 秀典	幹事	森山 美知子、山川 みやえ
主な活動	審議内容				
	・少子高齢化、及びパンデミックに対する学術的課題への対応として、連続シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の開催。 ・「未来の学術振興構想」への申請に関わる検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	パンデミックと社会に関する連絡会議と調整中				
	開催シンポジウム等				

	令和3年12月11日：連続シンポジウム第2回「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組みー子育てをしながら働き，働きながら暮らすための地域共生社会」の開催
開催状況	令和4年2月23日、9月25日
今後の課題等	・連続シンポジウム第3回「「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の企画（令和5年3月に開催予定） ・「未来の学術振興構想」への申請

⑩歯学委員会



歯学委員会					
委員長	市川 哲雄	副委員長	西村 理行	幹事	村上 伸也
主な活動	審議内容				
	24 期の活動を踏まえ、中長期的視点と俯瞰的視野、学術分野横断的な発信、対話を通じた情報発信力の強化の観点から、報告「新型コロナウイルス感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」、「歯学・口腔科学分野の課題と展望」、未来の学術振興構想を提出することにした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「新型コロナウイルス感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」、報告「歯学・口腔科学分野の課題と展望」、を3分科会と協力の上、作成、提出。				
	開催シンポジウム等				
	公開学術講演会（福岡国際会議場＋Web）：口腔に関連した新型コロナウイルス感染症の諸問題（令和4年4月23日）、公開シンポジウム（Web）：「歯学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ～課題と展望について～」（令和4年1月13日）				
開催状況	第4回（令和4年3月8日）、第5回（令和4年7月5日）				
今後の課題等	口腔科学、歯学が関連する学術分野横断的な課題を検討し、発信していく方策を再検討することを確認した。				

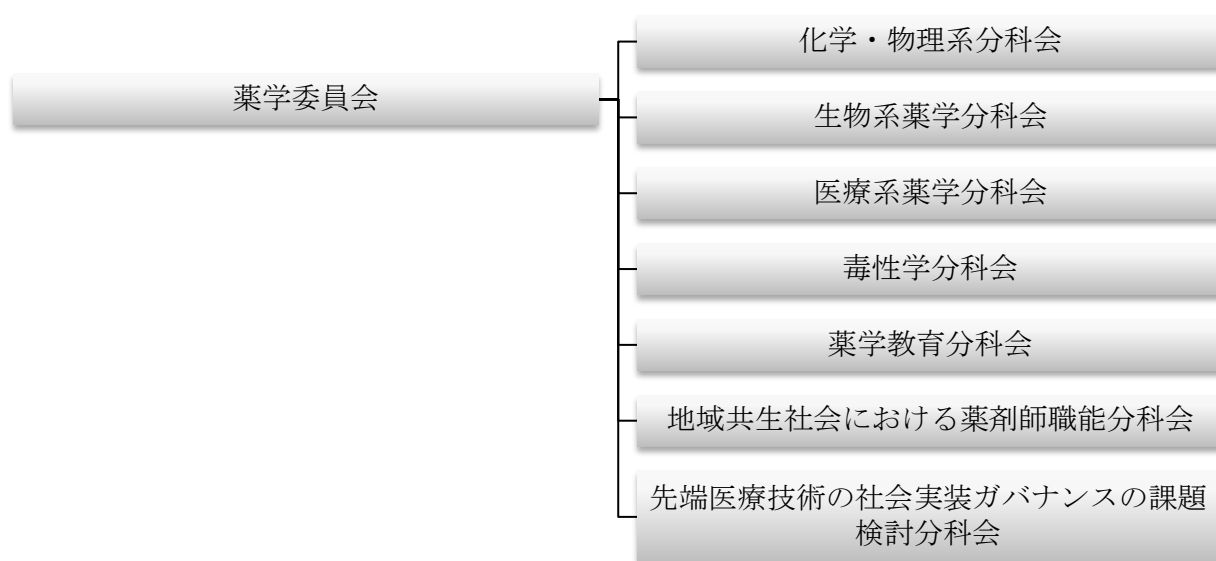
歯学委員会（基礎系歯学分科会）					
委員長	西村 理行	副委員長	石丸 直澄	幹事	東 みゆき、前川 友樹
主な活動	審議内容				
	基礎系歯学および生命科学の学術の現状を踏まえて、今後の歯学・口腔科学の基礎系領域の学術のあり方、展望および情報発信に関する課題を協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	歯学委員会と連携して、「歯学・口腔科学の課題と展望」の報告を取りまとめた。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年9月17日に歯科基礎医学会と共同主催にて、市民公開シンポジウム「口腔と全身のネットワーク～脈管系から生命現象を理解する～」を開催予定。				
開催状況	令和4年10月21日に基礎系歯学分化会の開催を予定している。				

今後の課題等	未来の学術振興構想にどのように貢献、寄与し、歯科基礎医学の学術の将来をさらに検討する必要がある。
--------	--

歯学委員会（病態系歯学分科会）					
委員長	村上 伸也	副委員長	中村 誠司	幹事	
主な活動	審議内容				
	・歯学委員会と連携し、病態系歯学分野における課題の抽出と将来展望を取りまとめた。 ・公開シンポジウムの企画、立案を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	歯学委員会と連携して、報告 「歯学・口腔科学分野の課題と展望 2022」を発出予定（現在、査読中）				
	開催シンポジウム等				
	「歯学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ～課題と展望について～（令和4年1月13日）」「口腔に関連した新型コロナウイルス感染症の諸問題（令和4年4月23日）」を開催。				
開催状況	令和3年12月21日、令和4年4月23日				
今後の課題等	令和5年5月13日の日本口腔科学学会学術大会において、公開シンポジウムを開催予定。歯学委員会と連携し、「学術の中長期研究戦略」を策定予定。				

歯学委員会（臨床系歯学分科会）					
委員長	市川 哲雄	副委員長	森山 啓司	幹事	品田 佳世子、後藤 多津子
主な活動	審議内容				
	24期の活動「新たな臨床指標の確立と医療ネットワークの構築」を踏まえ、臨床系歯学が抱えている課題を抽出し、シンポジウム、未来の学術振興構想、報告などでその解決策を示すこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「新型コロナウイルス感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」、報告「歯学・口腔科学分野の課題と展望」、を歯学委員会と合同で、作成、提出。				
	開催シンポジウム等				
	公開学術講演会（福岡国際会議場＋Web、歯学委員会と共催）：口腔に関連した新型コロナウイルス感染症の諸問題（令和4年4月23日）				
開催状況	第2回（令和4年3月7日）				
今後の課題等	臨床系歯学が関連する学術分野横断的な課題を引き続き検討し、発信していくことを確認した。				

⑱薬学委員会



薬学委員会					
委員長	山崎 真巳	副委員長	遠藤 玉夫	幹事	
主な活動	審議内容				
	薬学委員会は、関連分科会を含め会員・連携会員の人数は少ないが、専門領域が生物系、物理化学系、医療系と多岐にわたることから、情報の共有、意思の集約が難しいが、今期より各分科会委員長を薬学委員会構成員として加えることにより情報共有・交換を行っている。とくに会員から総会での審議事項についての連携会員への情報共有、分科会が主催するシンポジウムの開催等の情報交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「薬剤師のプロフェッショナリズムを考える」				
開催状況	令和3年12月3日オンライン開催				
今後の課題等	関連する学協会連合について検討中である。				

薬学委員会（化学・物理系薬学分科会）					
委員長	永次 史	副委員長	樋口 恒彦	幹事	内山 真伸、眞鍋 史乃
主な活動	審議内容				
	令和4年に開催するシンポジウムの内容について議論した。ここ数年、各薬学部で様々な改革が進んでいることから、今後の薬学教育を取り上げたシンポジウムを開催することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	令和4年11月26日にオンラインで「21世紀の新しい人材育成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」というタイトルでシンポジウム (https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/327-s-1126.html)を開催する予定。
開催状況	上記の審議内容に関してオンラインで令和4年2月18日、4月11日に会議を行った。
今後の課題等	今後、11月のシンポジウムにおける議論を元に、薬学領域において激減している化学・物理系の若手研究人材の育成を課題として設定し、活動を進めたいと考えている。

薬学委員会（生物系薬学分科会）					
委員長	一條 秀憲	副委員長	深見 希代子	幹事	赤羽 悟美、藤田 直也
主な活動	審議内容				
	・生物系薬学領域において注目される課題について議論し、今後の展開を考察した。 ・生物系薬学の領域多様性に鑑み、年齢・ジェンダー等に配慮しつつ5名の新規分科会委員の追加を決定した。 ・令和4年度生物系薬学分科会シンポジウムの在り方について議論し、「新興・再興感染症の克服に挑む～COVID-19との闘いを経て～」というタイトルで開催することとなった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今後も生物系薬学領域に特徴的なシンポジウム等を定期的で開催し、それを基に意思の表出の可能性を探る。				
	開催シンポジウム等				
	令和5年1月13日に開催予定				
開催状況	令和3年10月26日第3回分科会 オンライン開催 令和4年3月24日第4回分科会 オンライン開催 令和4年7月11日第5回分科会 オンライン開催				
今後の課題等	新型コロナウイルスをはじめとする新興感染症に対する対応				

薬学委員会（医療系薬学分科会）					
委員長	高倉 喜信	副委員長	合田 幸広	幹事	黒川 洵子、武田 莉子
主な活動	審議内容				
	・今期発出した報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」に関連した分科会活動を継続的に行うことが承認された。この方針に基づき、令和4年7月及び12月に公開シンポジウムを開催することが決定された。併せて、再改訂が進められている薬学教育モデル・コア・カリキュラムにも本報告の観点が反映されるよう働きかけることとなった。				

	・新型コロナウイルスワクチンや治療薬に関する公開シンポジウムやフォーラムについても継続的に実施することが承認された。 意思の表出（※見込み含む） 令和3年12月28日報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」 開催シンポジウム等 ・令和3年11月3日公開シンポジウム「地域共生社会における薬剤師像を発信する」（オンライン開催） ・令和4年2月5日学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる04[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown #3]「新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」」（オンライン開催） ・令和4年7月24日公開シンポジウム「品質保証と臨床研究：日本学術会議医療系薬学分科会の報告から」医療薬学フォーラム2022（オンライン開催）、
開催状況	・令和4年2月15～22日分科会（第2回）メール審議 ・令和4年7月26日分科会（第3回）オンライン開催 ・令和3年10月18日、令和4年3月22日、4月11日、4月18日 メール審議
今後の課題等	新型コロナウイルスワクチンおよび治療薬に関する総括的な公開シンポジウムの開催。

薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同（毒性学分会）					
委員長	菅野 純	副委員長	姫野 誠一郎	幹事	上田 佳代、石塚 真由美
主な活動	審議内容 ・「リスクの認知」に関するWGの設立と、それに関わる提言に関する審議が行われた。 ・「毒性学」に関して、今後の意思の表出等に関しての方針や内容について議論された。 ・学会との連携のため、日本毒性学会のWEBサイト（http://www.jsot.jp/）に日本学術会議毒性学分会のページを作成し、これまでのシンポジウムの案相、記録、及び資料をアーカイブとして掲載した。 （http://www.jsot.jp/conference/notice.html） 意思の表出（※見込み含む） 現在、提言の発出に向けて、情報を収集し、議論を重ねている。 開催シンポジウム等 公開シンポジウム「子どもの毒性学」令和4年2月19日（オンライン開催） 学術フォーラム「リスク認知と教育」令和4年5月7日（オンライン開催）				
開催状況	令和4年2月19日（オンライン） 令和4年11月25日予定（オンライン）				
今後の課題等	25期中に、分科会委員会とシンポジウムでの議論を踏まえて提言の作成を行う。				

薬学委員会（薬学教育分科会）					
委員長	太田 茂	副委員長	入江 徹実	幹事	石井 伊都子、堤 康央
主な活動	審議内容				
	薬学分野での教育課程編成上の参照基準を作成している中で、文部科学省において薬学教育モデルコアカリキュラム改訂作業が並行して行われている状況であった。当分科会としては改訂作業完成を待って表出をすることとした。				
	化学・物理系薬学分科会からの提案で「21 世紀の新しい人材養成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」というタイトルでシンポジウムを開催することを議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「薬学分野での教育課程編成上の参照基準」コアカリキュラム改訂終了後の見込み。				
	開催シンポジウム等				
	令和 4 年 11 月 26 日公開シンポジウム「21 世紀の新しい人材養成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」				
開催状況	令和 3 年 11 月 1 日				
今後の課題等	薬学教育の中で大学院教育の望ましい方向性を検討する。				

薬学委員会（地域共生社会における薬剤師職能分科会）					
委員長	入江 徹実	副委員長	矢野 育子	幹事	奥田 真弘
主な活動	審議内容				
	第 24 期「薬剤師職能とキャリアパス分科会」が発出した提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」を浸透させ、政策等への反映を図るための活動を継続している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和 4 年 9 月 誌上シンポジウム「地域共生社会における薬剤師像を発信する」（薬学雑誌）				
	開催シンポジウム等				
	令和 3 年 11 月 3 日 日本学術会議・日本薬学会共同主催公開シンポジウム「地域共生社会における薬剤師像を発信する」（オンライン開催）				
開催状況	分科会（全てオンライン開催）・令和 3 年 11 月 24 日（第 4 回）、令和 4 年 3 月 3 日（第 5 回）、4 月 5 日（第 6 回）、7 月 6 日（第 7 回）				
今後の課題等	・令和 4 年 1 月 22 日日本学術会議・日本薬学会・日本医療薬学会共同主催公開シンポジウム「薬剤師のプロフェッショナリズムを考える」（オンライン開催予定） ・「日本学術会議パンデミックと社会に関する連絡会議」に参画し、多方面の専門家との協働作業を通じて、地域社会や医療に貢献できる施策について審議する予定である。				

薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同（先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会）					
委員長	加納 信吾	副委員長	関野 祐子	幹事	城山 英明、林 裕子
主な活動	審議内容				
	先端医療技術の実用化には、新しい評価方法の導入を伴う。新しい評価方法の妥当性に関するコンセンサス形成を促す仕組みとしての「評価技術の利用ルールを作成するルール（ルール・オブ・ルール）」の整備の提案を「提言」として行うため、提言の骨子を作成し「意思の表出の届出」を行い、外部意見を聴取するためのシンポジウム開催を審議し、開催を決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「提言」として意思の表出を行う届出を提出した。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年11月21日に開催予定				
開催状況	令和4年12月に第3回を開催予定（日程調整中） （非公式な会合を令和4年9月7日に開催済）				
今後の課題等	シンポジウム開催により外部の意見を吸収し、意思の表出につなげていくことが課題である。				

㊫環境学委員会



環境学委員会					
委員長	浅見 真理	副委員長	池邊 このみ	幹事	北川 尚美、大久保 規子
主な活動	審議内容				
	環境学の進展に伴う分科会活動の一層の推進を図る。学術フォーラムで共有した各種国際・国内活動を担う分科会活動の状況等をもとに、脱炭素社会に関する連絡会議等とも連携し、我が国の環境学の進展に寄与するための事項の審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	令和3年7月3日に開催された学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」を開催し、高村先生の基調講演の後、各分科会等の活動を紹介し、約800の視聴があった。その後、関連分野でのフォーラムが実施された。				
開催状況	幹事打ち合わせ、カーボンニュートラル連絡会議等を経て 第4回 令和4年4月 第5回 令和4年10月頃（予定）				
今後の課題等	フォーラムでは、気候変動等による地球環境の緊急事態に対し、技術的な検討や環境投資、法律などの方策も活用した、経済、社会、教育等が連携した社会全体のパラダイムシフトが強く求められており、各分科会が種々取り組んでいることを取り上げた。中長期戦略策定に関連して、幹事の打ち合わせを行い、関連機関、関連学会から複数の提案が行われる予定である。提案関連する分科会やカーボンニュートラル連絡会議等と連携し、今後、環境学の方向性をまとめ、グランドビジョン策定や関連する審議会等の議論に反映していきたい。				

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同（FE・WCRP 合同分科会）					
委員長	三枝 信子	副委員長	中村 尚	幹事	張 勁
主な活動	審議内容				
	ISC（国際学術会議）傘下のフューチャー・アース（FE）と気候変動国際協同研究計画（WCRP）が連携して気候変動の実態把握と将来予測などの研究に取り組み、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）へも貢献しつつ、持続可能な社会の実現に向けて科学的知見を提供するために必要な事項について検討と審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和3年7月3日に開催された学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の展開ー」において、持続可能な地球環境のための気候変動研究に関する取組について講演を通して周知した。				
開催状況	第2回 令和3年12月20日：小委員会の活動報告を中心に、特に気候変動に関わる国内コミュニティの研究推進や国際学術団体への貢献について審議した。 令和4年6月のカーボンニュートラルに関する連絡会議（第2回）に参画した。 第3回分科会は令和4年12月までに開催予定。				
今後の課題等	各種国際・国内活動を担う11の小委員会活動の状況や課題を分科会において共有するとともに、我が国における気候変動関連の科学的知見の集約と社会への普及（公開シンポジウム等）に関連する諸事項の審議を行う。				

環境学委員会（環境科学分科会）					
委員長	北川 尚美	副委員長	大政 謙次	幹事	宮崎 あかね、恒川 篤史
主な活動	審議内容				
	・24期の活動を引き継ぎ、1)生態学・生態系、2)物質循環（有機・無機）・土地資源（土壌）、3)エネルギー、4)生産技術・社会（社会実装）、5)都市（コンパクトシティ・都市農業）・気象環境緩和、の5つのグループに分かれて、定期的な研究会や合同勉強会の開催などを通じて詳細な議論を進めている。また、各グループでの議論の共有を目的として、分科会開催時に全体での意見交換を行っている。 ・前期に発刊した叢書「持続可能な社会への道～環境科学から目指すゴール～」の内容に上記の各グループでの議論を加えて、シンポジウムを企画している。 ・環境関連の課題は世代を超えた議論が重要となるため、高校生や大学生、大学院生などを対象とし、シンポジウム開催時に双方向で議論ができる場を作る活動などを積極的に進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	・令和3年11月6日公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー」				

	ギー利用の可能性と課題」開催 ・令和4年7月30日公開シンポジウム「みんなで考えるカーボンニュートラルと化学」開催 ・令和4年9月29日公開シンポジウム「東南アジアのアブラヤシ農園の持続的開発の問題点と課題」開催予定
開催状況	第3回 令和4年2月23日
今後の課題等	グループ毎の議論の進行度に応じて内容をまとめ、シンポジウムを中心に企画していく。また、次世代との対話を行うための方法論の構築にも取り組んでいく。

環境学委員会・健康・生活科学委員会合同（環境リスク分科会）					
委員長	那須 民江	副委員長	中村 桂子	幹事	野原 恵子、近藤 昭彦
主な活動	審議内容				
	e-book（Springer から11月出版）の進捗状況の確認と令和3年12月23日開催のシンポジウム及び初等・中等教育におけるリスク教育の見解（意思の表出）について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	コロナ禍におけるプラスチックのガバナンスと健康について、雑誌投稿を探る。初等・中等教育におけるリスク教育についての見解（意思の表出）。				
	開催シンポジウム等				
	・令和3年12月23日「プラスチックのガバナンス：感染症制御のための衛生環境管理と資源循環」（日本公衆衛生学会と共催シンポジウム）開催 ・令和4年5月7日 学術フォーラム「リスク認知と教育」開催				
開催状況	第5回 令和3年12月23日 第6回 令和4年5月30日				
今後の課題等	コロナ禍におけるプラスチックのガバナンスについては「カーボンニュートラル」と「パンデミックと社会」に関連して重要な課題となる。シンポジウムを行った。7分科会合同で、初等・中等教育におけるリスク教育についての見解を表出予定である。				

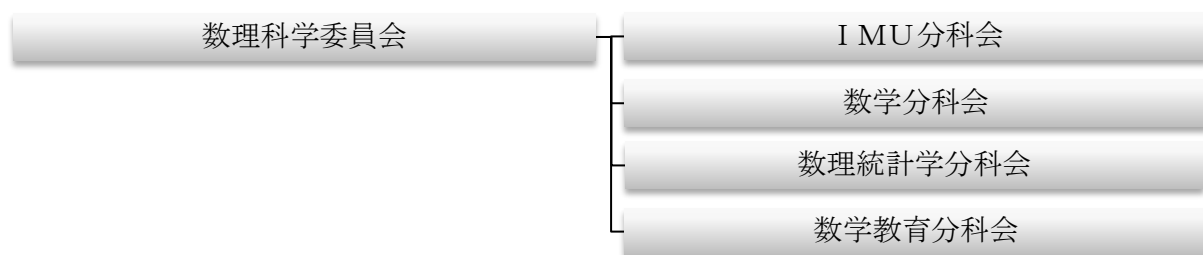
環境学委員会（環境思想・環境教育分科会）					
委員長	関 礼子	副委員長	氷見山 幸夫	幹事	豊田 光世、蟹江 憲史
主な活動	審議内容				
	環境思想・環境倫理に関する研究と教育を推進する態勢、関係者のネットワーク化と調整、既出の提言・報告等の実効化に向けた課題、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実効化について検討する。小委員会、シンポジウム等に関する事項を協議する。 1. 環境教育の情報収集、2. 環境教育実践に係る諸課題の把握、3. SDGs を踏まえた環境教育（ESD）の統合的推進に関する対応について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	コロナ禍において見えてきた体験的学びの価値や新たな学びの可能性について、多角的な議論を展開し、提言としてまとめる方向性 開催シンポジウム等 なし
開催状況	第4回 令和3年10月21日 第5回 令和4年2月7～9日（メール審議） 第6回 令和4年6月3日
今後の課題等	環境思想・環境倫理に関する研究と教育を推進する態勢、関係者のネットワーク化と調整、既出の提言・報告等の実効化に向けた課題、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実効化について検討を行う。

環境学委員会（環境政策・環境計画分科会）					
委員長	大塚 直	副委員長	大久保 規子	幹事	村上 暁信、栗山 浩一
主な活動	審議内容 第5回委員会で、大塚直委員長（早稲田大学法学部教授）から「わが国における循環管理政策の展開」について話題提供がなされ、討論した。 第6回委員会で、高村ゆかり委員から「パリ協定とパリ協定後の気候変動法政策の変容」について講演を受け、討論した。 第7回委員会で、馬奈木俊介委員から「現実的な持続可能な発展への手段」についての講演を受け、討論するとともに、サステナブル投資小委員会からの「報告」案について検討した。 意思の表出（※見込み含む） まだ議論が成熟していないが、最終的には何らかの提言に結び付けたい。 開催シンポジウム等 まず、サーキュラー・エコノミーについて報告・審議をし、その中でもカーボンニュートラルについても扱った。次に、環境政策・計画として、カーボンニュートラル政策自体を取り扱っている。主に気候変動政策と関連してサステナブルファイナンスについても扱う。その後、生物多様性についても検討し、最終的には何らかの提言に結び付けたい。				
開催状況	第5回 令和4年2月6日 第6回 令和4年4月14日 第7回 令和4年7月15日				
今後の課題等	3年間に、脱炭素社会やサーキュラー・エコノミーの実現を含む、持続可能な社会・経済の実現という観点から、環境政策・環境計画の課題を明らかにし、課題への対応策を議論することを目的としている。				

環境学委員会・統合生物学委員会合同（自然環境分科会）					
委員長	吉田 丈人	副委員長	池邊 このみ	幹事	恵谷 浩子、小森 大輔、 田島 夏与
主な活動	審議内容				
	不確実な将来社会シナリオの中で、土地利用、自然環境と人間社会の新たな関係、省庁間・地方自治体・住民の連携、文化的景観等について、環境学の観点から幅広く、かつ、知の統合という観点で議論を展開し、公開シンポジウムなどを通して発信する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	今期中の公開シンポジウムを計画中。				
開催状況	第2回 令和3年12月22日 第3回 令和4年2月7日				
今後の課題等	自然資本を活かし育てるという視点から、土地・景観・国土の経営と管理に関して幅広く議論し、レジリエンスの確保や持続可能性の実現に向けた具体的な検討を、関連する分科会とも連携しながら進めていきたい。				

②数理科学委員会



数理科学委員会					
委員長	小澤 徹	副委員長	齋藤 政彦	幹事	伊藤 由佳理、徳山 豪
主な活動	審議内容				
	広い意味での数学に関して（1）科学政策に対する提言、（2）社会への貢献、（3）国際社会との連携を目的として活動が続ける方針である。第 25 期数理科学委員会では、数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会、IMU 分科会に提言等の審議をゆだね、全体の統括を行う。また、数理科学委員会の決定は、メール等で合意の上、委員長が行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出は各分科会で検討する。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第 3 回 令和 4 年 3 月 15 日				
今後の課題等	・ 第三部から依頼のある各種国際賞の候補を選定する。 ・ 数学分科会では、第 23 期でまとめた提言のフォローアップを行う。 ・ 数理統計学分科会では、データ科学に関して、分科会のこれまでの提言等の実現に向けて活動するとともに、新たな見解の発出を行う。 ・ 数学教育分科会は、第 24 期でまとめた提言のフォローアップを行うとともに、第 25 期に発出する計画の見解について議論を重ねて行く。 ・ IMU 分科会では、数理科学に関する国際学術組織への対応を行う。2022 年夏の国際数学連合総会の決議を踏まえ、次回 2026 年の国際数学連合総会および国際数学者会議へ向けた準備に取り組む。				

数理科学委員会（IMU 分科会）					
委員長	小藺 英雄	副委員長	齋藤 政彦	幹事	清水 扇丈
主な活動	審議内容				
	・ 数学における国際協力を推進し、4 年に一度開かれる ICM（国際数学者会議）を始めとする国際的な研究集会や会議の主催・後援。 ・ 純粋・応用数学、数学教育など数理科学の発展のための国際的活動の援助。 ・ 発展途上国の若手数学者の支援。				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	・日本数学会との共催で IMU 分科会委員を組織委員として以下を開催した： 京都大学数理解析研究所・共同研究（公開型）特別計画 2022 年国際数学者会議に関連する日本フォーラム Japan forum associated with ICM 2022 https://www.mathsoc.jp/activity/meeting/JapanForum2022/ 令和 4 年 6 月 13～14 日 ICM 2022 Satellite Conference (Regional Event) https://www.hairer.org/ICMSCG/ ・第 19 回 IMU 総会及び IMU Award Ceremony 2022 への参加 令和 4 年 7 月 3～5 日 ヘルシンキ（フィンランド） https://www.mathunion.org/icm/imu-award-ceremony-2022
開催状況	第 3 回 令和 4 年 1 月 14 日 第 4 回 令和 4 年 3 月 15 日 第 5 回 令和 4 年 9 月 26 日
今後の課題等	・IMU と連携した国際的及び国内的な数理科学の振興、普及及び社会貢献 ・IMU の予算や活動に対する日本としての意見の決定、IMU 総会へ派遣評議員の決定、IMU に関する役員等の推薦、フィールズ賞、ガウス賞などの各賞の受賞者の推薦、国際会議等への代表の派遣、国際会議等の日本での開催・招致 ・ICM2030 の日本開催 ・その他、上記に係る関連事項の審議

数理科学委員会（数学分科会）					
委員長	小澤 徹	副委員長	齋藤 政彦	幹事	伊藤 由佳理、清水 扇丈
主な活動	審議内容				
	・第 23 期提言「数学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言」に基づく 2020 マスタープラン重点大型研究計画「数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築」の具体化について ・未来の学術振興構想について ・産業界との連携について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出は上記審議内容の審議の経過に依る。				
	開催シンポジウム等				
	なし				

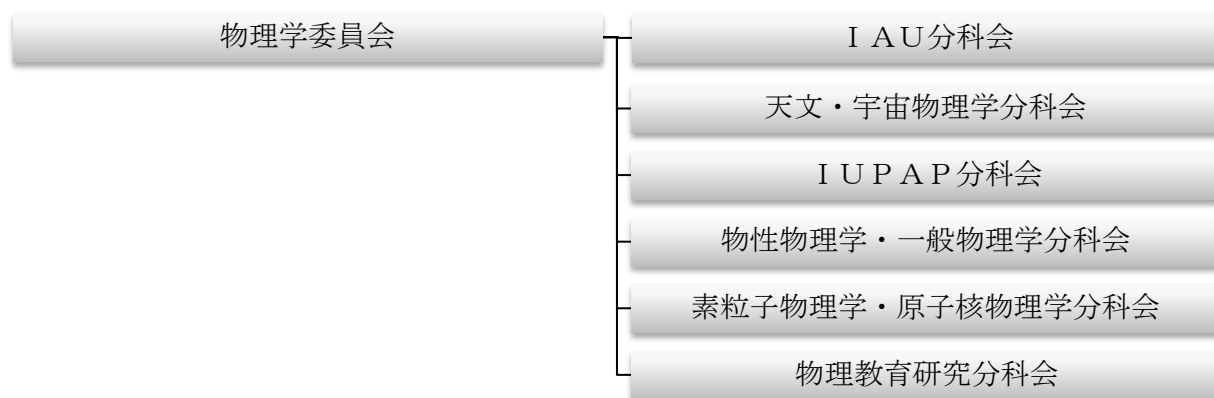
開催状況	第3回 令和4年1月14日 第4回 令和4年3月15日 第5回 令和4年9月26日
今後の課題等	上記計画「数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築」の具体化について、未来の学術振興構想に向けて引き続き検討する。

数理科学委員会（数理統計学分科会）					
委員長	竹村 彰通	副委員長	栗木 哲	幹事	青嶋 誠、渡辺 美智子
主な活動	審議内容				
	・昨年度開始された統計エキスパート人材育成事業との連携について検討した。 ・シンポジウムの内容および意思の表出について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和5年5月をめどに「報告」あるいは「見解」を作成する。				
	開催シンポジウム等				
	令和5年2月17日にシンポジウムを行う予定である。				
開催状況	令和4年3月7日に第2回の分科会（オンライン）を開催し、令和4年9月24日に第3回の分科会（オンライン）を開催した。				
今後の課題等	「報告」あるいは「見解」の根拠となるデータの収集が課題である。これについても統計エキスパート人材育成事業と連携する。				

数理科学委員会（数学教育分科会）					
委員長	真島 秀行	副委員長	清水 微憲	幹事	小山 正孝、渡辺 美智子
主な活動	審議内容				
	第24期でまとめた提言のフォローアップとして統計教育の研修・講習については、統計検定の利用について、高等学校関係団体、個人向けへの周知について審議し周知した。 <u>一般財団法人 統計質保証推進協会 統計・データサイエンス教育支援事業 (qajss.org)</u> 参照（令和4年3月終了）。令和4年4月から東京学芸大学からデータサイエンス教育用の研修プログラムが公開された。： https://www.u-gakugei.ac.jp/training/video/cat1142/ ・STEM/STEAM/STREAM教育、男女共同参画、リカレント教育、生涯教育など数学が関わる分野横断な議論も行いながら「数学教育の変革について」、今期中に見解を発出すべく審議中である。数学、統計、情報の（小）中高大のカリキュラムマップ検討WGを分科会に付置し審議中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	あり（「(仮題) 数学教育の変革について」の意思の表出を予定）				
	開催シンポジウム等				
	なし（第24期の提言について数学関係者、教育関係者等への周知を図るための活動をいくつか行なった。）				

開催状況	第5回 令和3年12月25日 第6回 令和4年3月26日
今後の課題等	・第24期の提言の周知、教員に対する統計教育の研修・講習については関係機関へ働きかけを引き続き行う。 ・（仮題）数学教育の変革についての見解発出に向けて、分科会および付置WGの審議を継続し成文化していく。 ・国際数学教育委員会（ICMI）に引き続き代表を派遣し国際対応を行う。

⑫物理学委員会



物理学委員会					
委員長	野尻 美保子	副委員長	腰原 伸也	幹事	山崎 典子、田村 裕和
主な活動	審議内容				
	1. 新たに提案された未来の学術振興構想について、分野内の意見の収集並びに関連分野の意見交換の促進 2. 長期的な視点に立ち、分野の将来を俯瞰し他分野との連携を促進するシンポジウムの企画 3. IYBSSD、カーボンニュートラル、研究力強化など分野を横断する取組への協力と意見収集 4. 関連学会との連携				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年5月13～23日 第7回メール審議 公開シンポジウム「物理学のアプローチが拓く世界とその展開」（11月20日）の開催の承認について 令和4年6月3日 第8回 会員選考方針、未来の学術振興構想、物理学委員会主催シンポジウムについての議論 令和4年7月5～14日 第9回 物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会主催公開シンポジウム「日本の物理学研究—過去・現在・未来」（10月1日オンライン）の開催の承認について 4月より、物理学委員会主催シンポジウム企画WG、未来の学術振興構想に対応するための分科会委員長の会合を複数回開催。 物理学委員会が呼びかけて、学会等が共催する意見交換会を複数回開催（9月24日素粒子原子核 10月29日物理学）				
今後の課題等	未来の学術振興構想に向けた関連分野の意見交流の促進。IYBSSD、IUPAP 100周年を踏まえたシンポジウムの開催を行う。				

物理学委員会（IAU 分科会）					
委員長	渡部 潤一	副委員長	生田 ちさと	幹事	深川 美里、浅井 歩
主な活動	審議内容				
	・ IAU 会員申請について資格確認の上、承認し、IAU への推薦を行った。 ・ IAU 地域会議 APRIM2023 開催に向け、日本学術会議の主催会議として申請した。				
	開催シンポジウム等				
	・ 令和4年3月5日 日本天文学会向け活動報告会開催 ・ 令和4年9月16日 日本天文学会向け活動報告会開催				
開催状況	第4回 令和3年10月29日（オンライン） 第5回 令和4年1月21日（オンライン） 第6回 令和4年6月20日（オンライン） 第7回 令和4年10月28日（予定）				
今後の課題等	・ IAU 会員の審査・推薦を引き続き行う。 ・ IAU が主催する各種の公募やキャンペーンへの参加を促すなど、関連学会への情報提供と意思疎通に尽力する。 ・ IAU に創設された新組織と連携し、商用宇宙空間利用の天文学への影響を検討予定（天文・宇宙物理学分科会でも扱う）。				

物理学委員会（天文学・宇宙物理学分科会）					
委員長	林 正彦	副委員長	山崎 典子	幹事	深川 美里、浅井 歩
主な活動	審議内容				
	・ 天文学・宇宙物理学分野の大型・中型将来計画の策定作業を行っている。 ・ 関連する大学共同利用機関や共同利用・共同研究拠点の活動状況を把握した。				
	開催シンポジウム等				
	・ 令和4年3月5日 日本天文学会向け活動報告会開催 ・ 令和4年9月16日 日本天文学会向け活動報告会開催				
開催状況	第4回 令和3年10月29日（オンライン） 第5回 令和4年1月21日（オンライン） 第6回 令和4年6月20日（オンライン） 第7回 令和4年10月28日（予定）				
今後の課題等	・ 天文学・宇宙物理学分野の長期計画の冊子を作成予定。 ・ 関連学会への情報提供と意思疎通を促進する。 ・ 大学共同利用機関とコミュニティとの関係の在り方を検討予定。 ・ 安全保障技術研究推進制度に関する継続審議。 ・ 商用宇宙空間利用の天文学への影響を検討予定（IAU 分科会でも扱う）。				

物理学委員会・総合工学委員会合同（IUPAP 分科会）					
委員長	藤澤 彰英	副委員長	笹井 理生	幹事	伊藤 公平
主な活動	審議内容				
	IUPAP の活動に対する日本全体としての各物理学分野間の対応の取りまとめと対応。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	IYBSSD シンポジウム（物理学委員会と協賛 令和4年11月20日） IUPAP 百周年に因むシンポジウム（物理学会と共催 令和4年10月1日）				
開催状況	第2、3回 IUPAP100 分科会開催（令和4年4月6日、6月17日 メール） 第2～4回 IUPAP100 周年ワーキンググループ開催（令和4年2月25日、4月14日、5月12日）				
今後の課題等	IUPAP 百周年に対する対応など。				

物理学委員会（物性物理学・一般物理学分科会）					
委員長	森 初果	副委員長	常行 真司	幹事	藤澤 彰英、板倉 明子
主な活動	審議内容				
	物性物理学・一般物理学分野からの視点で、「我が国の研究開発・科学技術」、「未来の学術振興構想」について、その発展に資する事項を包括的に検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・「我が国の研究開発・科学技術の現状と未来」 ・「プラズマサイエンスの学際的展開」（仮題）				
	開催シンポジウム等				
	日本物理学会シンポジウム（領域2、11 共催）『プラズマサイエンスの新展開』（令和4年3月19日）				
開催状況	令和4年1月4日 第2回物性物理学・一般物理学分科会 令和4年2月7日、4月26日、7月11日 第4～6回プラズマサイエンス小委員会				
今後の課題等	・「未来の学術振興構想」の提案に向けて、物性委員会等コミュニティー、日本学術会議関連委員会と連携してシンポジウムを令和4年10月8日に開催予定。 ・プラズマサイエンスの学術的な未来像および学際的な発展可能性を数理科学委員会および総合工学委員会と連携し、「見解」作成に向けて議論。				

物理学委員会（素粒子物理学・原子核物理学分科会）					
委員長	浅井 祥仁	副委員長	田村 裕和	幹事	市川 温子、永江 知文
主な活動	審議内容				

	大型施設を用いた素粒子や原子核研究分野の研究推進や国際的な共同研究を円滑に進め、国際学術交流、人材育成を通して、科学技術の発展に資する活動を行う。大型施設のカーボンニュートラル化の議論を進めている。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	学術フォーラム「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」（令和4年7月29日、日本学術会議）協力
開催状況	第2回 令和4年3月8日 拡大（コミュニティーと）令和4年9月24日 未来の学術構想のシンポジウム
今後の課題等	大型施設のカーボンニュートラル化の資料作成

物理学委員会（物理教育研究分科会）					
委員長	岡 眞	副委員長	笹尾 真実子	幹事	千葉 柁司、笠 潤平
主な活動	審議内容 物理学という学問分野の固有性に基礎をおきエビデンスを重視する研究分野としての物理教育研究とこれに基づく物理教育改革の推進に向けて以下に取り組む。 1) 物理教育における遠隔授業実践における現状分析と課題の検討 2) 物理教育におけるジェンダーギャップの現状分析と課題の検討 3) 第24期の同分科会から発出した提言「物理学における学問分野に基づく教育研究（DBER）の推進」（令和2年8月28日）に関する情報発信、他の学問分野における教育研究との連携などの検討 意思の表出（※見込み含む） 下記の公開シンポジウムを開催し、その成果をまとめて意思の表出として発信する。 開催シンポジウム等 上記審議内容の2）、3）をテーマとする公開シンポジウム「物理学におけるジェンダーギャップの現状と対策・物理教育の役割」を令和5年1月11日に開催予定。				
開催状況	第3回 令和3年10月21日（オンライン） 第4回 令和4年8月31日（オンライン） 第5回 令和5年1月11日（予定）				
今後の課題等	シンポジウム開催の準備				

⑬地球惑星科学委員会



地球惑星科学委員会					
委員長	田近 英一	副委員長	佐竹 健治	幹事	春山 成子、三枝 信子
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学分野における諸課題について審議するとともに、傘下の 10 分科会の活動を統括する。また、地球惑星科学コミュニティの代表組織である日本地球惑星科学連合（JpGU）及び関連学協会長会議、大学等の教育研究機関と全国地球惑星科学系専攻長・学科長会議、国立大学共同利用・共同研究拠点等と連携し、地球惑星科学分野の発展を支援する。 直近の 1 年間においては委員会を 3 回（第 25 期発足後、計 6 回）開催して地球惑星科学分野における諸課題についての議論を行ったほか、JpGU 大会におけるユニオンセッションを開催し、地球惑星科学分野における大型研究計画ヒアリングを地球・惑星圏分科会と協同して令和 4 年 5 月 23 日に実施して、各計画の改善に資するための評価・コメントなどの支援活動を行った。今後、未来の学術振興構へ向けた支援活動を行う予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・日本地球惑星科学連合 2022 年大会ユニオンセッション「地球惑星科学分野の大型研究計画」（令和 4 年 5 月 23 日、千葉市幕張メッセ国際会議） ・公開シンポジウム「私たちの地球はどんな惑星かー科学を混ぜて地球を探る」（令和 4 年 11 月 5 日、東京都江東区テレコムセンター）（開催予定）				
開催状況	第 4 回 令和 3 年 12 月 28 日 第 5 回 令和 4 年 5 月 23 日 第 6 回 令和 4 年 8 月 26～29 日（メール審議）				

今後の課題等	1. 地球惑星科学分野の現状と将来の発展に関する課題の審議 2. 地球惑星科学分野における大型研究計画立案の評価・支援活動 3. 地球惑星科学関連学協会長等会議、全国地球惑星科学関連専攻・学科長会議、JpGU ユニオンサイエンスボード会議、JpGU 大会及びシンポジウム等における科学者コミュニティとの対話及び情報共有等の活動
--------	---

地球惑星科学委員会（地球惑星科学企画分科会）					
委員長	田近 英一	副委員長	佐竹 健治	幹事	春山 成子、三枝 信子
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学委員会の運営及び活動を円滑に進めるための役割を担い、課題の抽出や企画の審議等の活動を行う。直近1年間では3回のオンライン会合を開催したほか、日常的にメールベースでの情報共有や議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第5回 令和3年10月20日 第6回 令和3年12月27日 第7回 令和4年4月20日				
今後の課題等	1. 地球惑星科学委員会の活動 2. 傘下の分科会や小委員会の活動 3. 対外発信 などに係る審議				

地球惑星科学委員会（地球・惑星圏分科会）					
委員長	中村 卓司	副委員長	堀 利栄	幹事	福田 洋一、原田 尚美
主な活動	審議内容				
	地球・惑星圏の諸課題とその解決策の議論、大型研究とロードマップ、学界と教育などに関して審議を行う。直近1年間では、JpGU 大会におけるユニオンセッションを開催し、地球惑星科学分野における大型研究計画ヒアリングを地球惑星科学委員会と協同して令和4年5月23日に実施し、各計画の改善に資するための評価・コメントなどの支援活動を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	小委員会で検討されている事項について表出を検討中。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第4回 令和3年12月28日、第5回 令和4年5月23日 地球観測衛星将来構想小委員会：第3回 令和3年10月11日、第4回 12月15日、第5回 令和4年3月30日、第6回 6月6日、第7回 9月13日				

今後の課題等	地球物理、地球化学、地質学、鉱物学、地理学などの多様なアプローチによって進展してきた地球惑星科学について、包括的理解のためにそれらの手法を統合し、新しい地球惑星科学のあり方を考える。また、学界及び教育のあり方等についても検討する。特に、学術データ共有、学術試料共有、地球観測衛星については小委員会を設置し幅広い専門家を含めて議論する。 未来の学術振興構想への提案に関しては、地球惑星科学委員会と協同して地球惑星科学に関連する計画の連絡調整を行う。
--------	---

地球惑星科学委員会（地球・人間圏分科会）					
委員長	春山 成子	副委員長	鈴木 康弘	幹事	張 勁、杉田 文
主な活動	審議内容 本分科会は地球環境問題解決に向け、地球科学的観点と人間活動の相互作用を領域複合で俯瞰的に検討し「持続可能な地球環境とは何か」を見据えグローバルな環境変動の科学的知見を集積させた。 社会的課題への応答を考えたシンポジウム・学術フォーラムを企画し、社会との対話を重視した。特に、完新世の時空間、地球規模・温暖化の地球各地への影響、災害の将来予測、防災への政策提言等を審議してきた。 社会水文学小委員会では自然の水循環と人間社会を一体として捉え、両者の相互作用を理論的研究と社会課題の両面で課題解決に向けた審議を付加した。 意思の表出（※見込み含む） ・「シンポジウム「水」と「水循環」の研究最前線ー21世紀の多分野協創研究にむけて」（令和3年9月開催）」での議論を「学術の動向」（令和4年1月）に掲載した。 ・「学術フォーラム 地球環境変動と人間活動ー地球規模の環境変化にどう対応したらよいかー」（令和3年12月開催）での議論を「学術の動向」（令和4年2月）に掲載した。 開催シンポジウム等 ・令和3年12月5日：日本学術会議学術フォーラム「地球環境変動と人間活動ー地球規模の環境変化にどう対応したらよいかー」（オンライン） ・令和4年9月23日：日本学術会議公開シンポジウム「沿岸環境の変化と人間活動ー10年後を見据えた課題と対応ー」（オンライン） ・令和5年8月：社会水文学小委員会の議論についてシンポジウムを開催予定。				
開催状況	第4回 令和3年11月22日 第5回 令和4年3月8日 第6回 令和4年9月13日				
今後の課題等	令和5年前半まで、社会水文学小委員会での議論を含めたシンポジウム開催に関わる議論を行い、第25期の見解への道筋を審議する。				

地球惑星科学委員会（地球惑星科学人材育成分科会）					
委員長	西 弘嗣	副委員長	大久保 泰邦	幹事	齋藤 文紀、掛川 武
主な活動	審議内容				
	分科会では、地球惑星科学関連の学校教育と生涯教育の実態を把握し、改善方策を審議する。また、高大接続、専門教育、早期キャリアに至る研究者を含む専門家の継続的な人材育成の実態を把握し、改善施策を審議することを目的とする。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	令和4年6月2日に2回高等教育検討小委員会と同時に令和4年度全国地球惑星科学系学科長・専攻長会議を開催し、全国教育機関における問題点を議論した。				
開催状況	第2回 令和3年12月24日 高等教育検討小委員会：第2回 令和4年6月2日				
今後の課題等	2つの小委員会を設置したので、各委員会においてそれぞれの問題提起を行う。				

地球惑星科学委員会（地球惑星科学国際連携分科会）					
委員長	三枝 信子	副委員長	中村 卓司	幹事	齋藤 文紀、原田 尚美
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学委員会が関わる多岐に及ぶ国際連携活動の振興について総合的・包括的な議論・審議を行う。特に、日本学術会議の国際対応活動方針を踏まえて地球惑星科学分野からの貢献に資するための活動方針を議論する。6つの小委員会及び地球惑星科学委員会傘下の4つの国際対応分科会と連携する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第3回 令和4年12月までに開催予定。				
今後の課題等	地球惑星科学分野の国際活動の振興、国際対応の各分科会や直属小委員会との連絡・調整に関する諸事項の審議を行うとともに、国際学術活動に基づく知見の社会への普及（公開フォーラム等）に関連する諸事項の審議を行う。				

地球惑星科学委員会（IGU 分科会）					
委員長	鈴木 康弘	副委員長	小口 高	幹事	伊藤 香織、池口 明子
主な活動	審議内容				
	国際学術会議（ISC）の動向も見ながら、国際地理学連合（IGU）におけるSDGs、Future Earth、ESDに関する国際プログラムとの連携を強化した。また、IAG、ICA、国際地名に関する小委員会とも連携して以下の活動を行った。				
	1) COP26における地球温暖化対策に関するIGU声明に対応した。				

	2) IGU の表彰推薦制度へ対応した。 3) 国内の地理学関連学会との連携を深めた。 4) 国連の Decade of Indigenous Languages (2022～2032) に協力した。 5) IGU の島嶼に関する Thematic Conference を大阪に誘致し、開催準備を進めた。 6) 令和 4 年にパリで開催した Regional Conference に参画した。 7) IGU によるウクライナ問題に関する共同声明に参加した。 8) 持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD) 連絡会議、パンデミックと社会に関する連絡会議、カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議に参加した。 11) IGU のジオナイトを企画・実施した。 12) 第一部の地球研究委員会地域情報分科会と合同で、地名標準化の現状と課題に関する意思表出すること、並びに公開シンポジウムを開催することを決定した。 13) Geounions から IYBSSD2022 に対応して開催される Distinguished Lectures に日本から講演者を推薦した。
	意思の表出 (※見込み含む)
	地名標準化の現状と課題に関して、第一部の地球研究委員会地域情報分科会と合同で発出する予定。
	開催シンポジウム等
	IGU の Thematic Conference “Islands in Relations: Conflicts, Sustainability, and Peace” を令和 5 年 4 月に大阪公立大学において、IGU 日本委員会として開催する。 https://polgeog.jp/igu-tc2023/
開催状況	第 4 回 令和 4 年 3 月 22 日 第 5 回 令和 4 年 8 月 31 日～9 月 2 日 (メール審議) 第 6 回 令和 4 年 10 月 24 日 (予定)
今後の課題等	1) IGU の日本国内委員会として令和 5 年 4 月に開催する島嶼をテーマとした Thematic Conference の準備を進める。 2) 気候変動や持続可能性、民族多様性等の問題に対する意見表明を IGU、ISC とともに連携して進める。 3) 地名標準化の現状と課題に関する意思表出を進める。

地球惑星科学委員会 (IUGG 分科会)					
委員長	東 久美子	副委員長	中田 節也	幹事	久家 慶子、古屋 正人
主な活動	審議内容 国際協力を通して測地学・地球物理学の発展を促進するための活動を行っている。IUGG (The International Union of Geodesy and Geophysics) の国際対応窓口である IUGG 分科会、及び IUGG 傘下の 8 国際アソシエーションの窓口である 8 小委員会を開催し、国際対応に関する審議を行っている。その一環として、以下の活動を実施した。				

	・令和3年6月に開催された JpGU（日本地球惑星連合）2021 年大会のユニオンセッションで当分科会の委員が招待講演を行った。 ・上記 JpGU 大会の Geoethics に関する米国地球物理学連合との合同セッションにて当分科会の委員が招待講演を行った。 ・IUGG の活動に関する報告を執筆し、「学術の動向」に投稿した。 ・令和5年に開催される IUGG 総会での表彰に向けて、IUGG 分科会から Early Career Scientist Awards への候補者推薦を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	令和3年9月18日、IAHS 小委員会が共催し（日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会主催）、日本学術会議公開シンポジウム「「水」と「水循環」の研究最前線－21 世紀の多分野協創研究に向けて」を開催した。
開催状況	なし
今後の課題等	8 小委員会が連携して地球物理学（IUGG）分野における日本のプレゼンスを示すための活動を行う。活動の一環として、執行役員への推薦や各種の賞への推薦を積極的に行う。また、次世代を担う若手人材の育成にも力を入れる。

地球惑星科学委員会（IUGS 分科会）					
委員長	西 弘嗣	副委員長	大久保 泰邦	幹事	齋藤 文紀、掛川 武
主な活動	審議内容				
	本分科会では、国際地質科学連合（IUGS）の国内委員会として、同連合と連携し、地質科学の課題に継続的に対処するため、地球に関する研究を奨励し促進すること、国際的並びに学際的な共同研究が必要とされる研究を援助すること、地質科学に関する社会の理解を得ること、そして、人類社会が持つ諸問題の地質科学的な側面を明らかにすることを目的とした審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	令和4年5月21日にチバニアンのゴールドデンスパイクの式典に参加 令和4年5月24日に公開シンポジウム「チバニアン、学術的意義とその社会的重要性」を開催 令和4年6月3日に公開シンポジウム「活動的縁辺地域における洋上風力開発に向けて」を開催				
開催状況	第4回 令和3年10月21日 第5回 令和3年12月28日 第6回 令和4年3月10日 第7回 令和4年7月20日				
今後の課題等	第37回 IGC に関する諸問題を検証中				

地球惑星科学的委員会（SCOR 分科会）					
委員長	原田 尚美	副委員長	張 勁、日比谷 紀之	幹事	沖野 郷子、川口 慎介
主な活動	審議内容 Scientific Committee on Oceanic Research（SCOR）海洋研究科学委員会の活動推進に貢献するために、以下の活動を行なった。 ・2022 年 SCOR 国際ワーキンググループ（WG）の申請書の審査を行い、日本代表の審査結果を SCOR に提出。SCOR2022 年次総会（令和 4 年 10 月 4～6 日@釜山、韓国）に参加し、2022 年 SCOR 国際 WG の最終決定を実施。張勁副委員長は SCOR 副議長を担当。SCOR 執行部としての活動（毎年開催する SCOR 総会準備・運営、国際科学会議への出席、ワーキンググループへの支援、人材育成を目的とした各種イベント運営など）に参画。 ・令和 4 年 9 月現在までに 5 回の分科会を開催。SCOR2021 年総会の報告、東京大学大気海洋研究所学術研究船共同利用運営委員会の委員推薦等を実施。 ・傘下の小委員会であるインド洋の学際的な国際調査研究を対象とした「IIOE-2」、沿岸域における学際研究を対象とした「SEMSEAS」、全球海洋の化学物質分布を明らかにする国際プロジェクト「GEOTRACES」の活動を支援。 ・IIOE-2 小委員会では、国際 IOIE-2 に関する情報共有と、今後の活動方針と予定について議論。令和 4 年 3 月に IOIE-2 の当初 5 年間のまとめとして開催された国際会合 IIOSC2020 にオンライン参加。 ・GEOTRACES 小委員会では、国際 GEOTRACES 関連事項の報告、国内関連航海の実施状況及び今後の予定の情報共有を実施。 ・SIMSEA 小委員会では、オンライン会議にて重層型リージョナルネットワーク形成戦略等について検討。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 令和 4 年 9 月公開シンポジウム「沿岸環境の変化と人間活動ー10 年後を見据えた課題と対応ー」を主催				
開催状況	第 4 回 令和 4 年 1 月 6 日開催 第 5 回 令和 4 年 8 月 22 日開催				
今後の課題等	なし				

地球惑星科学委員会（地球惑星科学社会貢献分科会）					
委員長	佐竹 健治	副委員長	中村 尚	幹事	益田 晴恵、山岡 耕春
主な活動	審議内容				

	1. 放射性物質拡散問題 2. 国家存亡にかかわるほどの超巨大災害 3. 危機における学術からの情報発信の仕組み 4. その他、地球惑星科学と社会の関係 に係る審議を行う。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	審議内容 2 に関して、土木工学・建築工学委員会 IRDR 分科会が令和 4 年 7 月 7 日に開催した学術フォーラム「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」に本分科会から山岡委員がパネリストとして参加し、提言へ向けての議論を行った。
開催状況	第 3 回 令和 3 年 12 月 25 日
今後の課題等	審議内容 1 については、本分科会から意思の表出を予定。 審議内容 2 については、土木工学・建築工学委員会 IRDR 分科会と連携して、提言（令和 4 年 12 月予定）へ向けて準備する。

⑭情報学委員会



情報学委員会					
委員長	相澤 清晴	副委員長	谷口 倫一郎	幹事	下條 真司、大場 みち子
主な活動	審議内容				
	情報学に関する国際的な施策、最新の技術トレンド、社会情勢をテーマにしたシンポジウムの開催や、情報学委員会からの8分科会の設立、課題別委員会、他分野委員会と共同した分科会の設立などを進めてきた。 情報学委員会としては、令和4年1月12日に開いた情報学シンポジウムの内容の検討を行い、カーボンニュートラルをテーマとしてプログラムを検討した。また、同シンポジウムにて、日本、米国、中国の情報学分野の国の科学技術施策についての講演のプログラムを検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	情報学委員会の環境知能分科会から「見解」の提出があり、その査読プロセスを、第3部とともに進めている。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年1月12日に第15回情報学シンポジウムを開催し、350名の参加があった。				
開催状況	第6回 令和3年10月6日 第7回 令和4年1月12日				
今後の課題等	・第16回情報学シンポジウムについて ・令和4年第三部夏季部会について				

情報学委員会（ビッグデータ・センシング社会基盤分科会）					
委員長	東野 輝夫	副委員長	下條 真司、 木俣 豊	幹事	佐藤 一郎、 中野 美由紀

主な活動	審議内容
	本分科会では、ビッグデータの収集、処理基盤、活用の多岐に及ぶ話題に関して、学際的な研究分野で連携し、課題の抽出・分析及びこの分野のあり方に関する意見交換を行い、政策や技術開発、さらには倫理、社会的側面や人材育成等に関する提言を行うことを目指し、そのためのシンポジウムの開催などを行う。
	意思の表出（※見込み含む）
	「個人情報・プライバシーの学術利用の扱いに関するシンポジウム」で議論される諸課題に対して、情報系、法学系、社会学系など様々な分野の専門家の意見をもとに、分科会で議論した内容をベースに意思の表出を目指す。
	開催シンポジウム等
	令和4年9月までにシンポジウム「個人情報・プライバシーの学術利用の扱いに関するシンポジウム」の開催を予定している。
開催状況	第2回 令和4年8月後半（開催予定）
今後の課題等	次のシンポジウムでの検討課題やそのとりまとめについて検討していく。

情報学委員会（情報学委員会国際サイエンスデータ分科会）					
委員長	村山 泰啓	副委員長	井上 純哉	幹事	芦野 俊宏、近藤 康久
主な活動	審議内容				
	国際学術会議（ISC）傘下の組織 CODATA、WDS の国際活動および日本からの国際委員会役員就任等への対応を行うとともに、オープンサイエンスに伴う学術のあり方が再検討される潮流の中で、上記を含めて国内外の幅広いサイエンスデータのあり方・実践等に関する議論、意見の表出等を目指した活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	本分科会が国内対応を行う ISC 下組織 CODATA、WDS 等国際動向に配慮しつつ我が国の学術データのあり方や社会影響、科学政策等について議論するとともに、意思の表出を検討中。				
	開催シンポジウム等				
	意思の表出に先立って公開シンポジウム等を検討中。また、WDS 小委員会が関わり国内シンポジウム等を実施した。				
開催状況	第2回：令和3年10月4日 CODATA 小委員会 第2回メール審議、第3回令和4年2月4日 WDS 小委員会 第2回令和4年3月30日 WDS 国内シンポジウム開催 令和4年3月30日				
今後の課題等	1. 国際的視点でのサイエンスデータ活動のあり方の意思の表出について 2. CODATA、WDS 等の新役員会（日本人3名が役員選出）・新国際体制への国内委員会としての活動対応 3. その他、ISC やデータ関連機関の課題・議論の国内外共有と我が国の課題等に係る議論、審議を行う。				

情報学委員会（情報学教育分科会）					
委員長	徳山 豪	副委員長	上田 和紀	幹事	亀井 静香
主な活動	審議内容				
	・「情報教育の設計指針」のアップデートに関する審議と意見交換 ・大学入試共通テストにおける情報科目の導入への対応 ・関連学協会との協力による情報教育の体制構築と、社会への説明				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「情報教育の設計指針」のフォローアップ及びアップデート、特に AI・データサイエンス教育の設計指針。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第5回 令和4年2月17日（オンライン開催）				
今後の課題等	入試における情報科目の導入に対応する情報教育の体制構築に関して、情報処理学会等と協力して協議し、実践する。また、AI・データサイエンス教育の設計指針の策定について、数学教育分科会、統計分科会及び関連学協会と協力して検討を行う。				

情報学委員会（環境知能分科会）					
委員長	土井 美和子	副委員長	萩田 紀博	幹事	橋本 隆子、灘本 明代
主な活動	審議内容				
	情報の生成・探索・表現・蓄積・管理目的とした従来の情報学だけでなく、生存を脅かす自然・社会環境の変化やネット社会問題などに対して心理的・精神的不安を解消し、新しい生活様式・経済活動に適応するための新たな情報（生存情報）学が必要であるとの考えに基づき見解を作成。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解を作成し令和4年2月に提出（査読中）				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第7回 令和4年1月12日（オンライン開催） 他にオンラインで幹事会を開催				
今後の課題等	「学術の動向」令和4年5月号特集「未来社会を生き延びるための生存情報学」発刊予定。査読中である見解内容は JST ムーンショット目標9や目標1追加公募などに反映。				

情報学委員会（デジタル社会を支える安全安心技術分科会）					
委員長	宮地 充子	副委員長	高田 広章	幹事	岩村 誠、松浦 幹太
主な活動	審議内容				

	・デジタル社会の各種システムの課題を共有し、それらを解決する技術を明確にする。 ・絶対なる安全はないという前提において、恩恵と脅威のトレードオフを明確にし、デジタル社会システムの浸透を支える。
	意思の表出（※見込み含む）
	新たなデジタル社会システムの浸透の恩恵とリスクのトレードオフを明確にした見解の提出予定。
	開催シンポジウム等
	日本学術会議情報学委員会デジタル社会を支える安全安心技術分科会主催公開シンポジウム「安全安心技術が支えるデジタル社会」を令和4年3月14日に開催。須藤修（連携会員）、野原佐和子（株式会社イプシ・マーケティング研究所）、馬奈木俊介（会員）、安岡実佳（Roskilde University、北欧研究所）の講演と、これらの講演者に、楠正憲（デジタル庁）、後藤厚宏（情報セキュリティ大学大学院）、松浦幹太（連携会員）を加えたパネルディスカッションを実施した。
開催状況	第5回 令和3年12月14日 松元照仁（地方公共団体情報システム機構（J-LIS）・理事）、小山 覚（エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 情報セキュリティ部・部長）より話題提供及び議論 第6回 令和4年3月14日 野原 佐和子、馬奈木 俊介、安岡 実佳、楠 正憲、後藤 厚宏より話題提供及び議論
今後の課題等	これまでの審議結果の社会還元の検討を実施する。

情報学委員会（ソフトウェア学分科会）					
委員長	松本 健一	副委員長	大堀 淳	幹事	山本 里枝子、位野木 万里
主な活動	審議内容				
	産官学を統合した幅広い工学的な視点及び学際的・分野融合的な学術の創成の視点からソフトウェアに関する諸課題の審議を行い、世界をリードし得るソフトウェア学の研究と実践の方向を提言する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「未来の学術振興に向けた重要な学術研究の骨太な取りまとめ」への応募に向け、ソフトウェア学のあるべき姿や実現すべき取組を、専門知識を背景として議論を重ねる。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 令和4年1月12日（今年度の活動方針を確認するとともに、第25期における活動状況・作成資料の委員間での共有について合意を得た。）				
今後の課題等	世界をリードし得るソフトウェア学の研究と実践の方向を提言する活動を推進する。				

情報学委員会（ITの生む諸課題検討分科会）					
委員長	喜連川 優	副委員長	東野 輝夫	幹事	大場 みち子、中尾 彰宏
主な活動	審議内容				
	JST ムーンショット型研究開発事業「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」でのアバター関係の未来と発生すると想定される諸課題を題材に分科会内で議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	JST ムーンショット型研究開発事業でのアバター関係の未来において発生すると想定される諸課題に加えて、障害者・健常者にとってのメリットなど分科会で議論した内容を元にシンポジウムで表出する。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年7月26日にシンポジウム「コロナ新時代の『誰もが夢を追求できる社会の実現』を目指して」の開催を予定している。				
開催状況	第3回 令和3年10月12日 第4回 令和4年4月中旬				
今後の課題等	ウクライナ問題など、次のシンポジウムについて検討していく。				

情報学委員会・心理学・教育学委員会合同（教育データ利活用分科会）					
委員長	美濃 導彦	副委員長	楠見 孝	幹事	谷口 倫一郎、柴山 悦哉、緒方 広明
主な活動	審議内容				
	第24期に発出した「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言」のフォローアップとコロナ後の社会での実装、展開を目的とした活動を進める。また、教育に関するデータを利用した教育に関して幅広く議論するとともに、シンポジウム等を開催して多方面からの意見を聴取し、啓発活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第24期に提出した提言を踏まえて、第25期においても提言あるいは見解として意見を表出したいと考えている。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年10月17日に「教育データの利活用の動向と社会への展開」というテーマでオンラインで公開シンポジウムを開催した。				
開催状況	公開シンポジウム 令和3年10月17日 第4回 令和3年11月10日 第5回 令和4年3月11日				
今後の課題等	現場での教育データ利活用の実践方法に関する審議を行う。第24期幹事会の先生方からいただいた意見を踏まえ、データを収集する方法に関する問題点、収集したデータの管理の問題点、教育データを共有するときの個人情報の匿名化の問題点などに関する慎重な検討を行い、共有されたデータの利用方法（教育実践、研				

	究、政策) などに関して議論を深めてゆく。また、ウイズ・ポストコロナ時代における、教育データの利活用による教育のデジタルトランスフォーメーションのあり方について、国内外の動向を調査し、シンポジウム等を開催して、議論・検討を進める。
--	---

②⑤化学委員会



化学委員会					
委員長	茶谷 直人	副委員長	北川 尚美	幹事	岡本 裕巳、関根 千津
主な活動	審議内容				
	化学委員会、日本化学会戦略企画委員会、分子科学研究所合同主催のシンポジウムをオンラインで令和4年6月7日に開催した（下記）。WEB会議の利便性を反映して、110名を超える参加者があった。				
	化学企画分科会とともに「科学技術立国を支える化学系博士人材の育成支援小委員会」を立ち上げ、化学系博士人材について議論を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	表出の予定あり				
	開催シンポジウム等				
開催状況	公開 WEB シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『日本の人材育成を考える』（令和4年6月7日、オンライン会議）」				
今後の課題等	第6回令和4年4月12日、第7回令和4年6月7日、第8回令和4年8月27日、第9回令和4年10月8日（予定）				
	博士課程卒業生の企業での活躍や重要性を広め、博士進学率の向上をめざした活				

	動を引き続き行う。カーボンニュートラル・炭素循環について、日本化学会と連携して化学の立場から取り組む。
--	---

化学委員会（化学企画分科会）					
委員長	茶谷 直人	副委員長	北川 尚美	幹事	岡本 裕巳、関根 千津
主な活動	審議内容				
	上記化学委員会の活動と連携して、化学委員会合同分科会（令和3年12月24日）及び公開シンポジウム（令和4年6月7日）など具体的な企画を行った。さらに、「科学技術立国を支える化学系博士人材の育成支援小委員会」を立ち上げ、第1回小委員会を令和4年4月30日、第2回を5月14日、第3回を6月11日、第4回を7月9日、第5回を8月27日に開催した。第6回を10月8日に開催する予定である。さらに、11月5日に公開シンポジウム（ハイブリッド）を開催する予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	表出の予定あり				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『日本の人材育成を考える』（令和4年6月7日、ハイブリッド）を開催した。 令和4年11月5日に公開シンポジウム（ハイブリッド）を開催する予定。				
開催状況	第4回令和4年6月7日、第5回令和4年8月27日、第6回令和4年10月8日（予定）				
今後の課題等	化学委員会合同分科会及び公開シンポジウムの企画を行う。				

化学委員会（IUPAC 分科会）					
委員長	所 裕子	副委員長	竹内 孝江	幹事	岸村 顕広、所 千晴
主な活動	審議内容				
	・令和3年8月に行われた IUPAC special council meeting 及び IUPAC General Assembly（本部分科会の委員5名が参加）における審議内容等を、分科会委員メンバーに報告し、今度の活動方針を議論した（令和3年12月24日）。 ・令和3年に行われた IUPAC 委員の選挙結果を報告し、今後の活動について意見交換を行った（令和3年12月24日）。Division や Commision の委員として、日本からは12名の委員が選出された。 ・令和4年6月と7月に行われた IUPAC special council meeting（オンライン）に5名の委員が参加し、IUPAC の今後の活動や組織改革等についての議論に参加し、日本の意見を主張した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和3年12月24日
今後の課題等	今期は、Special Council Meeting などの国際的会合に本分科会委員が出席し、意見交換を行うとともに、日本の考えを表明した。今後、IUPAC の活動において日本がより一層存在感を高めていくために、引き続き努力を続ける。

化学委員会（IUCr 分科会）					
委員長	高田 昌樹	副委員長	井上 豪	幹事	菅原 洋子、森吉 千佳子
主な活動	審議内容				
	・令和5年8月にメルボルンにおいて開催される国際結晶学連合会議および総会（IUCr2023）に向けて、理事候補1名、22 科学分科会の委員候補 22 名の推薦、Ewald 賞候補者の推薦等を行った。 ・「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）連絡会議」へ参加し活動を進めるとともに、公開シンポジウム「SDGs と結晶学」を11月27日に日本結晶学会との共催で開催することを決定した。 ・「カーボンニュートラルに関する連絡会議」及び「パンデミックと社会に関する連絡会議」へ参加し活動を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「SDGs と結晶学」（化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会、日本結晶学会主催）令和4年11月27日開催予定。				
開催状況	第5回 令和3年12月24日、第6回 令和4年5月28日				
今後の課題等	・令和5年メルボルンで開催される IUCr2023 総会にむけて、我が国の結晶学の国際的な貢献を推進し、認知度を高めていく活動を展開する。 ・IUCr が参画している「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」に協賛したシンポジウムの企画・開催を行い、我が国の結晶学の役割を発信していく。				

化学委員会（物理化学・生物物理化学分科会）					
委員長	岡本 裕巳	副委員長	村越 敬	幹事	石谷 治、山内 美穂
主な活動	審議内容				
	○アト秒レーザー科学研究施設の設立に向けた取組（ALFA 計画）について、その運用方針、波及効果等の可能性について議論した。				
	○地方にある大学の活性化の必要性・方策について議論し、提言あるいは見解をまとめる方向で第3部提言情報交換会に提案した。				
	○急速に拡大する“カーボンニュートラル”へ向けた動勢に対応して学術会議に設置された「カーボンニュートラルに関する連絡会議」に、本分科会も参加した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	地方にある大学の活性化の必要性・方策について議論し、提言あるいは見解をまとめる方向で活動を継続。
	開催シンポジウム等
	「アト秒レーザー科学研究施設 (ALFA) 計画の現状と展望」を令和 4 年 3 月 8 日にオンラインで実施。
開催状況	令和 3 年 12 月 24 日、令和 4 年 3 月 8 日
今後の課題等	○ALFA 計画について、本分科会でも実現に向けて積極的に支援したい。 ○カーボンニュートラルについては、本分科会が寄与する余地が少なからずあり、連絡会議でそれらを共有したい。 ○共同利用研究拠点の役割、分野間の連携・融合に関する議論等を進める。

化学委員会（無機化学分科会）					
委員長	長谷川 美貴	副委員長	伊東 忍	幹事	西原 寛
主な活動	審議内容				
	・国際ガラス年を記念し公開の記念シンポジウムを行い、歴史や技術と合わせ、ガラスに対する新たな課題の発見に努める（令和 4 年 9 月 30 日に開催決定（ハイブリッド））。 ・カーボンニュートラルに対する産業界と学術界における現状と課題を理解する。3 名の講師を招き、オンラインで勉強会を開催した。 ・持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 への分科会としての積極的な参画。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	国際ガラス年における理解と協力を表出した。				
	開催シンポジウム等				
	「国際ガラス年 2022 記念シンポジウム」と題し令和 4 年 9 月 30 日に日本学術会議講堂及びオンライン会議システムを併用したシンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	現段階で申込者数が 300 名程度あり、多くの方の関心が高いことが伺われる。また開催に先駆け産業界と学術界及び多様性を加味したプログラム構成とした。				
今後の課題等	無機化学の視点で、引き続き国内外の課題の発見につとめ、適宜表出するするとともに、専門家による勉強会を継続的に開催する。				

化学委員会（有機化学分科会）					
委員長	茶谷 直人	副委員長	寺田 眞浩	幹事	磯部 寛之、中島 裕美子
主な活動	審議内容				
	有機合成化学分野強化に向けた「AI 合成ロボティクス」の推進及び「博士人材育成」に取り組む。さらに、「カーボンニュートラル」に関して有機化学の立場から取り組む。博士人材だけでなく、世代を超えた人材活用についての議論を行った。				

	意思の表出（※見込み含む）
	未定（議論継続中）
	開催シンポジウム等
	未定（議論継続中）
開催状況	第3回 令和4年3月29日 第4回 令和4年12月22日 or 23日（予定）
今後の課題等	有機化学の視点で「カーボンニュートラル・炭素循環」を審議し、意思の表出につなげて有機化学分科会としての役割を果たしていく。

化学委員会（高分子化学分科会）					
委員長	吉江 尚子	副委員長	丸山 厚	幹事	山子 茂、岸村 顕広
主な活動	審議内容				
	高分子化学のあるべき姿、進むべき方向について多角的に議論し、ここから抽出されたカーボンニュートラルに関する課題をテーマに、シンポジウムを開催することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「マイクロプラスチック・廃プラスチック問題」「データサイエンス」については、意思の表出のためには、引き続き議論を深める必要がある。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「カーボンニュートラル化と資源循環に向けた高分子化学のチャレンジ」を11月18日に開催することとし、準備を進めている。				
開催状況	第3回 令和3年12月24日（オンライン会議） 第4回 令和4年7月29日～8月4日（メール審議） 第5回 令和4年9月13日（オンライン会議）				
今後の課題等	本年度の議論で、高分子化学は生活に密着した材料を扱う分野として、基礎科学的な学術深化と併せて、サーキュラーエコノミー、クオリティ・オブ・ライフへの貢献を追求すべきという認識を改めて共有した。これを受けて、関係学協会とも連携して、10年後及び20年～30年後を見据えた実現可能性を十分に吟味し、中長期研究戦略提案へとつなげていく予定である。海洋プラスチック問題が顕在化の中で、高分子材料に対する市民の理解を深める活動も推進していく。				

化学委員会（材料化学分科会）					
委員長	関根 千津	副委員長	玉田 薫	幹事	竹岡 裕子、内藤 俊雄
主な活動	審議内容				
	第25期の活動として、地方大学の活性化と博士進学問題を取り上げることとした。博士進学問題については化学委員会に提案し、化学委員会・化学企画分科会の下に博士小委員会を設置し、材料化学分科会から5名が委員として参加することとした。情報を適宜分科会にて共有し、意見等を吸い上げる形で活動継続中。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	未定（議論継続中）
	開催シンポジウム等
	国際ガラス年 2022 記念シンポジウム（令和4年9月30日）を無機化学分科会と共催（予定）。
開催状況	第3回 令和3年12月24日 25期の活動テーマ：「地方大学の活性化」及び「博士課程進学者減少への対応と研究者育成の立て直し」に関する議論 第4回 令和4年3月2日 博士問題を化学委員会に提案することを決定。 第5回 令和4年6月29日～7月1日 「国際ガラス年 2022 記念シンポジウム」の無機化学分科会との共同開催に関するメール審議 第6回 令和4年8月1日 博士小委員会の活動情報共有と意見交換 第7回 令和4年12月後半（予定）
今後の課題等	25期の博士問題に関する活動を一旦完了し、引き続き化学分野の広範な領域から大学と民間企業の委員が参集している材料化学分科会の特徴を生かし、材料化学の視点で取り組むべき重要事項を審議し、意見の表出につなげて材料化学分科会としての役割を果たしていく。

化学委員会（分析化学分科会）					
委員長	谷口 功	副委員長	加藤 昌子	幹事	佐藤 縁、竹内 孝江
主な活動	審議内容				
	第25期・令和4年度の取組については、分科会として新たな学術フォーラムなどの準備に向けた議論と意見集約を行っている。その中で、令和3年度は、カーボンニュートラル関連の話題などを議論・精査し、フォーラム（「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析化学技術」）を開催（令和3年11月11日）したことを踏まえて、これまでの学術会議及び関連学会などの最近の動向を委員間で共有するとともに、その動向を踏まえて、来年に向けたフォーラム開催の準備を進めている。特に、若い学生諸君を対象とした科学技術や学術会議の役割を理解いただくための企画の重要性についても議論している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現時点では特段の計画はない。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年度に開催したシンポジウム等はない。一方で、「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」（令和2年11月11日開催）及び「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析化学技術」（令和3年11月11日開催）に続く学術会議フォーラムの来年度での実施に向けて準備を進めている。また、若い学生諸君を対象としたシンポジウム企画についての審議を重ねている。				

開催状況	第 25 期においては、これまでに計 10 回の委員会を開催。 令和 4 年については、 第 9 回委員会（令和 4 年 3 月 29 日：オンライン会議）：分析化学分科会としての課題の整理や深化、広報のあり方、今後の活動について審議。 第 10 回委員会（令和 4 年 8 月 17 日：オンライン会議）：これまでの学術会議関連及び関連学会のなどの諸活動や動向（特に、分析化学の学術的な観点からカーボンニュートラル関係及び感染症関係の連絡会など）及び各委員個別の関連活動を委員間で共有し、来年に向けた学術会議フォーラム開催のための審議。また、今後の人材育成に向けて、若い学生諸君を対象とした企画の重要性についても意見交換。 次回は、令和 4 年 12 月に開催予定。
今後の課題等	第 25 期として、今後（来年を予定）のフォーラムやシンポジウムの開催について、分科会として意見の集約とともに計画内容の具体化を行う。 今後も分析化学や分析科学技術を含む学術の果たすべき役割や使命について情報発信するとともに社会貢献の視点から広く社会との情報共有を進める。特に、今後の人材育成にも関連して、若い学生諸君を対象として、科学技術や学術会議の重要性についての理解を深めてもらうための企画について具体的な取組内容の審議を進める。

化学委員会・物理学委員会合同（結晶学分科会）					
委員長	菅原 洋子	副委員長	西野 吉則	幹事	阿久津 典子、上村 みどり
主な活動	審議内容				
	・「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）連絡会議」へ参加し、WG の活動に参画するとともに、公開シンポジウム「SDGs と結晶学」を 11 月 27 日に化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会、日本結晶学会主催で開催する準備を進めた。 ・「カーボンニュートラルに関する連絡会議」及び「パンデミックと社会に関する連絡会議」へ参加し活動を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「SDGs と結晶学」（化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会、日本結晶学会主催）令和 4 年 11 月 27 日開催予定。				
開催状況	第 5 回 令和 3 年 12 月 24 日、第 6 回 令和 4 年 5 月 28 日				
今後の課題等	・基礎科学である結晶学の役割とその広がりを社会へ発信することを目的として、公開シンポジウム「SDGs と結晶学」（化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会、日本結晶学会主催）（令和 4 年 11 月 27 日開催予定）を実行するとともに、IYBSSD2022 の期間内にあたる来年上半期に公開 Web シンポジウムを開催する企画を進める。				

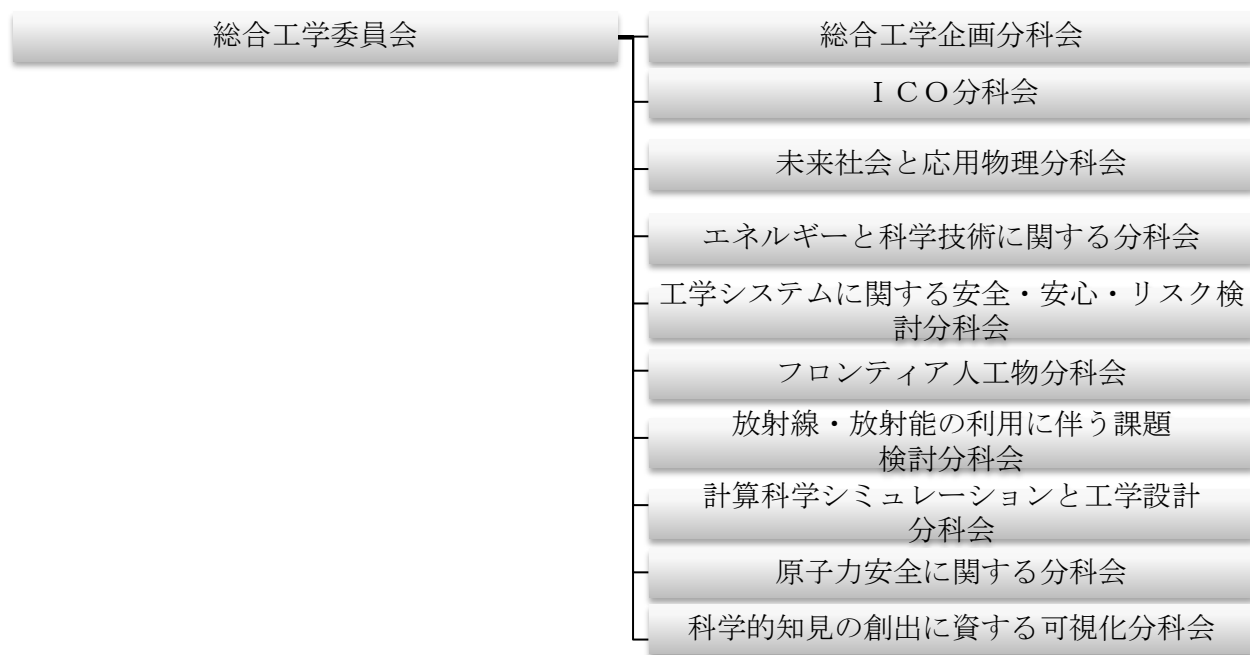
	・「未来の学術振興構想」への対応を含め、関連分野との情報共有を進め、日本の結晶学の課題を議論するとともに、成果の社会への発信を行っていく。
--	---

化学委員会（生体関連化学分科会）					
委員長	菅 裕明	副委員長	渡辺 芳人	幹事	大河内 美奈
主な活動	審議内容				
	生体関連化学は、化学及び生物工学をベースとした研究者を中心に、化学分野の境界領域の開拓と発展、並びに日本学術会議の他部会との連携をはかることを審議した。また、日本化学会の関連部会、他学会の関連部会との連携を深める方法を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記の主要活動を踏まえ、疾患、健康、薬、さらにはバイオエネルギーなどをテーマとして第2部の分科会や産業界とも連携した活動を精力的に進める。今期は、シンポジウム等を共同開催して連携関係を築くとともに、俯瞰的な視点で提言ができるように進めていく。その他、基礎科学からイノベーションを起こすことを目指し、委員間で連携して研究を活発化させる場とする。				
	開催シンポジウム等				
	今期に、コロナ感染症に資する医薬品探索、開発に精通する研究者をお招きし、スポット講演会を4回程度開催することを計画する。				
開催状況	第2回 令和3年12月24日				
今後の課題等	バイオエネルギー分野を新たに加え、カーボンニュートラル社会への貢献を当分科会でどのようなアプローチで進めるか、模索する必要があると考えている。				

化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同（触媒化学・化学工学分科会）					
委員長	所 千晴	副委員長	北川 尚美	幹事	後藤 雅宏、関根 泰
主な活動	審議内容				
	化学技術と、化学技術を展開するための触媒、操作、プロセス及びシステム等に関連する基盤工学分野において、カーボンニュートラルやSDGsを中心とした21世紀のわが国社会に求められる産業の果たすべき役割について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	カーボンニュートラルに関する連絡会議にも参加し、カーボンニュートラルやSDGs達成に求められる化学技術等の果たす役割について提言の発出を目指す。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」を令和3年11月6日に開催、「みんなで考えるカーボンニュートラルと化学」を令和4年7月30日にそれぞれ開催した。				
開催状況	第3回 令和3年11月6日、第4回 12月24日、第5回 令和4年3月22日、第6回 7月30日				

今後の課題等	カーボンニュートラルやSDGs 達成のための化学技術等の果たす役割について議論を深めるためには、市民との対話や他分科会とのより一層の連携が求められる。
--------	---

②⑥総合工学委員会



総合工学委員会					
委員長	小山田 耕二	副委員長	玉田 薫	幹事	筑本 知子、伊藤 宏幸
主な活動	審議内容				
	総合工学委員会では、細分化された工学分野を複眼的・学際的に統合する役割を担う総合工学の位置づけや統合化への取組等を審議し、活動に反映させる。具体的には、本委員会及び関連する分科会、小委員会、シンポジウム等に関する事項を審議・決定するとともに、委員会が関わる諸活動を推進する。また、学協会等科学者コミュニティとの連携活動のあり方の検討を行う。この活動において、24 期からの申し送り事項の具体的な実現について検討を行っている。なお、委員全員が出席する総合工学委員会の全体会議は、最低年度毎 1 回は開催する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	24 期からの申し送り事項の具体的な実現について審議した後、その結果を意思の表出としてまとめることを検討している。具体的には、委員会として、核融合発電に関する意思の表出と未来の学術振興構想について、エネルギーと科学技術分科会に協力している。				
	開催シンポジウム等				
	・上記の具体的な審議結果がある程度まとまった段階で、令和 2 年度に公開シンポジウムを開催することを検討している。 ・近畿地区会議と合同で講演会「総合知を育む教育」に関する講演会（令和 4 年 9 月 19 日開催）を企画・実施した。				
開催状況	第 5 回（メール審議 令和 4 年 5 月 30 日～6 月 1 日）、第 6 回（9 月 27 日）				

今後の課題等	24 期からの申し送り事項の具体的実現について審議、総合工学らしい学術の大型研究計画の提案、学術会議がこれまでに公表した提言を俯瞰するための可視化に関する作業を継続している
--------	--

総合工学委員会（総合工学企画分科会）					
委員長	小山田 耕二	副委員長	玉田 薫	幹事	筑本 知子、伊藤 宏幸
主な活動	審議内容				
	総合工学委員会の運営及び活動を円滑かつ積極的に進めるために、総合工学企画分科会を設置し、議論を行う。これまで2回分科会を開催し、まずは1「総合工学」の研究分野としての体系の検討と2「総合工学」分野の参照基準作成の検討に焦点を絞って検討を行うこととなった。1に関しては、カーボンニュートラルをキーワードとしてシンポジウム等の開催を通じて国内外の状況を把握し、体系化の検討を行う方針である。2については、「総合工学」提言の咀嚼と深化に加え、ダイバーシティ・インクルージョンの視点も加えた検討を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	24 期からの申し送り事項の具体的な実現について審議した後、その結果を意思の表出としてまとめることを検討している。具体的には、総合工学に関する参照基準の検討を行うために小委員会を設置した。				
	開催シンポジウム等				
	上記の具体的な審議結果がある程度まとまった段階で、令和3年度に公開シンポジウムを開催することを検討している。				
開催状況	なし				
今後の課題等	分科会、小委員会、シンポジウム等に関する審議を行う。24 期からの引継ぎ事項である「総合工学」の教育・研究分野としての体系についての検討を行う。教育に関しては、「総合工学」分野の参照基準策定に取り組むこととし、新たに小委員会を設置して具体的な作業を進める。一方、研究の体系化については、連絡会議を通じてカーボンニュートラルに関する横断的な情報・意見交換や連携を進めつつ、シンポジウム（またはフォーラム）案を具体化し実行する。				

総合工学委員会（ICO 分科会）					
委員長	荒川 泰彦	副委員長	五神 真	幹事	松尾 由賀利、馬場 俊彦
主な活動	審議内容				
	国際対応委員会のひとつとして、ICO（International Commission for Optics）への対応等を審議するとともに、我が国の光・量子科学技術の発展に資する活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	令和4年5月10日に『令和4年国際光デー記念シンポジウム～中堅・若手研究者が語る光科学技術の未来～』をハイブリッド形式で日本学術会議講堂において開催した（参加者約400名）。
開催状況	第4回 令和4年5月10日、第5回 令和4年12月（予定）
今後の課題等	IC0 への対応等の審議、国際光デー活動のさらなる推進、光科学技術に関する研究者の交流の促進と国民の啓発などが挙げられる。

総合工学委員会（未来社会と応用物理分科会）					
委員長	筑本 知子	副委員長	高木 信一	幹事	藤原 聡、板垣 奈穂
主な活動	審議内容				
	昨期の提言のフォローアップやさらなる発展への取組、独法化以降の大学の在り方の見直しや改革をさらに明確に提言していく取組、産業と学術をつなぐ人材育成やダイバーシティへの取組、博士人材に活躍の場を与えるような企業を巻き込んだ活動、応用物理分野として先取りできる新しい問題を提起していく取組等についての意見交換が行われた。第3回目以降これらの活動の具体化についての議論の深化を予定している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記の各課題についての検討状況についての報告を行う予定。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第2回 令和3年12月17日 第3回 令和4年10月13日予定				
今後の課題等	これまで検討してきた課題に加え、未来社会の課題である、カーボンニュートラルに向けたグリーンイノベーションやコロナ禍を教訓にパンデミックに対する応用物理分野の役割等について検討を進め、公開シンポジウム等を通じて学協会や社会との対話を図る。				

総合工学委員会（エネルギーと科学技術に関する分科会）					
委員長	疇地 宏	副委員長	山地 憲治	幹事	岩城 智香子、齋藤 公児
主な活動	審議内容				
	エネルギーと科学技術に関する検討課題のうち、個別技術として「ハイパワーレーザー技術と高エネルギー密度科学」、「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討」及び「熱エネルギー利用の社会実装基盤」の三つの小委員会を設置し、審議を行っている。また、カーボンニュートラル実現に必要なエネルギーシナリオについて、公開シンポジウムを開催して議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期の活動の結果のうち、見解「パワーレーザーを用いた高エネルギー密度科学における学術創成と産業イノベーションにつながる新技術創出」（仮題）をまとめる予定である。				

	開催シンポジウム等 令和3年11月4日に、公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」を開催した。 令和4年2月3日に、公開シンポジウム「将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」を開催した。 令和4年4月1日に、公開シンポジウム「2050年カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシナリオ」を開催した。 令和4年6月3日に、公開シンポジウム「活動的縁辺域における洋上風力開発に向けて」を開催した。
開催状況	第3回 令和3年10月4～6日（メール審議） 第4回 令和4年1月14日 第5回 令和4年8月18日
今後の課題等	上記の個別技術の課題について審議を行う。

総合工学委員会・機械工学委員会合同（工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）					
委員長	須田 義大	副委員長	野口 和彦	幹事	辻 佳子、水野 毅
主な活動	審議内容 安全には工学としての技術だけではなく、人文科学、社会科学が深く係わりあっていることを念頭に、「安全の理念」をとりまとめる活動を行い以下の審議を行う。 ①安全・安心・リスクの体系化、②安心感等に関する検討、③老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価・管理、④安全におけるリスクアプローチ適用、⑤アクセルとブレーキのバランス良くカーボンニュートラル推進する方法論および体制のあり方。 意思の表出（※見込み含む） 今期末に、「カーボンニュートラル施策の影響検討フレームの構築」、「工学システムに対して「安心」を感じる社会の在り方」、「工学システムのリスクアセスメントのイノベーションへの課題と対応」、「老朽および遺棄化学兵器の廃棄関連情報のアーカイブ化」として意思の表出を予定。 開催シンポジウム等 令和4年5月7日 学術フォーラム「リスク認知と教育」開催 令和4年6月29日～7月1日 「安全工学シンポジウム2022」開催				
開催状況	第5回 令和3年12月12日、第6回 令和4年3月22日、第7回 令和4年5月18～24日※メール、第8回 令和4年7月6日。 各小委員会は別途委員会を開催。				
今後の課題等	リスク評価のフレームワークや具体的手法について検討を行い、その有効性と課題を明らかにして、工学システムの社会安全目標の社会実装につなげること、また、工学・心理学・社会学など分野融合で「安心」と「安心感」の関係の明確化をすることを通じて社会に貢献する。				

総合工学委員会・機械工学委員会合同（フロンティア人工物分科会）					
委員長	鈴木 真二	副委員長	大和 裕幸	幹事	伊藤 恵理、宮崎 恵子
主な活動	審議内容				
	海と空・宇宙の利用技術開発と科学的解明を行うシステムであるフロンティア人工物に関して、民間及び研究機関からの委員を含む企画小委員会との合同会合にて基幹となる技術と喫緊の課題の議論を行い、社会との対話活動も促進している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期は、提言ではない方法を強化し、令和4年10月から、フロンティア人工物の各システム等（管制、航空機、CN等）で複数のサイエンスカフェを実施予定。				
	開催シンポジウム等				
	前年次に開催した公開シンポジウム「海空宇宙の COVID-19 対応と今後のパンデミック対応に向けて」の成果を「学術の動向」令和4年3月号小特集として掲載。 http://jssf86.org/doukou312.html				
開催状況	第4回令和3年11月1日、第5回令和4年1月（メール審議）、第6回3月30日、第7回8月24日開催（メール審議以外は企画小委員会と合同会議）				
今後の課題等	社会との直接対話となるサイエンスカフェは次の年次にも継続していく予定。研究力強化についても審議を深める予定。				

総合工学委員会・臨床医学委員会合同（放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）					
委員長	柴田 徳思	副委員長	中野 隆史	幹事	神谷 研二、竹田 敏一
主な活動	審議内容				
	放射性医薬品用 RI の国産化をはじめ、核医学分野の医療現場が抱える課題の解決に向けた議論を行うとともに、放射性医薬品開発やセラノスティクスに必要な研究並びに異なる分野で開発された新技術や知見を取り入れた学術とイノベーションの創生につながる研究開発を行う国内拠点のあり方について審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「核医学診療の推進について」と見解「放射性薬剤の研究開発・製造拠点の整備」の申出書を提出。科学的助言等対応委員会からの指摘事項を踏まえて両見解を策定している。				
	開催シンポジウム等				
	2つの見解の公表後にフォーラムなどを開催することを検討している。				
開催状況	分科会：令和4年3月14日（第2回会合）6月28～30日（第3回、メール審議）／小委員会：令和4年6月13日（第3回会合）				
今後の課題等	関係する施策の分析や海外動向調査、ステークホルダーとの意見交換をベースに見解の策定を進める。				

総合工学委員会・機械工学委員会合同（計算科学シミュレーションと工学設計分科会）					
委員長	越塚 誠一	副委員長	金田 千穂子	幹事	高木 周、松尾 亜紀子

主な活動	審議内容
	・本分科会は、第3回会合を令和3年12月6日にオンラインにて開催し、分科会や各小委員会の活動報告を行った。第4回会合をメール審議（3月30日～4月1日）として実施し、見解案「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」を承認した。第5回会合をメール審議（9月12～14日）として実施し、「第12回計算力学シンポジウム」の開催を承認した。 ・「計算力学小委員会」は、第2回会合を、分科会と合同で令和3年12月6日に開催した。第3回会合を令和4年6月10日に開催し、公開シンポジウムの計画について議論し、「第12回計算力学シンポジウム」を12月5日に開催することを決定した。 ・「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」は、第3回会合を令和4年3月8日に開催し、見解案「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」として分科会に提出した。第4回会合を6月22日に開催し、見解案に対する科学的助言等対応委員会の助言への対応について審議した。総合工学委員会における査読プロセスに入り、対応中。 ・「計算音響学小委員会」は、第2、3回会合を令和3年12月1日及び令和4年3月4日に開催した。
	意思の表出（※見込み含む）
	見解案「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」を承認した。
	開催シンポジウム等
	「第11回計算力学シンポジウム」を令和3年12月6日に日本学術会議講堂を使ったハイブリッド方式（対面＋オンライン）として開催した。令和4年12月5日に「第12回計算力学シンポジウム」を開催する。
開催状況	本期間に、分科会会合は3回開催された。小委員会会合は、「計算力学小委員会」は2回、「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」は2回、「計算音響学小委員会」は2回開催された。
今後の課題等	公開シンポジウムを継続的に開催するとともに、見解の発出の手続きを進める。「未来の学術振興構想」の提案を検討する。

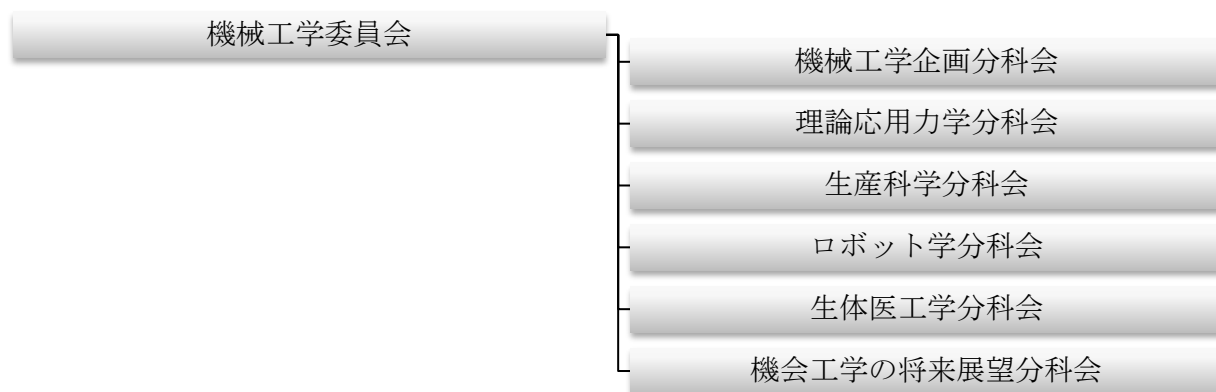
総合工学委員会（原子力安全に関する分科会）					
委員長	関村 直人	副委員長	越塚 誠一	幹事	野口 和彦、森口 祐一
主な活動	審議内容				
	福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえて、原子力安全に関わる科学技術とその基盤の整備、社会からの要請、法規制の在り方等に関して、統合的に審議を行う。特に、原子力安全の基盤となる新知見の取込みやイノベーションに関する検討を行うとともに、「原発事故による環境汚染調査に関する検討」及び「社会のための継続的イノベーション検討」及び「研究用原子炉の在り方検討」の3つの小委員会を設置して、各々の課題について審議を進めている。				

	意思の表出（※見込み含む）
	原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会では、第24期報告「東京電力福島第一原子力発電所事故による環境汚染の調査研究の進展と課題」英文版発刊のための準備を進めている。また、社会のための継続的イノベーション検討小委員会では、社会と相互作用する科学技術と多様なステークホルダの役割を検討しており、社会のための継続的イノベーションに関する対外的な意思の表出の準備を進めている。研究用原子炉の在り方検討小委員会では、試験研究炉に関するロードマップの策定と課題の抽出を進めており、見解としての公表を前提に検討を進めている。
	開催シンポジウム等 福島第一原子力発電所事故から10年を迎えたことを受けて、令和4年1月17日に原子力に関する多様な課題を議論する「原子力総合シンポジウム」を各学協会との連携によってオンラインで開催した。これを受けて、「学術の動向」令和4年4月号に特集「福島第一原子力発電所事故から10年の今、考えること」を企画し、出版の最終段階に至っている。 また、令和5年1月には、小委員会での検討成果を踏まえ、広いステークホルダーとの議論を行う「原子力総合シンポジウム」を開催する予定である。
開催状況	分科会の開催状況 第4回 令和4年2月18日 第5回 令和4年9月20日 小委員会の開催状況 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会 第2回 令和3年10月26日 第3回 令和3年12月15日 第4回 令和4年1月25日 第5回 令和4年6月30日 第6回 令和4年9月5日 社会のための継続的イノベーション検討小委員会 第3回 令和3年12月17日 第4回 令和4年2月7日 第5回 令和4年4月6日 第6回 令和4年6月3日 第7回 令和4年7月27日 研究用原子炉の在り方検討小委員会 第2回 令和4年1月26日 第3回 令和4年3月31日 第4回 令和4年8月2日 第5回 令和4年10月12日（予定）
今後の課題等	原子力安全の基盤となる新知見の取込みについては、科学技術イノベーションに係る社会からの要請と規制行政のみならず、国際的な協力、国際機関との協調と

	貢献等が重要であり、より俯瞰的な検討を進めなければならない。エネルギー安全保障とカーボンニュートラルに対する原子力次世代システムの貢献には、福島第一原子力発電所事故を踏まえた継続的な原子力安全性の向上とこれらのための多様な人材確保が必須であり、シンポジウム等を通じて広くステークホルダーによる多面的な検討を行い、対外的な意思の表出のための議論を深めていく。
--	---

総合工学委員会（科学的知見の創出に資する可視化分科会）					
委員長	萩原 一郎	副委員長	小山田 耕二	幹事	田中 覚、藤代 一成
主な活動	審議内容				
	「カーボンニュートラルに関する連絡会議」に分科会として参加し、目標に対する日本学術会議各委員会、各分科会の活動、日本学術会議として加えるべき活動、日本国内の関連活動、日本国として加えるべき新たな活動、世界の関連活動、日本学術会議の果たしている役割の大きさを示す可視化など、それぞれの可視化と本分科会ならではの活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	① 可視化の新パラダイム策定小委員会、②ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会、③社会に資する可視化の小委員会、④細胞－身体可塑基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に資する可視化小委員会と4つの小委員会を設け①と③、②と④合同で、意思の表出の計画を立てている。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	以下のシンポジウムを『日本学術会議公開シンポジウム』として実施（③、④は予定）。				
	①令和3年11月30日：科学的知見の創出に資する可視化（6）：総合知～幸福論からみた心身・細胞力、その心理の可視化～ ②令和3年12月13日：科学的知見の創出に資する可視化（7）：人間を識り活かす総合知をもたらす「視考」				
今後の課題等	分科会として「未来の学術振興構想の策定」など。				

⑦機械工学委員会



機械工学委員会					
委員長	大島 まり	副委員長	金子 真	幹事	光石 衛、高田 保之
主な活動	審議内容				
	「機械」に関わる工学を対象とした研究分野であり、およそすべての理工学分野の研究成果を「かたち」として具体化するときには不可欠となる重要な基盤的学術分野である機械工学について、そのあり方や今後の動向について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし（機械工学委員会の分科会との共同開催）				
	開催シンポジウム等				
	なし（機械工学委員会の分科会との共同開催）				
開催状況	第4回 令和4年5月31日				
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 機械系学協会との連携、および所属分科会の活動などを通じて社会を支える機械工学に対する理解を深め、その活動を産業や社会生活に反映させるための検討				

機械工学委員会（機械工学企画分科会）					
委員長	大島 まり	副委員長	金子 真	幹事	光石 衛、高田 保之
主な活動	審議内容				
	機械工学委員会の運営及び活動を円滑に進めるために、機械工学の学術分野を俯瞰しつつ、機械工学委員会と関連する分科会、シンポジウムなどの企画行事などに関する事項を審議、決定する。また、機械工学委員会・関連する分科会と情報・意見交換を行い、委員会が関わる諸活動を推進する。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし（機械工学委員会の分科会との共同開催）
	開催シンポジウム等
	なし（機械工学委員会の分科会との共同開催）
開催状況	第2回 令和4年3月15日 第3回 令和5年3月中旬から下旬 開催予定
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 提言作成などの意思の表出に向けた検討および後援

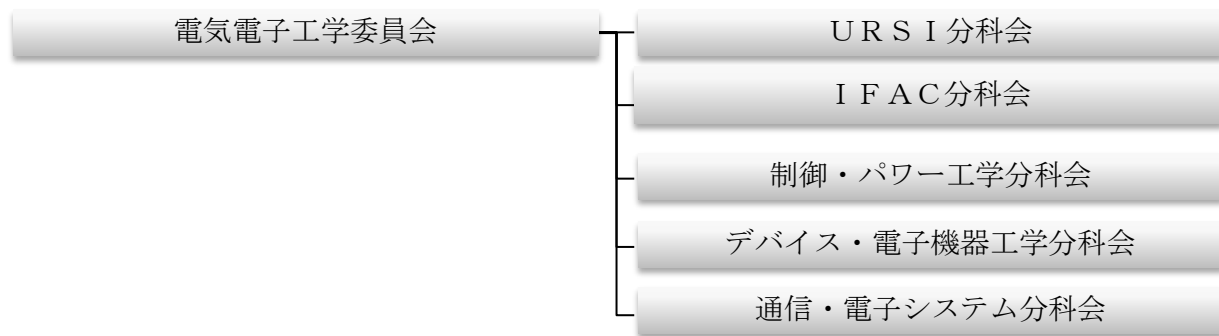
機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同（理論応用力学分科会）					
委員長	高田 保之	副委員長	前川 宏一	幹事	松尾 亜紀子、高木 周
主な活動	審議内容				
	以下の審議を行う。 1. 理論応用力学分野の学術研究の進展、課題及び将来動向 2. 国際組織 IUTAM の正規メンバーとしての総会、理事会、IUTAM シンポジウムなど諸行事への参画方針 3. 関連学協会と協力した理論応用力学講演会、シンポジウムの主催				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	第7回理論応用力学シンポジウム（令和4年3月11日に開催） 第66回理論応用力学講演会（令和4年6月24～26日に開催）				
開催状況	・分科会 第2回（メール審議）令和3年10月15日、第3回（メール審議）12月22日、第4回令和4年3月11日 ・学協会連携小委員会 第2回令和3年11月25日、第3回令和4年6月25日 ・理論応用力学企画小委員会 第2回令和4年3月11日、第3回令和4年6月25日 ・IUTAM・国際連携小委員会 第1回令和3年11月13日、第2回令和4年1月6日、第3回令和4年3月11日				
今後の課題等	・IUTAMにおけるダイバーシティの推進について日本としての対応を検討 ・学協会を束ねる日本工学会との連携を強化 ・未来の学術振興構想への対応 ・第8回理論応用力学シンポジウムの企画（令和5年3月10日開催予定）				

機械工学委員会（ロボット学分科会）					
委員長	金子 真	副委員長	光石 衛	幹事	山西 陽子
主な活動	審議内容				

	以下の審議を行ってきた。 1. ロボットのELSI(Ethical倫理的、Legal法的、Social Issues社会的問題)に特化し、10年～20年後に起こり得る重要課題。具体的にはAI医療ロボット、ドローン、自律走行ロボット等で起こり得る課題を取り上げて審議。 2. 高度融合領域まで踏み込みロボット新技術の整理及び将来展望について審議。
	意思の表出（※見込み含む）
	ロボットの ELSI に関連した将来の重要課題を整理し、当分科会として将来展望をまとめることを視野に入れている。
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和4年2月3日（話題提供2件） 令和4年6月30日（話題提供2件）
今後の課題等	ロボットの ELSI に関しては引き続き AI 医療ロボット、ドローン、自律走行ロボット等で起こり得る具体的課題について議論する。ロボット新技術については、最前線研究について話題提供いただき、新技術の将来展望について議論する。

機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同（生体医工学分科会）					
委員長	但野 茂	副委員長	塙 隆夫	幹事	松本 健郎、石川 拓司
主な活動	審議内容				
	医学と工学との連携による生体医工学の特性を踏まえ、教育・研究体制や研究開発から実用化に向けての諸課題を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中を予定				
	開催シンポジウム等				
	令和4年7月23日 公開シンポジウム「医工学シンポジウム2022」、オンライン開催、参加者（事前登録者）219名				
開催状況	第3回 令和3年12月22日（オンライン） 第4回 令和4年4月21日（オンライン）				
今後の課題等	1. 生体医工学の教育・研究体制の現状と課題 2. 研究開発から実用化に至る過程での課題と方策 3. 国内外関連学協会等の動向、情報交換、連携推進の方策				

②⑧電気電子工学委員会



電気電子工学委員会（URSI 分科会）					
委員長	八木谷 聡	副委員長	小林 一哉	幹事	芳原 容英
主な活動	審議内容				
	・ Women in Radio Science (WIRS) Chapter in Japan について。 ・ 「令和 4 年 URSI 大西洋／アジア・太平洋電波科学会議」(URSI AT-AP-RASC 2022) の開催について。 ・ URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウムの開催について。 ・ 「令和 4 年 URSI 日本電波科学会議」(URSI-JRSM 2022) の開催について。 ・ 令和 5 年に札幌で開催予定の「第 35 回 URSI 総会」(URSI GASS 2023) の準備について。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和 4 年 11 月 12 日に「URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウムー日本の電波科学研究の発展並びに URSI 日本の歩みー」を開催予定。				
開催状況	令和 4 年 5 月 17 日				
今後の課題等	・ URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウムの開催及び関連事業の実施。 ・ 「第 35 回 URSI 総会」(URSI GASS 2023) の準備・運営。				

電気電子工学委員会・総合工学委員会合同（IFAC 分科会）					
委員長	樫木 哲夫	副委員長	藤崎 泰正	幹事	水野 毅
主な活動	審議内容				
	・ 分科会活動計画、代表派遣会議の推薦、特任連携会員の付与等について審議。 ・ IFAC World Congress 2023 の開催に向けての一般社団法人自動制御協議会との連携について。 ・ 自動制御の多分野応用小委員会の設置（委員長：藤崎泰正委員、副委員長：井村順一委員、幹事：岩崎誠委員）を承認し活動を展開。 ・ 第 64 回自動制御連合講演会を令和 3 年 11 月に京都大学で開催（リモート開催）。				

	・第2回 IFAC 分科会を令和4年1月24日にリモートで開催、5月30日に第3回自動制御の多分野応用小委員会をリモート開催。 ・第65回自動制御連合講演会を令和4年11月12～13日に宇都宮大学陽東キャンパスで開催予定。期間中第4回自動制御の多分野応用小委員会を開催予定。
	意思の表出（※見込み含む）
	IFAC World Congress 2023 での大会コンセプト『わ：「環」を以て「輪」を為し「和」を創る』に係る意思表出を予定していたが、第25期の終期までには手続きが間に合わないことが判明したので、今期中の表明は見送りを決定。
	開催シンポジウム等
	IFAC World Congress 2023 のプレイベントとして、『IFAC2023「わ」のコンセプトの展開』を、パシフィコ横浜を会場で令和4年11月11日に開催予定（主催：IFAC2023 実行委員会・自動制御協議会）。150～200名が参加予定。
開催状況	・第25期第2回自動制御の多分野応用小委員会を開催。令和3年11月13日 ・第2回 IFAC 分科会をリモートで開催。令和4年1月24日 ・第3回自動制御の多分野応用小委員会をリモート開催。令和4年5月30日 ・第3回自動制御の多分野応用小委員会を開催予定。令和4年11月12日 ・第3回 IFAC 分科会を開催予定。令和4年12月～令和5年1月
今後の課題等	・第65回自動制御連合講演会を令和4年11月12～13日に宇都宮大学陽東キャンパスで開催予定。

電気電子工学委員会（制御パワー工学分科会）					
委員長	中川 聡子	副委員長	岩崎 誠	幹事	千住 智信、熊田 亜紀子
主な活動	審議内容 当分科会は『電気を作る・送る・活かす』に関わる課題を幅広く扱っており、第1～6回の会合で議論されたテーマは次の通り：①電力の安定供給とEVの活用、②EVの研究開発動向、③新しい仮想電力網、④5G/B5Gの動向、⑤未来の車とエネルギー、⑥再生可能エネルギーと電力系統、⑦電力系統のレジリエンスと医療機関、⑧電力変換装置の高効率化、⑨沖縄でのC.N.の取組、⑩太陽光発電と電力系統制御、⑪医用系位置決め制御、⑫直流送電関連技術、⑬ゼロエミッション航空機ほか、⑭メカトロ技術の高機能制御、⑮学術会議における意見表出作業。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和5年3月15日、電気学会・自動車技術会と連携し、名古屋大学にて、C.N.や電気エネルギーに焦点を絞った一般公開シンポジウムを開催。現在は、電気学会及び自動車技術会の手続きを終え、学術会議事務局と調整中。				
開催状況	分科会開催は、第4回（令和4年1月28日）、第5回（5月27日）、第6回（9月26日）まで開催済み。				
今後の課題等	来春3月15日には電気学会・自動車技術会との学協会連携シンポジウムを開催				

	し、電力に関する社会課題を多角的かつ公正な立場で、いかに科学的でわかりやすく社会に発信するかを検討中。シンポジウム第1部の4件の講演者、2部の6名のパネリストは、電気業界紙、電力事業者、機械学会や情報通信学会などを中心に活動する方々にも登壇頂き、広く社会との関わりを意識して企画。また、特に第1部では、学術会議における分科会活動を、一般の方にも広くご理解いただくための活動報告を行うことで調整中。
--	--

電気電子工学委員会（デバイス・電子機器工学分科会）					
委員長	大橋 弘美	副委員長	森 勇介	幹事	高木 信一、為近 恵美
主な活動	審議内容				
	我が国の電気電子、特にデバイス分野の今後のあり方について提言・報告などを提示し、学術の発展に貢献することを目指している。議論を深めるために設置したエレクトロニクス産業と学術小委員会では、（１）人材育成 （２）エコシステム （３）産学連携の３つの課題を取り上げ、各 WG で議論を進め、内容を共有した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	これまでのエレクトロニクス分野の学術・産業界の流れを振り返り、産業界・学術界、様々な観点からの考察を行い、今後の方向性に対して意見をまとめる予定。				
	開催シンポジウム等				
	来春のシンポジウムの開催を検討中。				
開催状況	第2回（令和4年3月30日）デバイス・電子機器工学分科会開催 エレクトロニクス産業と学術小委員会：第1回（令和3年11月22日）、第2回（令和4年3月9日）、第3回（4月14日）開催				
今後の課題等	本分科会は、現在の日本のデバイス・電子機器分野に対して、大きな危機感を持っていることを分科会・小委員会メンバーと共有し、議論できた。今後、シンポジウム開催を検討し、議論をまとめていく予定。				

㊹土木工学・建築学委員会



土木工学・建築学委員会					
委員長	小林 潔司	副委員長	田辺 新一	幹事	佐々木 葉、竹内 徹
主な活動	審議内容				
	土木工学・建築学の扱う範囲は広く、人々の生活、社会の活動を支えている。戦後作られた膨大な社会基盤は老朽化が進み、地震や豪雨が多発する中で、人々の命や暮らしや経済活動を守るために、土木工学・建築学はこれまでの前提条件を見直すだけでなく、科学・技術をさらに向上させる必要がある。このため、企画、IRDR、気候変動と国土、インフラ高度化、都市・地域デザインの多様なアプローチ、感染症拡大に学ぶ建築・地域都市のありかた、脱炭素社会、WFEO、理論応用力学等の分科会等を立ち上げて、多様な視点から検討を進めている。また、災害や総合工学における国際活動も活発に行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	土木工学・建築学委員会としては意思の表出を考えていない。委員会所属の分科会の意思の表出の調整にあたる。				
	開催シンポジウム等				
	土木工学・建築学委員会としてはシンポジウムの開催を考えていない。委員会所属の分科会が開催するシンポジウム等の企画調整を行う。				
開催状況	令和3年11月12日、令和4年3月17日、5月16日、8月8日				
今後の課題等	地球温暖化、災害激甚化、老朽化、感染症、脱炭素、DX等、社会・経済の急激な変化を見据えて、分野横断的、中長期的な観点から土木工学・建築学分野における				

	政策や研究・教育の基本方針を議論し分科会等による積極的な意思の表出を目指す。
--	--

土木工学・建築学委員会（企画分科会）					
委員長	小林 潔司	副委員長	田辺 新一	幹事	佐々木 葉
主な活動	審議内容				
	土木工学・建築学委員会の運営及び活動を円滑に進めるために、土木工学・建築学の学術分野を俯瞰しつつ、土木工学・建築学委員会及び関連する分科会、小委員会、シンポジウム等に関する事項を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	期間中開催なし				
今後の課題等	今後も土木工学・建築学委員会の活動に資するよう必要な対応を適宜行う。				

土木工学・建築学委員会（IRDR 分科会）					
委員長	林 春男	副委員長	寶 馨	幹事	田村 圭子、川崎 昭如
主な活動	審議内容				
	災害リスク総合研究（IRDR）の国内委員会（IRDR-Japan）として、国内外において現場の関係当事者や国際学術団体、国連・国際機関、国際援助機関等との連携を深め、IRDR第2期計画立案の議論の活性化及びその深化に貢献するとともに、IRDR ICoE Coherence活動を通してIRDR第2期の初期段階の活動を牽引する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「21 世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンスの確保のあり方」と題する提言の提案骨子を提出し、本文検討中。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年7月7日に学術フォーラム「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンスの確保のあり方」を開催した。これを踏まえて、令和5年9月に米国 National Academy of Sciences との連携を軸に持続会議「「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス の確保の在り方ー関東大震災 100 年を振り返って」を開催予定。				
開催状況	令和3年10月21日、令和4年3月3日、8月2日				
今後の課題等	学術フォーラム、提言、持続会議と一連の活動を通して国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス向上を基本テーマとして検討を進めている。幅広い分野・組織の協力が必要であり、その確保が課題である。				

土木工学・建築学委員会（気候変動と国土分科会）					
委員長	池田 駿介	副委員長	望月 常好	幹事	清水 義彦、持田 灯
主な活動	審議内容				
	温暖化により水・土砂災害が激甚化・頻発化する一方、人口減少、緩和策や適応策に伴う産業構造の変化、住まい方の変化なども想定される。これらを踏まえつつ、住宅、土地利用や国土のあり方を含め、社会全体で対応する防災・減災対策に今後必要となる知見や科学・技術について審議する。俯瞰的な視野の下で課題を抽出することが必要であり、流域治水、国土ビジョン、降雨流出・氾濫予測、防災まちづくり、IPCC WG2 AR6 から見えてくる適応策の国際動向、佐賀低平地を例にした現場レベルの取り組み実態、豪雨をもたらす大気の川の動向等について知見を有する者からヒアリングを実施し審議を行った。 また、見解の骨子案等について審議を行い、骨子案等を修正の上、手続きを進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解として、(仮)「気候変動に伴う水災害の頻発化・激甚化に対応した将来の市街地土地利用を実現するために～今、科学・技術に求められるもの～」を表出予定				
	開催シンポジウム等				
	水害対策と建築分野の取組に関するシンポジウムを開催する予定（令和5年3月頃）				
開催状況	令和3年10月15日、令和4年1月24日、3月29日、7月7日				
今後の課題等	流域治水に関する土木学会等の課題認識を再確認しながら今後の審議の焦点を明確化した上で、さらに広範な分野の知見を聴取し審議を進める予定。				

土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同（脱炭素社会分科会）					
委員長	田辺 新一	副委員長	伊香賀 俊治	幹事	大岡 龍三、萩島 理
主な活動	審議内容				
	脱炭素社会に関するわが国が置かれている背景、分科会設置の目的、今後の活動方針をふまえて、脱炭素社会に向けた各省庁の活動状況について情報共有した。また民生部門における持続的なエネルギーシステム、モデル予測制御、AIによる建物空調の予測制御等についての議論を行った。関連する国際シンポジウムへ委員長が出席するほか、Gサイエンス学術会議が5月31日に発出した脱炭素化：国際的な行動の緊急的必要性の共同声明に協力した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	脱炭素社会実現の方策について議論を行い、報告などとしてまとめる予定である。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年3月18日に日本建築学会と共催で、住宅・建築・都市分野のカーボンニュートラルに関するシンポジウムを開催した。				
開催状況	令和3年12月27日、令和4年5月19日、令和4年秋開催予定				

今後の課題等	学術会議全体のカーボンニュートラルの活動と連携する
--------	---------------------------

土木工学・建築学委員会（インフラ高度化分科会）					
委員長	小林 潔司	副委員長	竹脇 出	幹事	高橋 良和、小野 潔
主な活動	審議内容				
	ポストコロナ時代の到来を念頭に置き、1) インフラ性能の高度化のための技術戦略、2) アセットマネジメント技術の高度化戦略、3) インフラ性能の評価・モニタリングとアセスメント技術、4) インフラ DX の推進と制度基盤の視点からインフラ高度化への取組を審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解の作成を念頭において各 WG で検討を進める。分科会では WG の検討結果の報告を踏まえ見解のとりまとめを目指した議論を行う。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年8月10日公開シンポジウム「越境しあうインフラガバナンスー性能とサービスをつなぐ」を開催した。				
開催状況	令和3年11月9日、令和4年1月6日、3月8日、5月26日、8月10日				
今後の課題等	第24期から継続している分科会であり、前期からの継続課題である災害の激甚化インフラ老朽化の課題に DX 技術を踏まえて見解の発出を目指すこととする。				

土木工学・建築学委員会（都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会）					
委員長	古谷 誠章	副委員長	佐々木 葉	幹事	小野 悠、山本 佳世子
主な活動	審議内容				
	土木工学・建築学を中心としながらも幅広い分野におけるデザインの実践と課題について委員による話題提供を通して把握してきた。それを踏まえて、デザインの重要性にも関わらず社会的な理解が得られていないという問題意識を共有した。さらに参考人を交えてデザインのフロンティアの情報をえながら、現代社会におけるデザインの意義を検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし。ただし出版物など他の媒体での発信を行う予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和4年度中の公開シンポジウムを検討している。				
開催状況	令和3年11月18日、令和4年1月24日、3月3日、6月17日、8月9日				
今後の課題等	デザインの多様な概念および価値そして社会的な無理解や誤解についての状態を総覧できる体系にとりまとめるために、事例をふまえて具体的に議論していく。				

土木工学・建築学委員会・情報学委員会・総合工学委員会合同（WFE0 分科会）					
委員長	塚原 健一	副委員長	岸本 喜久雄	幹事	
主な活動	審議内容				
	WECC205 の開催を受け、引き続き工学分野における我が国の国際的貢献度を高めるため、学術会議の関連委員会や関連学協会と協力して、WFE0（世界工学団体連盟）活動並びに WFE0 が連携する各種の国際的／地域の活動、行事に積極的に関与、貢献する。令和4年3月4日に日本工学会主催で開催された第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムを後援し、塚原委員長始め分科会委員も多く参加した。令和4年3月にコスタリカで開催された WFE0 総会において、塚原委員長が4年任期の加盟国代表に選出された。Women In Engineering 分野の活動を強化するために橋本隆子連携会員を分科会委員に任命した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	日本学術会議後援にて、第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム（令和4年3月4日）を開催した。				
開催状況	令和4年1月5日				
今後の課題等	塚原委員長が加盟国代表理事として WFE0 の国際活動の活性化を図っていく。				

土木工学・建築学委員会（感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会）					
委員長	竹内 徹	副委員長	佐々木 葉	幹事	伊藤 香織、高橋 良和
主な活動	審議内容				
	6つの課題について設置したサブWGによりCOVID-19が我が国の働き方・学び方・住まい方に与えた影響を調査し、今後の建築・まちづくり・インフラのあるべき姿について審議を行っている。令和3年度は大西隆氏、矢守克也氏をはじめとする参考人に講演をいただき議論した他、令和2年に実施した世界23か国40名の調査アンケートを分析、今年度は国内向けにポストコロナの働き方についての意見調査を準備している。感染症蔓延下において顕在化した建築・都市施設の機能混在化現象に着目し、少子高齢化社会における建築・まちづくり・インフラの在り方について議論、「パンデミックと社会に関する連絡会」に参加し、学術会議全体としての横断的議論を試みている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「パンデミックと社会に関する連絡会議」を通じて見解の表出を検討している。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「(仮) 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方～機能主義的社会から機能混在社会へ～」を令和5年1月21日に開催予定。				
開催状況	令和3年10月16日、12月28日、令和4年3月15日、5月16日、8月31日				

今後の課題等	「パンデミックと社会に関する連絡会議」を通じた連携について検討する。各課題における検討成果の取りまとめを進める。
--------	--

⑩材料工学委員会



材料工学委員会					
委員長	山口 周	副委員長	乾 晴行	幹事	尾崎 由紀子、岸本 康夫
主な活動	審議内容				
	以下の項目について、材料工学分野の現状の把握と課題抽出について審議した。 ・材料工学分野の学部並びに大学院教育の改革、ならびに人材育成。 ・地方大学における材料工学分野の教育研究の実施状況。 ・材料工学並びに関連分野におけるジェンダーギャップ問題。 ・大型研究課題並びにカーボンニュートラルに向けた取組について。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	材料工学分野固有の課題だけでなく、理学工学系並びに学術領域全体の共通課題を抽出し、田の分野別委員会と連携して意思の表出に繋げる。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第6回（令和3年10月7日：メール審議）、第7回（令和3年12月27日：リモート開催）、第8回（令和4年4月22日：リモート開催）				
今後の課題等	審議内容のさらなる深化、関連学協会との連携によるジェンダーギャップの実態調査実施				

材料工学委員会（バイオマテリアル分科会）					
委員長	埴 隆夫	副委員長	石原 一彦	幹事	岸田 晶夫、中野 貴由
主な活動	審議内容				
	医歯薬工連携の分野融合型分科会として、主催シンポジウム、意思の表出、「学術の中長期研究戦略」への提案について審議。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「バイオマテリアル界面科学」を中心とした課題で「報告」表出を検討中。				
	開催シンポジウム等				

	生体医工学分科会と合同で、令和4年7月23日に公開シンポジウム「医工学シンポジウム2022」（我が国の医工学－現在と未来－）をオンライン開催。
開催状況	第4回分科会令和4年1月26日、第5回分科会3月9日、第6回分科会10月5日にオンライン開催。他に幹事会を毎月オンライン開催。
今後の課題等	「未来の学術振興構想」に分科会として提案準備中。

材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同（SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会）					
委員長	所 千晴	副委員長	森田 一樹	幹事	岡部 徹、笹木 圭子
主な活動	審議内容				
	SDGs やカーボンニュートラルと深く関連する資源・材料循環のあり方について、天然資源と人工資源の両面から学術的に議論する。また、そのための適切な仕組み作り、並びに人材育成の重要性について議論する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	カーボンニュートラルに関する連絡会議にも参加しながら、資源・材料循環のあり方について提言発出を目指す。				
	開催シンポジウム等				
	令和3年11月26日に公開シンポジウム「なぜSDGs?－資源・材料循環におけるSDGs－」を開催。令和4年11月18日に同様のタイトルの後続審議公開シンポジウムを開催準備中。				
開催状況	第3回 令和3年11月18日、第4回令和4年7月メール審議、第5回 令和4年11月18日（予定）				
今後の課題等	SDGs やカーボンニュートラルと資源・材料循環との両立について、他分科会とも横断的に連携しながら、さらに発展させた議論が必要。				

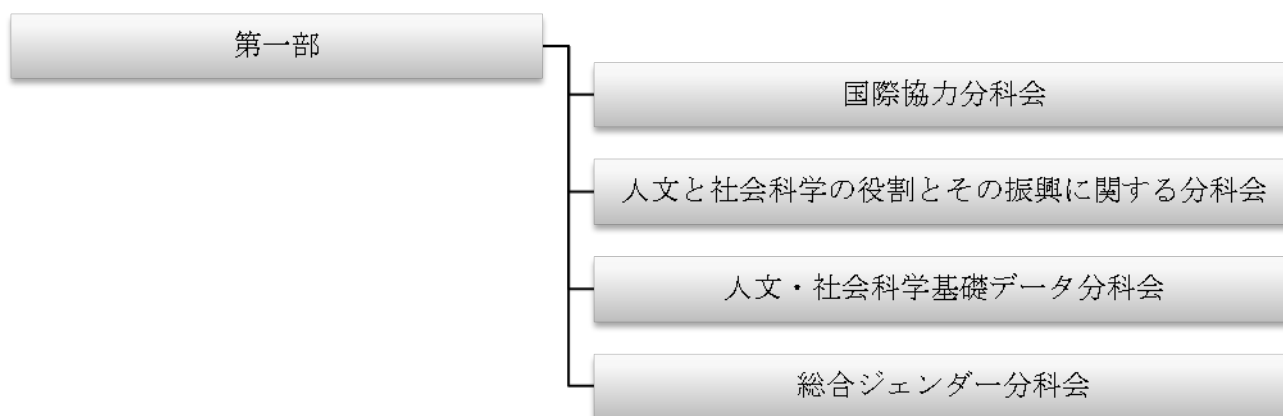
材料工学委員会（材料工学将来展開分科会）					
委員長	岸本 康夫	副委員長	尾崎 由紀子	幹事	大野 宗一
主な活動	審議内容				
	材料工学分野のデジタルトランスフォーメーションに関わる研究と今後の展開、及びカーボンニュートラルに向けた材料工学の将来展開について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	カーボンニュートラルに貢献する多様な革新材料開発に関し「報告」表出を検討中。				
	開催シンポジウム等				
	22年末に関連の専門部会等と連携し、カーボンニュートラルに向けた材料技術革新について公開シンポジウム開催を計画				
開催状況	第2回 令和3年12月27日実施。第3回委員会を10月以降に開催し、カーボンニュートラルへの寄与および産業分野でのデータ活用について議論予定。				

今後の課題等	材料工学における DX については産学間ギャップが課題であるため、今後はカーボンニュートラルに的を絞り、学の成果を社会実装する方策を議論する。
--------	---

材料工学委員会（新材料科学検討分科会）					
委員長	山口 周	副委員長	細野 秀雄	幹事	梅津 理恵、鈴木 淳史
主な活動	審議内容				
	境界領域に急速に興りつつある「新材料科学」の学問領域の将来展開について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「新材料科学」の学術活動の展開に向けた意思の表出について検討中				
	開催シンポジウム等				
	「新材料科学」の融合的発展に資するシンポジウム開催への協力（MRS-J 主催の MRM フォーラム 2021（令和 3 年 12 月 12/16 日）の共同企画（協賛））				
開催状況	第 8 回材料工学委員会（令和 4 年 4 月 22 日：リモート開催）との合同審議				
今後の課題等	MRM フォーラム 2022 の共同主催に向けた準備				

材料工学委員会（材料工学ロードマップのローリング委員会）					
委員長	筑本 知子	副委員長	石原 一彦	幹事	小出 康夫、中野 貴由
主な活動	審議内容				
	・材料工学に関する「科学・夢ロードマップ」を「社会のための材料工学」を発展させていくために、政策に反映させる取り組みを促進する。 ・25 期においては材料工学 10 領域のうち、デバイス材料分野および医療・バイオ材料分野のロードマップに焦点をあて、30 年後の未来に向けた夢・技術という視点でまとめる。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	デバイス材料分野および医療・バイオ材料分野のロードマップに関して提言等による意思の表出を検討中				
	開催シンポジウム等				
	令和 5 年前半にシンポジウム等の開催を予定				
開催状況	第 2 回（令和 4 年 1 月 31 日）				
今後の課題等	ロードマップの作成方針について、幅広い分野の提言への核になるような発想で、夢のある明るい未来を見据えたものとし、具体的にはバックキャスト、社会のペインの考慮、小中学生に対して夢を与えるものにすることとし、方針に従い内容の議論を行ない、見解又は報告等にまとめる。				

(9) 部が直接統括する分野別委員会合同分科会

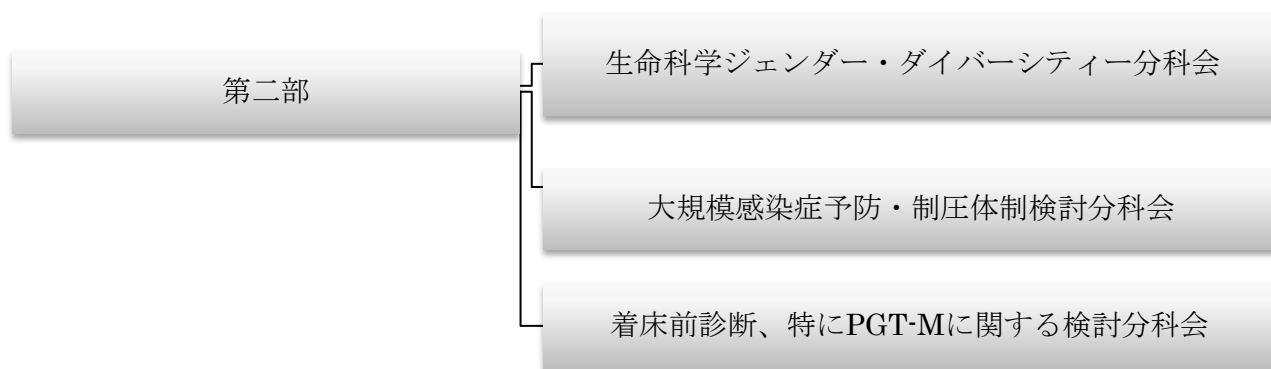


第一部（国際協力分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	町村 敬志	幹事	竹中 千春
主な活動	審議内容				
	加入している国際学術団体（AASREC、IFSSO）について、現在の状況を共有し、事務局の体制に諸般の問題がある IFSSO に対して、引き続きアプローチしていくことを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年12月24日に第2回を開催				
今後の課題等	IFSSO の状況が改善されない場合、新たに加入する人文・社会科学分野の国際学術団体を検討する必要がある。				

第一部（人文・社会科学基礎データ分科会）					
委員長	佐藤 嘉倫	副委員長	岡崎 哲二	幹事	矢野 桂司、久留島 典子
主な活動	審議内容				
	・ 人文・社会科学の活動を客観的に表す基礎データを収集して HP 上に公開する。 ・ 基礎データの取捨選択と収集を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	何らかの形で意思の表明を行うことを予定している。				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	令和3年12月20日、令和4年2月3日、4月8日、6月18日				

今後の課題等	日本の人文・社会科学の研究教育活動の水準を的確に表す基礎データを収集して、何らかの形で公開する。
--------	--

第一部（総合ジェンダー分科会）					
委員長	三尾 裕子	副委員長	原田 範行	幹事	岡部 美香、三浦 まり
主な活動	審議内容				
	今期の活動目標として、a)「中等教育におけるジェンダー平等教育」b)「タイトルナインと学校におけるジェンダー平等」の2つを策定した。 a)については、当事者を巻き込んだシンポジウムを5月に開催した。これを踏まえ、男女共同参画分科会（科学者委員会所属）のもとに、「ジェンダー教育の小委員会」が設置されることとなった。 b)については、実現のための環境整備に時間がかかると判断されたため、いったん中断している。 また、c)ジェンダーにかかわる豊かな文化について審議した。一般社会向けの啓蒙活動に向けて準備を行っている。 ・人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences - GEAHSS）と、必要に応じて連携して活動する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等——誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして——」（令和4年5月5日） ・ジェンダー文化論に関わる一般向けの公開シンポジウムを計画中（時期未定）				
開催状況	第6回（令和3年11月20日）、第7回（令和4年5月23日）				
今後の課題等	・c)に関するシンポジウムの開催。 ・難民教育について、ジェンダーの観点から審議議題として取り上げる可能性の模索。				



第二部（生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	名越 澄子	幹事	村山 美穂、熊谷 晋一郎
主な活動	審議内容				
	生命科学分野（医学、歯学、薬学、看護学、家政学、農学、理学）におけるジェンダー・ダイバーシティの現状を整理し、その課題解決に向けて審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」（オンライン開催） ・第1回「大学における女性リーダーから見た課題と展望」令和3年10月28日 ・第2回「第2回「大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」令和3年12月19日 ・第3回「Disability Inclusive Academia：障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」令和4年3月23日 公開シンポジウム「歯学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー ～課題と展望について～」令和4年1月13日				
開催状況	令和3年10月28日（オンライン開催） 令和4年5月23日（オンライン開催）				
今後の課題等	・生命科学分野のジェンダー・ダイバーシティに関する課題解決に向けて、さらに議論を行う。 ・連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」の記録を作成する。 ・「学協会のあり方に関する検討小委員会」において、生命科学系学協会の実態調査を行い、そこから導かれる課題を抽出し、課題解決の方策について議論する。				

第二部（大規模感染症予防・制圧体制検討分科会）					
委員長	秋葉 澄伯	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				

	令和3年10月以降、ほぼ二カ月月に一度の頻度で分科会を開催した。昨年次に引き続き、感染症サーベイランス、国際ネットワークの確立、医療とその体制などを中心的なテーマとして取り上げ、議論を行ってきた。また、分科会に、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策・AIシミュレーション検討会議の先生をお招きし、シミュレーションに基づく新型コロナウイルス感染症流行予測などの情報を我々と共有していただくとともに、様々な分野の専門家・行政担当者などをお招きし、講演を行っていただいた。分科会での講演は録画され、(講演者の許可を得られた場合)、分科会のHPで一般市民がアクセス可能な状態で公開されている。 これらの活動と並行して、致死率・感染力が特に高い感染症がわが国に入ってきた時に感染予防対策を検討し、見解を作成しつつある。なお、感染症パンデミックに関する意思の発出に関しては、「パンデミックと社会に関する連絡会議」が調整を行っている。当分科会は他の分科会等が作成を進めている意思の発出の内容と重複しないように当分科会の見解案を改訂するとともに、連絡会議の中の関連のワーキンググループの意見を聴くなどした上で案を完成させる予定である。また、感染症対策に当たる医療関係者の養成に関しても報告等を作成すべく準備を進めている。 以上の活動のほか、日本学術会議内部(例えば、第二部武田部長)からの問い合わせに応じて、助言等を行うとともに、また、第二部が開催する学術フォーラム・市民公開シンポジウムなど企画・運営のサポートを行っている。 意思の表出(※見込み含む) 高リスク感染症対策に関する見解、感染症対策に必要な人材の養成などに関する報告を作成する予定。 開催シンポジウム等 なし
開催状況	第12回分科会(令和3年10月19日) 第13回分科会(令和3年12月13日) 第14回分科会(令和4年2月18日) 第15回分科会(令和4年3月22日) 第16回分科会(令和4年4月26日) 第17回分科会(令和4年6月21日)
今後の課題等	COVID-19の流行により国内外の感染症対策は格段に改善された。しかし、日本学術会議第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会の提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」、日本学術会議第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会と情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会の提言「感染症対策と社会変革に向けたICT基盤強化とデジタル変革の推進」でも指摘されたように、検疫、患者・感染者の同定・追跡に関する情報収集、オープンサイエンス、ワクチン対策などに関して、様々な問題がある。今後、感染症危機に対応する司令塔的な組織が内閣官房に設置されると報道されており、そのような組織が設置されれば、我々が指摘した問題点も改善されることが期待される。 一方で、COVID-19よりもはるかに致死率が高い感染症への備えが十分か、検討

	が必要と思われる。本文書では、特に高い健康リスクを持ち、地域の公衆衛生に重大な影響を与え、その流行拡大阻止に地域の封鎖などを含む感染症対策を必要とするヒト感染症への対応に関して現状を分析し、抽出された問題点を検討する必要があると考える（それを基に見解案を作成する予定）。 前述の当分科会提言で、感染症対策にあたる人材を養成する必要性が指摘された。今期、微生物学、公衆衛生、臨床医学、看護学、薬学をはじめとする関連分野で必要とされる感染症の基礎的研究、応用・実践に関する研究及びそれぞれの分野での専門家等の養成、感染症対策の実務（企画、立案、実践を含む）を担当する者の養成・研修などに関して、報告案を作成する予定である（既に骨格の文章は作成済み）。 今後、新たな問題・課題も出現すると思われる。特に、ワクチン忌避・躊躇の問題、変異株への対応、ポストコロナを見据えた社会システムの構築などが重要と思われる。パンデミックと社会に関する連絡会議と連絡を密にし、第一部、第三部との連携をさらに強めながら、今後の活動を進めたい。
--	---

第二部（着床前診断、特に PGT-M に関する検討分科会）					
委員長	藤井 知行	副委員長	水野 紀子	幹事	杉浦 真弓
主な活動	審議内容				
	着床前診断-Preimplantation Genetic Testing (PGT)、特に PGT for Monogenic (PGT-M: 重篤な遺伝性疾患を対象とした検査) に対し、わが国において実効性を担保する規制や管理を行うことの要否やその際の課題などについて、分野横断的に検討を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今年度中に見解を発出予定				
	開催シンポジウム等				
	令和4年8月20日に委員長が二部夏季部会で話題提供として PGT と生命倫理について講演。また 11 月 26 日に、ヒトゲノム編集委員会と合同学術フォーラムを実施予定。				
開催状況	令和4年度は5月30日、9月7日に2回会議を web で実施し、PGT-M が包含する倫理的問題点を洗い出し、規制をすることが必要であるとの合意が得られている。				
今後の課題等	今後は、規制を行う場合の方式、その内容について検討する予定である、				

第三部（理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）					
委員長	野尻 美保子	副委員長	玉田 薫	幹事	伊藤 貴之
主な活動	審議内容				
	理工学におけるジェンダー・ダイバーシティの問題を取り扱うが、今年度は特に初等中等教育におけるジェンダーギャップを解消するために取り得る施策について見解を発出するための審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「初等中等教育における理数教育に望まれるジェンダー・ダイバーシティの視点」				
	開催シンポジウム等				
	令和4年5月5日公開シンポジウム「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等——誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして——」				
開催状況	令和3年12月22日 第5回 公開シンポジウムの審議 令和4年3月29日 第6回 見解についての審議 ・初等中等教育における理数教育に望まれるジェンダーの視点と、大学、企業の役割小委員会 令和3年12月14日 第1回 話題提供（大学における女子対象の取り組み ICT） 令和3年12月27日 第2回 話題提供（学校教育での課題） 令和4年3月10日 第3回 見解作成についての審議 令和4年3月29日 第4回 見解についての審議 令和4年8月30日 第5回 見解案についての意見交換				
今後の課題等	見解の作成				

(10) 地区会議

北海道地区会議

東北地区会議

関東地区会議

中部地区会議

近畿地区会議

中国・四国地区会議

九州・沖縄地区会議

北海道地区会議		代表幹事	但野 茂
主な活動	審議内容		
	・ 令和４年度事業計画について ・ 日本学術会議学術講演会について ・ 日本学術会議サイエンスカフェの実施について など		
	開催シンポジウム等		
	・ 令和３年 11 月 3 日に学術講演会「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けてー記録・国際協力・情報技術ー」をオンラインで開催し、75 名が参加した。 ・ 令和４年 3 月 2 日に「気づける不思議、見逃す仕組み～認知心理学から広告を読み解く～」のテーマのもと、北海道地区会議サイエンスカフェを三省堂書店札幌店で開催し、12 名が参加した。 ・ 令和４年 3 月に地区会議ニュース（NO. 52）を発行し、学術講演会概要及び地区会議の活動報告等を掲載した。		
開催状況	運営協議会：令和４年 3 月 1 日（メール）、6 月 9 日（オンライン開催）		
今後の課題等	学術講演会等において地区会議の活動を一般市民に広報し、日本学術会議の活動についてさらに周知を図っていく。		

東北地区会議		代表幹事	佐藤 嘉倫
主な活動	審議内容		
	東北地区における研究者の連携を強化し、研究教育活動を支援するために公開学術講演会や科学者との懇談会を開催する。		
	開催シンポジウム等		
	・公開学術講演会「積雪・寒冷地における暮らしのこれまでとこれからー持続可能な発展のための冰雪圏からの視座ー」（令和4年11月5日開催予定、ハイブリッド形式） ・幹事会懇談会「ニュー・ノーマル時代の研究教育の在り方」（令和4年11月5日開催予定、ハイブリッド形式）		
開催状況	令和4年3月1日（運営協議会）		
今後の課題等	公開学術講演会や科学者との懇談会等を通じて日本学術会議と東北地区の研究者の連携を促進する。		

関東地区会議		代表幹事	有田 伸
主な活動	審議内容		
	関東地区の学術会議関係者と大学・研究機関との連携並びに関東地区における地方学術会議の開催可能性に関して審議を行った。		
	開催シンポジウム等		
	なし		
開催状況	令和4年6月21日、7月20日（いずれも運営協議会、オンライン開催）		
今後の課題等	令和5年2月に関東地区において地方学術会議を開催予定である。		

中部地区会議		代表幹事	池田 素子
主な活動	審議内容		
	令和3年度第2回協議会では、長野県の運営協議会委員の後任の補充について審議するとともに、令和4年度事業実施計画について確認した。 令和4年度第1回協議会では、令和5年度の地区会議開催持ち回り順として、春は福井県、秋は静岡県が担当することを決定した。また、地区会議ニュースの掲載内容について審議した。		
	開催シンポジウム等		
	・学術講演会「SDGsに向けた大学の取り組み」（令和3年12月25日、名古屋大学・オンライン）を開催。 ・学術講演会「環境教育・環境研究を通じた地域貢献」（令和4年7月8日、信州大学・オンライン）を開催。 ・令和3年10月に中部地区会議ニュース（No.150）を発行。 ・令和4年5月に中部地区会議ニュース（No.151）を発行。		

開催状況	令和3年12月25日（名古屋大学、オンライン開催） 令和4年7月8日（信州大学、オンライン開催）
今後の課題等	令和4年12月9日に、運営協議会及び学術講演会を三重県（三重大学）で開催する予定である。

近畿地区会議		代表幹事	小山田 耕二
主な活動	審議内容		
	日本学術会議会員、連携会員とともに、近畿地区独自の学術文化懇談会との協働体制に基づく活動によって、一般市民の方々にも日本学術会議のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただく機会とするために、学術講演会のテーマについての審議、および近畿地区の学術会議関係者と大学・研究機関との連携についての議論を行なっている。		
	開催シンポジウム等		
	本年は、学術講演会のテーマとして幾つか提案されたものの中から、次代を担う人材育成を構想するきっかけとして、「総合知をはぐくむ学び」を企画した。		
開催状況	・令和4年2月24日に近畿地区会議運営協議会と学術文化懇談会を合同で開催した。 ・当該年度の運営方針や学術講演会テーマを審議した。 ・総合工学委員会と合同で講演会「総合知を育む教育」に関する講演会（令和4年9月19日開催）を企画・実施した。		
今後の課題等	今回の学術講演会のテーマでは、総合知と関係することより、総合工学委員会と連携して企画・立案を行った。課題別委員会や分野別委員会との連携のあり方について、日本学術会議会員、連携会員とともに議論を深め、よりよい企画立案方法を検討していきたい。		

中国・四国地区会議		代表幹事	相田 美砂子
主な活動	審議内容		
	運営協議会		
	第1回：中国・四国地区会議主催の令和4年度公開学術講演会／地区ニュース No. 53 の内容／「学術の動向」への投稿について審議。（学術講演会は令和4年11月26日に香川大学にて開催予定。地区ニュース No. 53 は令和4年3月に発行。令和3年8月に主催した公開シンポジウムの報告記事を「学術の動向」令和4年3月号に掲載。）		
	第2回：令和3年度事業報告と令和4年度事業計画について審議。公開学術講演会をハイブリッドで開催することを承認。		
	開催シンポジウム等		
	令和4年11月26日学術講演会「VUCA 時代における諸課題への分野横断的アプローチ」（香川大学にて開催（ハイブリッド）予定）		

開催状況	運営協議会： 第1回 令和3年12月10日（オンライン開催） 第2回 令和4年3月11日（オンライン開催）
今後の課題等	中国・四国地方が本来もつ多様性を生かし、日本学術会議という横断的なつながりを活用して、多くの活動をより効果的につなげていく。

九州・沖縄地区会議		代表幹事	玉田 薫
主な活動	審議内容		
	・令和3年11月 運営協議会（書面会議）：地方学術会議「日本学術会議 in 福岡」の実施概要（案）に関する審議 ・令和4年3月 運営協議会（書面会議）：令和3年度の事業報告（案）、令和4年度の事業計画（案）に関する審議 ・令和4年6月 運営協議会（書面会議）：令和4年度上半期の科学者懇談会及び学術講演会実施概要（案）に関する審議		
	開催シンポジウム等		
	【学術講演会および地方学術会議の開催】 ・令和3年11月1日に大分大学との共催による学術講演会「持続可能な地域の強靱化と将来空間像ー防災・減災対策の次なるステージを目指してー」をオンラインで開催した。約100名の参加者を得て盛況のうちに終了した。 ・令和4年2月23日には地方学術会議「日本学術会議 in 福岡」をオンラインで開催した。幹事会懇談会では、九州大学総長をはじめとする地元科学者及び地元産業界関係者が出席し意見交換を行った。学術講演会「若手研究者が考える地方創生と学術の未来」では、約210名の参加者を得、盛会裏に終了した。 ・令和4年3月に「九州・沖縄地区ニュース第120号」を発行し、令和3年度に開催した上記会議の概要並びに地区会議の活動報告等を掲載した。		
開催状況	【運営協議会】令和3年11月、令和4年3月、6月（いずれも書面回議） 【学術講演会】令和3年11月、令和4年2月（オンライン開催） 【地方学術会議】令和4年2月（オンライン開催）		
今後の課題等	【科学者懇談会・学術講演会】令和4年10月13日に琉球大学との共催で開催予定である。また、下半期には佐賀大学でも開催予定である。		

(11) 若手アカデミー



若手アカデミー					
委員長	岩崎 渉	副委員長	安田 仁奈	幹事	小野 悠、松中 学
主な活動	審議内容				
	・分科会ごとの集中した審議や活動をもとに、若手科学者をとりまく様々な側面にわたる状況やそれらの関係性について議論した。 ・第25期若手アカデミー・ビジョン及び意思の表出に関する議論を行った。 ・日本政府観光局、イノベーション人材育成に関する有識者、シチズンサイエンスに関する有識者と意見交換および議論を行った。 ・若手科学者ネットワーク運営要領を廃止した。 ・第25期及び第26期に向けた若手アカデミーの活動について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	現在と将来の若手科学者を取り巻く問題に関する意思の表出を予定している。
	開催シンポジウム等
	・令和4年3月1日公開シンポジウム「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える～宇宙×都市×遺伝子×生態～」(越境する若手科学者分科会主導) https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/321-s-0301.html ・令和4年6月12～17日グローバルヤングアカデミー総会・学会(GYA 総会分科会主導、日本学術会議及びグローバルヤングアカデミーの共同主催) https://gya2022.com/index.html ・令和4年9月5日公開シンポジウム「那須地域から考える 20 年後の日本社会ー共領域におけるイノベーション創出と地方創生ー」(地域活性化に向けた社会連携分科会・イノベーションに向けた社会連携分科会主導) https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/327-s-0905.html
開催状況	令和3年12月10日、令和4年9月6日 (いずれもハイブリッド開催)
今後の課題等	・サイエンスアゴラにおいて、公開シンポジウム「サイエンスアゴラ 2022 セッション『世界科学フォーラムinケープタウン：社会正義と未来への科学』」を JST と共同主催する。 ・世界科学フォーラムにおいて、「Enhancing social justice and well-being via public goods: where does science fit-in?」のセッションを JST と共同主催する。 ・意思の表出に向けてさらに議論を深めるとともに、次期においても連続性のある活動ができるように活動基盤の整備を行う。

若手アカデミー (運営分科会)					
委員長	岩崎 渉	副委員長	安田 仁奈	幹事	小野 悠、松中 学
主な活動	審議内容				
	・公開シンポジウム「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える～宇宙×都市×遺伝子×生態～」、公開シンポジウム「那須地域から考える 20 年後の日本社会ー共領域におけるイノベーション創出と地方創生ー」、公開シンポジウム「若手研究者をとりまく評価ー調査結果報告と論点整理ー」、公開シンポジウム「サイエンスアゴラ 2022 セッション『世界科学フォーラム in ケープタウン：社会正義と未来への科学』」の主催について、それぞれ審議を行い、承認した。 ・若手アカデミーからの意思の表出に向けた活動を行うことについて審議を行い、承認した。 ・新産業共創プロセスに関する有識者から意見を聴取し、議論した。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	令和4年1月5日、6月21日、8月19日、8月29日（以上メール会議） 令和4年3月23日（ハイブリッド会議）
今後の課題等	若手アカデミー及び各分科会の活動を効果的に行うため、リーダーシップをとりつつ迅速に審議・意思決定を行う。

若手アカデミー（学術の未来を担う人材育成分科会）					
委員長	平田 佐智子	副委員長	土屋 太祐	幹事	森 章
主な活動	審議内容				
	・学術界の未来を担う大学院生、ならびに人材育成の場である大学・研究機関の現状把握を行った。 ・大学院生・研究者支援に関わる機関との連携可能性について議論した。 ・若手研究者のキャリア多様性の提供に必要な情報、枠組みについて議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし（令和5年2月8日に非公式に文部科学省との意見交換を実施予定）				
今後の課題等	大学院生の支援を行う関係機関と連携し、効果的な情報発信・施策遂行を推進する。				

若手アカデミー（学術界の業界体質改善分科会）					
委員長	川口 慎介	副委員長	岩永 理恵	幹事	埴淵 知哉
主な活動	審議内容				
	・内閣府から日本学術会議への研究力に関する審議依頼について、若手アカデミーでの意見を収集し議論を進め、コアメンバーワーキンググループと共有した。 ・国内の学術出版のあり方など学協会活動について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和4年9月20日（オンライン開催）				
今後の課題等	2020年代の技術に即した効果的で効率的な学術界運営のあり方の提案を行う。				

若手アカデミー（越境する若手科学者分科会）					
委員長	石川 麻乃	副委員長	南澤 孝太	幹事	今田 晋亮、相馬 雅代
主な活動	審議内容				

	・異分野の若手研究者間での融合研究や新規技術を用いた市民との交流を実践するため、5つの融合研究テーマ（水環境と都市工学、未来のために必要な新規物質の開発、2021年のSFプロトタイピング、社会正義とサイエンティフィックデザイン、コミュニケーションの根源）に分かれて、具体的な実践に向けた議論を進めた。 ・「水環境と都市工学」グループでは令和4年3月1日に公開シンポジウム「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える：宇宙×生態×遺伝子×都市」をオンラインで開催し、300名超の参加者を得た。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	令和4年3月1日に公開シンポジウム「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える：宇宙×生態×遺伝子×都市」を開催した。
	https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/321-s-0301.html
開催状況	令和3年12月10日（オンライン開催）
今後の課題等	各テーマについて引き続き、具体的な実践に向けた議論を進めるとともに、シンポジウム等で挙げた研究・調査・社会実装アイデアについて取り組み、継続した議論の場づくり、社会への発信、教育・科学政策への展開を検討する。

若手アカデミー（国際分科会）					
委員長	入江 直樹	副委員長	田中 和哉	幹事	相馬 雅代、寺田 佐恵子
主な活動	審議内容				
	日本の若手科学者による国際会議等での発信を強化するための課題と方策、また、国際情勢の急激な変化の中で国際的な学術交流を維持及び推進していくための課題と方策について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・第21回アジア学術会議（令和4年3月）に委員を派遣した。 ・日本学術会議全体による「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」の普及のための企画や活動に貢献した。				
開催状況	令和3年12月10日、令和4年4月20日、7月30日、9月17日（いずれもオンライン開催）				
今後の課題等	国際的な学術交流の推進について、既存の大規模調査の結果等に基づき、情報収集と分析を進め、若手アカデミーの意思の表出に向けて取りまとめていく必要がある。				

若手アカデミー（地域活性化に向けた社会連携分科会）					
委員長	加藤 千尋	副委員長	高槻 泰郎	幹事	近藤 康久、寺田 佐恵子
主な活動	審議内容				
	・地域社会との連携を含む研究者の様々な役割の可視化について情報収集や議論を重ね、全国の若手研究者を対象としたアンケート調査を実施した。また、その結果について議論した。 ・高校・大学・地域の連携の在り方、アカデミックインターンについて意見交換を行った。 ・イノベーション創出と地域活性化の関連について意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・令和4年2月23日 学術講演会「若手研究者が考える地方創生と学術の未来」（地方学術会議 in 福岡にて開催） https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/318-s-0223.html ・令和4年6月7日～7月5日「若手研究者をとりまく評価に関する意識調査」 ・令和4年6月22日～7月30日パネル展示「高校生による高校生のための金融教育に向けた取り組み」 ・令和4年9月5日公開シンポジウム「那須地域から考える20年後の日本社会ー共領域におけるイノベーション創出と地方創生ー」 https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/327-s-0905.html				
開催状況	令和3年12月10日、令和4年3月25日、8月23日（いずれもオンライン開催）				
今後の課題等	これまでのイベントや議論を踏まえ、科学者／大学等の関係機関と地域社会が持続可能な形で連携していくには何が必要か、継続して検討を進める。				

若手アカデミー（イノベーションに向けた社会連携分科会）					
委員長	高瀬 堅吉	副委員長	田中 和哉	幹事	遠藤 良輔、山川 みやえ
主な活動	審議内容				
	・イノベーションの基盤となる人材多様性の確保について議論した。 ・イノベーション人材を育成する教育環境の改善について参考人を招聘し、話題提供を得た上で意見交換を行った。 ・超領域的社会課題を解決するインタプレナーへの支援を柱とした「イノベーション人材の育成を促進する中長期的リモデリング戦略」について参考人を招聘し、話題提供を得た上で意見交換を行った。 ・イノベーション創出による地方創生の達成について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	若手アカデミーとして見解を発出予定。				
	開催シンポジウム等				

	令和4年9月5日公開シンポジウム「那須地域から考える20年後の日本社会－共 領域におけるイノベーション創出と地方創生－」 https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/327-s-0905.html
開催状況	令和3年12月10日、令和4年1月18日、3月23日、5月30日（令和4年3月 23日は運営分科会と合同でハイブリッド開催。その他は、いずれもオンライン開 催。）
今後の課題等	これまでの議論やイベントを踏まえ、見解の発出に向けて継続して議論を進める。

若手アカデミー（GYA 総会国内組織分科会）					
委員長	新福 洋子	副委員長	岸村 顕広	幹事	岩崎 渉、安田 仁奈
主な活動	審議内容				
	・令和4年6月12～17日に第12回GYA総会・学会をハイブリッドで開催した（開 催地：九州大学）。 ・GYAから発出する学会声明文について、コメントを行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・令和4年6月12～17日グローバルヤングアカデミー総会・学会（GYA 総会分科 会主導、日本学術会議及びグローバルヤングアカデミーの共同主催） https://gya2022.com/index.html				
開催状況	令和4年1月5日、6月1日、8月25日（いずれもオンライン開催）				
今後の課題等	分科会としての目的を達したため、令和4年9月末にて分科会を設置終了した。				

若手アカデミー（情報発信分科会）					
委員長	高田 知実	副委員長	谷内江 望	幹事	南澤 孝太
主な活動	審議内容				
	・若手アカデミーとしての情報発信を目的とし、公式ウェブサイトの内容を見直 し、改革を進めた。 ・外部機関と連携し、若手アカデミーのメンバーによる学術研究の発信を促進し た。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和3年12月10日（オンライン開催）				
今後の課題等	学術研究発信に関するアウトリーチ活動の活性化を行う必要がある。				